

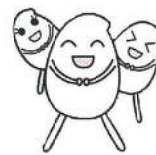
平成26年度
岡山市E S D・ユネスコスクール推進校

研究集録

「人・社会・自然など自分とのつながりに関心を持ち、
主体的に関わろうとする子どもの育成」
～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～



岡山市立第三藤田小学校



目 次

1	はじめに	1
2	研究計画	2
3	研究概要	3
4	6年間のプロジェクトデザイン	9
5	生活科・総合的な学習の時間で育みたい力	10
6	聞く・話す力の系統表	11
7	授業実践	
	○生活科の授業実践	
	1年生 生活科「いっしょにあそぼう」	13
	2年生 生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」	23
	○クロスカリキュラムによる授業実践	
	●食に関する指導	
	3年生 総合的な学習「三藤のお宝をさがそう ～三藤のお宝発見!～」	29
	5年生 総合的な学習「プロジェクト八十八 ～20年後の藤田の米作りについて考えよう～」	41
	●国語	
	5年生 国語「すいせんします」	50
	●道徳	
	6年生 道徳「今、私たちにできること」	54
	4年生総合的な学習の時間単元構想・ESDカレンダー	59
	○初任者研修の授業実践	
	4年生 国語「ごんぎつね」	61
	6年生 学級活動「メディアと健康」	65
8	評価規準	68
9	ESDに関するユネスコ世界会議サイドイベント児童発表(6年)	70
10	ユネスコスクール全国大会 テーマ別交流会発表	81
11	研究のまとめ	89
12	おわりに	91

はじめに

平成23年度に藤田中学校区4校は、岡山市地域協働学校に指定され、はや4年が終わろうとしています。地域協働学校に指定される時期を前後して、藤田中学校区ではESDを視点とした「岡山型一貫教育」の研究開発にも取り組んでまいりました。

そのような中、平成26年度は11月に「ESDに関するユネスコ世界会議」が岡山市で開催されましたが、本校もそのサイドイベントにて研究成果の一端を検証する貴重な機会を与えていただきました。衷心より感謝いたしております。

当日は、日本全国のESD関係者はもとより世界各国の多数の皆様方にご傾聴いただき、本校の実践についてご協議・ご助言をいただくことが出来ました。さらに、翌日の第6回ユネスコスクール全国大会（テーマ別交流会）では、事例発表・研究協議にも臨み、これまでの本校の研究のあゆみを検証・提言しつつ、今後の研究の指針をいただくこともできました。偏に、岡山大学大学院教育学研究科 ESD協働推進室教授 川田 力 先生並びにコーディネーター 柴川 弘子 先生をはじめとし、岡山市教育委員会指導課の先生方に研究の様々な場面で貴重なご助言・ご指導をいただいた賜と、感謝しております。

そのような研究の一端をまとめさせていただいたものが、本小冊子です。

ESDの視点に立った学習指導といえは、教科・領域を越えての、いわゆるクロスカリキュラムにおける位置づけでの実践がよく見受けられますが、本校ではその位置づけを「教科指導（総合的な学習の時間）における、育みたい態度・能力」として研究・授業実践をしてまいりました。様々な教科や領域で「習得した学力」を、総合的な学習の時間という「探求」の場で、「活用させていく」という「習得と探求・活用」のサイクルで捉えました。低学年の生活科にも当てはめて、研究を進めてきたところです。

さらに、一つの学年の一つの学習（単元）でのみ完結させるのではなく、小学校6年間を通じてのプロジェクトとして授業デザインをしてまいりました。それは、「いのちの学習」という大きなテーマの下、「宝物プロジェクト」と「幸せプロジェクト」でデザインすることで、「様々なつながりの中から自分を見つめ直し、生き方を考えていくことのできる子ども」をめざしています。

平成32年度を目標に新学習指導要領の施行が計画されるなか、キーワード「アクティブラーニング」が中教審の諮問の中に挙げられています。諮問での解説には、「課題の発見と解決に向けての主体的・協働的に学ぶ学習」のことと述べられています。

さらに、「何事にも主体的に取り組もうとする意欲や多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力、さらには豊かな感性や優しさ、思いやりなどの豊かな人間性の育成」をめざすとされ、まさに本校が求め、実践している授業と方向性を一にするものと確信しているところです。

今後も藤田地区では、保育園・小学校・中学校さらに県立高等学校との連携も大切にしながら、校種・教科を超えての授業公開や研究協議を行うことで、「学びの連続性」を大切にしながら、「岡山型一貫教育」を推進するべくESDの視点に立った教育活動を中心にすえ、中学校区協働で研究をさらに深化させていきたいと考えています。

最後になりましたが、岡山市ESD世界会議推進局の皆様方にも大変お世話になりました。今後とも、ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成27年3月

岡山市立第三藤田小学校長 矢 吹 憲 策

平成26年度 校園内研究の計画

岡山市立	第三藤田	小学校
校園長名	矢吹 憲策	

中学校区の研究主題	学校園の研究主題
つながり 感じ 高める 子の育成をめざして	人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的に関わろうとする子どもの育成 ～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～
校園内研究の研究計画、内容	
<計画> 4月 研究の進め方についての提案 ESDについての研修 藤田地区ESD連絡会（中学校区の研究の進め方について協議） 5月 学習についてのアンケート1回目 藤田地区3小学校担任打合せ 教材研究 単元構想の見直し 6月 教材研究 指導案検討 研究授業 7月 藤田中学校研修会参加 教材研究 指導案検討 研究授業 7～8月 生活科年間計画見直し 教材研究 指導案検討 「聞く・話す力」の系統表作成 食に関する指導の全体計画及び年間計画見直し 藤田中学校区合同研修会 9月 教材研究 指導案検討 研究授業 10月 教材研究 指導案検討 研究授業 第一藤田小研修会参加 11月 教材研究 指導案検討 研究授業 生活科研究発表会 12月 学習についてのアンケート2回目 教材研究 指導案検討 研究授業 1月 教材研究 指導案検討 研究授業 食育研究発表会 2月 各種年間計画の見直し 藤田地区実践発表会 研究のまとめ作成 3月 学習に関するアンケート3回目 来年度の研究について <内容> 本校では平成23年度にESD・ユネスコスクールの指定を受け、中学校区でめざす子ども像を設定して、生活科および総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきた。本年度も引き続き上の主題で研究を進めていく。 これまで藤田中学校区3校の小学校では各学年のテーマを設定し、それぞれ単元構想図、ESDカレンダー「育みたい力」の系統表を作成し、研究に取り組んできた。今年度は縦と横の系統をもたせ、藤田中学校区9年間の「育みたい力」の系統表を作成し、取り組んでいきたい。 また、昨年度の反省から、「各教科で培うべき力が十分についていないため、活用するまでには至っていない」という課題が明確になった。そこで今年度は、実践を通し、次の点について研究を進めることとした。 ・児童に「学習についてのアンケート」を実施し、「コミュニケーション力」について児童の実態を把握する。学期に1回ずつ行うことで、どの力が伸びたかを検証する。 ・国語を中心に、「聞くこと・話すこと」で培いたい力の系統表を作成し、それを意識して授業を進めることで、コミュニケーション力を育てる。 ・授業研究を通して、各教科とのつながりを意識した授業作りについて研究を深める。 ・中学校区の合同研修会に参加しあうことで研究を深め、「育みたい力」の縦と横の系統考えていく。	

項目	○	項目	○	項目	○
幼児理解		特別活動		危機管理・安全指導	
環境の構成		情報教育		マネジメント	
コミュニケーション力		特別支援教育		岡山型一貫教育	○
思考力・判断力・表現力の育成		教育相談		地域協働学校	
学ぶ意欲の向上		キャリア教育		ESD	○
道徳教育		人権教育			
総合的な学習の時間	○	福祉教育			
小学校外国語活動		健康教育・食育	○		

研究対象の教科(小・中のみ○、複数回答可)

全教科	国語	社会	算数/数学	理科	生活	音楽	図工/美術	技術・家庭	保健体育	外国語(中)
					○					

指定等

年度	指定・主催	規模	教科等	会の名称
H23～	市教委	市	総合的な学習の時間	ユネスコスクール推進校
H26	小教研	ブロック	その他	食育
H26	小教研	市	生活	

研究の概要

<研究主題>

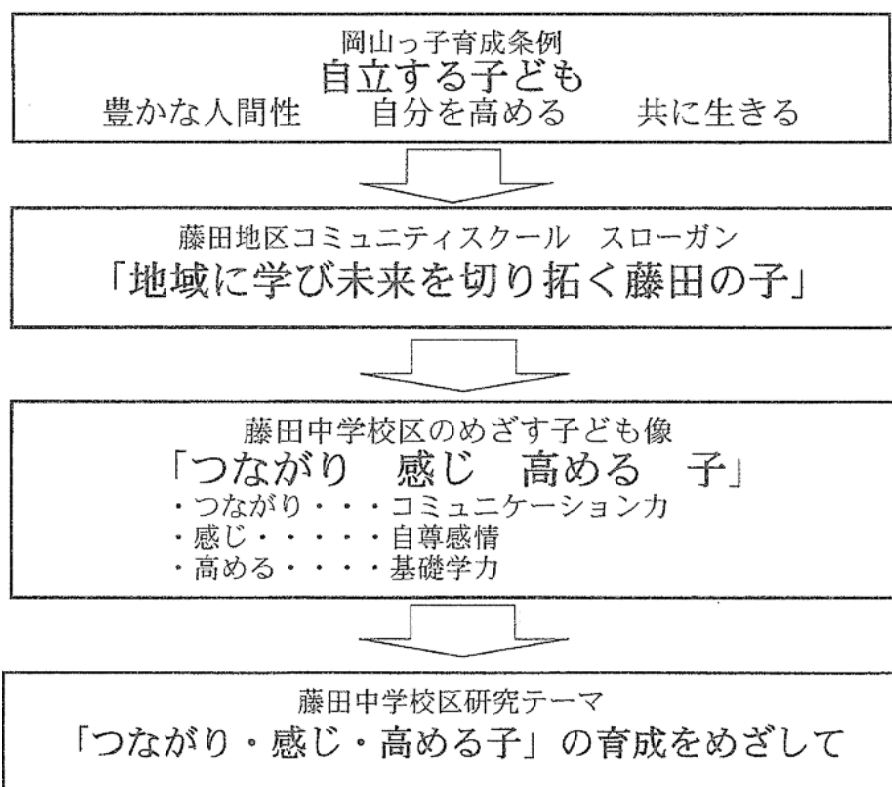
「人・社会・自然など自分とのつながりに関心を持ち、
主体的に関わろうとする子どもの育成」

～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～

1 主題設定の理由

(1) 藤田地区ESDの概要

藤田地区のESD活動は、2008年に岡山市環境保全課と藤田公民館からの呼びかけで、藤田地区ESD連絡協議会が発足したのがはじまりである。その後、各校の総合的な学習の時間の年間計画について情報交換し、中学校区共通のめざす子ども像やテーマを決めて取り組んできた。さらに一昨年コミュニティスクールの指定を受け、地域の方の思いや願いをとり入れたスローガンを設定し、取り組んでいる。



<藤田地区3小学校共通認識>

学年	共通テーマ	めざす子ども像（もたせたい考え）
3年	藤田のお宝をさがそう	藤田にはいいところやすごい人がいることに気づくことができる。
4年	ゴミって何？	人や自然を大切にする思いをもつことができる。
5年	藤田に農業は必要か？	藤田に愛着や誇りをもつことができる。
6年	幸せって何？	多様な価値観を知り、自分の生活を振り返ることができる。

（２）藤田地区の現状と児童の実態

藤田地区は岡山市の南西部、明治時代に児島湾の干拓によって造成された農業地域である。稲作はもちろん、玉ねぎ・れんこん・なす・レタスなど野菜の栽培も盛んである。大変な苦勞をして干拓地を農地に開拓してきた歴史があり、地域の方々の郷土への愛着や学校に対する思いは大変強い。しかし近年では、高齢化が進み、商業施設の立地や宅地開発など農地の非農業土地利用化が進んできている。

子どもたちは、藤田の特色について尋ねられるとすぐに、農作物や自然を例にあげるが、地域の農業や自然に対する関心は薄い。また、本校は小規模校でクラス替えがないため、子どもたちにとって新しい人間関係を築くことは苦手である。そのため、学校内では主体的に活動することができるが、一歩外へ出ると、自分に自信がもてない子どもたちも多い。

（３）研究主題について

★地域の現状

- 地域への思いの強さ
- 地域の方のたゆまぬ努力や工夫
- △農業問題
- △高齢化と少子化

★児童の実態

- 素直なおおらか
- 家の手伝いがよくできている
- 与えられた課題にきちんと取り組もうとする
- △自分で計画を立てて学習をするのが苦手
- △地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が薄い
- △地域の行事への参加が少ない

E S D の視点に立った教育活動

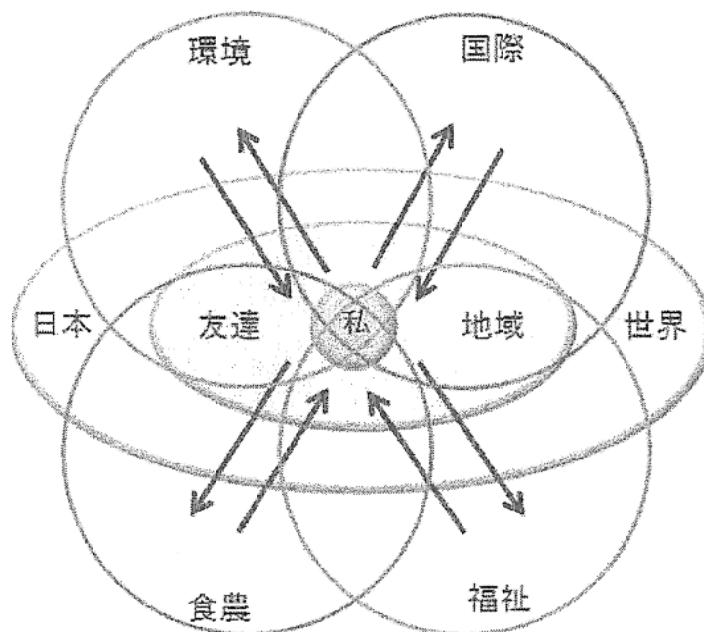
地域に学び、未来を切り拓く子
↓
持続発展可能な社会づくりの担い手

地域の方々が開拓し守ってきたこの藤田を、持続発展可能な地域としていくためには、藤田のよさをよく知り、藤田を愛する人を育てると同時に、E S D の視点に立った教育の推進が必要である。教科や総合的な学習の時間の目標や学習内容を、持続可能な社会作りの構成概念である「多様性・相互性・有限性・公平性・連携性」の6つの要素に、本校独自の「郷土愛」を加えた7つの要素に基づいて捉えた上で単元構想を設計し、実践することにより、E S D の視点に立った学習指導の展開が可能になると考えた。子どもたちは、この藤田の自然に囲まれ、地域の方々に支えられて生活している。「持続発展可能な社会づくりの担い手を育む」教育活動を行うことが、郷土を愛し、さまざまな「つながり」に気づき、自分を振り返ることができる子どもを育てることにつながると考え、本主題を設定した。

2 研究内容

(1) キーワードは「つながり」

本校の研究主題にある「つながり」とは、環境、社会、経済などの現代社会の問題を、一人ひとりが自らの課題として捉え、すべてのことは今の自分の生活とつながっていることに気づくことである。そしてその課題に対して、今の自分にできることは何かを考え、実践していく中で、自分の生活を振り返ったり、自分の生き方について考えたりすることが、持続発展可能な社会をつくることにつながっていくと考えた。



(2) 5 つのつながり

社会や自然などとのつながり

「人」「社会」「自然」など、現代社会の課題について追求していく中で、すべてのことは今の自分とつながっていることに気づき、生活を振り返ることができる単元づくりをする。

学年のつながり

各学年の単元を大きく2つのプロジェクトと捉え、子どもたちに育みたい思いや価値観を縦の系統で考える。

- ・「宝物プロジェクト」
- ・「幸せプロジェクト」

人とのつながり

学習の中で、意見交流や生の声にふれること、体験活動を行うことなどを通して、いろいろな人の考えや生き方にふれる場面を設定する。

単元構想でのつながり

単元構想を
「ふれる」→「つかむ」→
「追求する」→「活かす」
の4つの段階で構成し、子どもの意識の流れを考えた授業を展開する。

各教科とのつながり

ESDカレンダーを活用し、クロスカリキュラムの授業を行うことで、各教科で培った力を、総合的な学習の時間に活用し、育んでいく。

(3) 育みたい力

本校では、ESDの視点に立った学習指導で重視する7つの能力・態度を、「課題解決力」「実践力」「かかわる力」「コミュニケーション力」の4つに分類した。そして「課題解決力」「実践力」を「自分とのかかわり」、「かかわる力」「コミュニケーション力」を「他者とのかかわり」と捉えることにした。

<ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度>

①批判的に思考・判断する力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力
②未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力
③多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的に、コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者との協力・共同してものごとを進めようとする態度
⑥つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度
⑦責任を重んじる態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

自分とのかかわり

課題を見つけ、追求する中で自分の考えをもつことができる。

社会の一員として自分にできる事を実践したり、学習で培った思いや考えを自分の生活に活かしたりすることができる。



課題解決力	批判的に思考・判断する力
	未来像を予測して計画を立てる力
実践力	つながりを尊重する態度
	責任を重んじる態度

他者とのかかわり

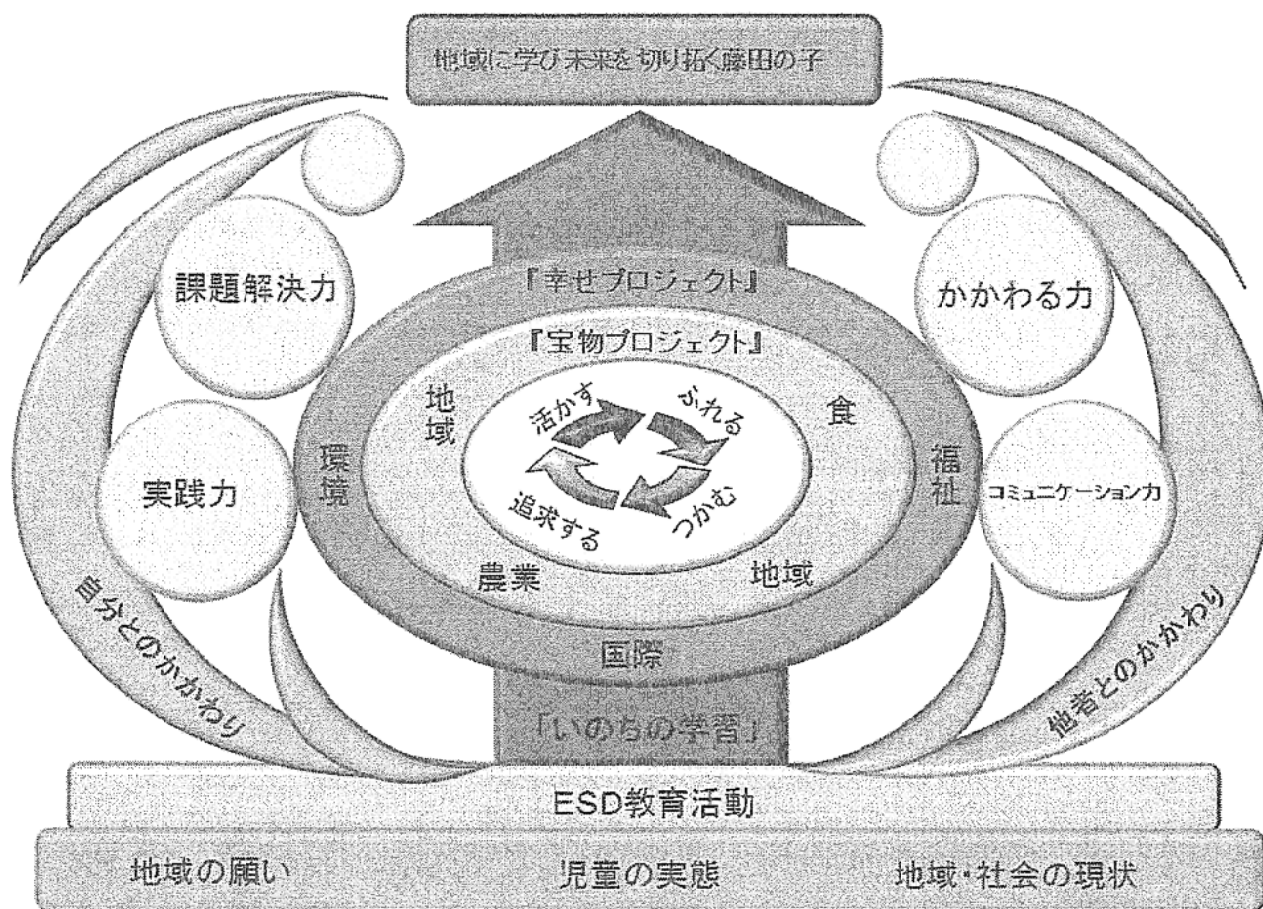
相手の立場や考えを理解しながら、自分の思いや考えを伝えることができる。

人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げようとするすることができる。



かかわる力	多面的・総合的に考える力
	他者と協力する態度
コミュニケーション力	コミュニケーションを行う力

3 研究構想図

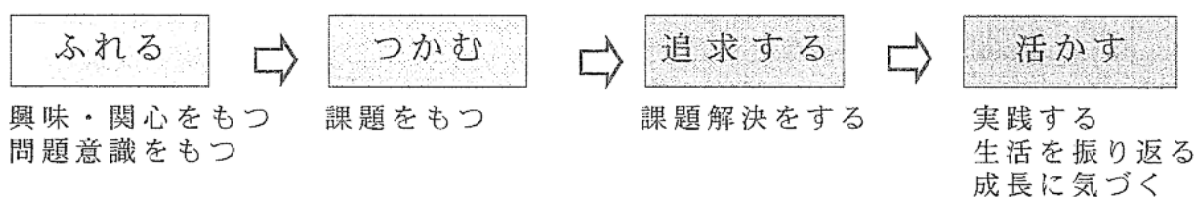


4 手だての詳細

(1) 単元構想の見直し

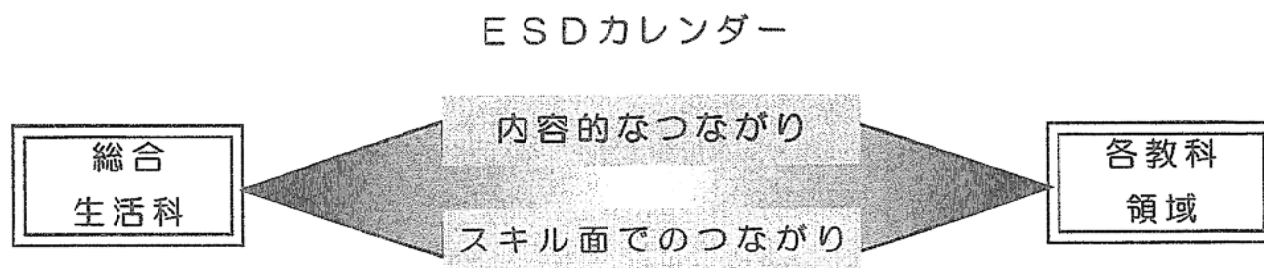
既存の総合的な学習の時間の単元を、ESDの視点に立って見直しを行った。「単なる体験活動に終わらず、探求的な学習になること」「自分の成長に気づいたり、自分の生活を振り返ったりできること」を意識して、新たに単元構想図を作成した。

また、児童が課題意識をもち、必然性をもって継続的・発展的に学習に取り組むことができるよう、「ふれる」「つかむ」「追求する」「活かす」の4つの段階を設けて単元を構成した。



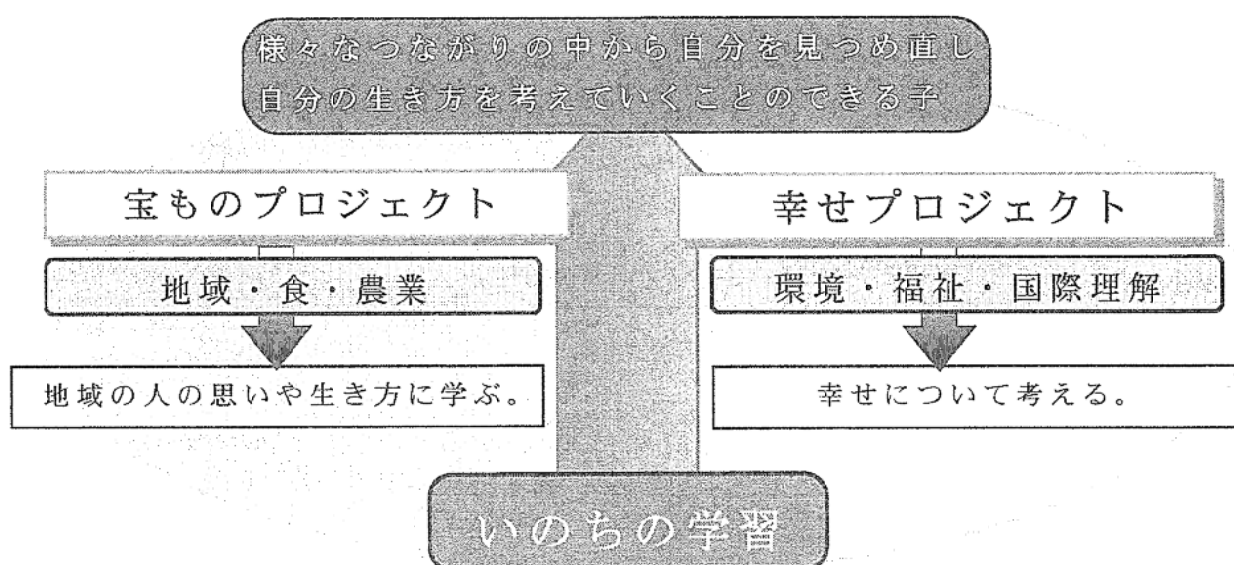
(2) ESDカレンダーの作成

横断的・統合的な指導を行うためにESDカレンダーを作成した。ESDカレンダーは、「内容的なつながり」と「スキル面でのつながり」に分け、その根拠を明らかにすることで、見通しをもち、学習内容のつながりを考えながら授業を進めたり、培いたい力を意識して指導したりできるようにした。



(3) 6年間を見通したプロジェクトデザインの作成

研究を進める中で、生活科・総合的な学習の時間の単元の中に、子どもたちに育みたい思いやもたせたい価値観のつながりがあることに気づいた。そこで各学年の単元を、大きく2つのプロジェクトと捉え、縦の系統を考えて6年間のプロジェクトをデザインした。それら2つのプロジェクト通して、様々なつながりの中から自分を見つめ直し自分の生き方を考えていく「いのちの学習」を構築する。



(4) 育みたい力の具現化と評価

めざす子ども像に近づくために育みたい力を見直し、低・中・高学年で系統性を考えて整理し、具現化した。

ねらいに迫る価値ある活動にするために、その単元でどの力を育みたいのかを明確にし、児童の具体的な姿を想定して授業を行う。また、課題づくりに十分時間を費やし、子どもの願いを大切にしながら学習を進めていく。それら进行评估することで、児童が自分の成長に気づくことができたり、評価を次の活動や指導に活かすことができるよう、研究を進めている。

第三 藤田小学校 6 年間のプロジェクトデザイン

宝ものプロジェクト

地域・食・農業

地域の人の思いや生き方に学ぶ。

いのちの学習

幸せプロジェクト

環境・福祉・国際理解

幸せについて考える。

1年生
単元名「いっしょにあそぼう」

2年生
単元名
「おいしくそでわたしの野さい」
「うごくうごくわたしのおもちゃ」

☆自分たちが支えられていることに気づく

- ◇老人会の方に昔遊びを教えてもらう。
- ◇玉ねぎの苗植え、収穫をさせてもらう。
- ◇野菜の育て方について地域の農家の方に教えてもらう。
- ◇地域の方におもちゃ作りを教わったり、一緒に遊んだりする。

おじいちゃん
おばあちゃんはずういな。

4年生
単元名「やさしいまちづくり」

☆藤田の自然や人を大切にしたいと思う

- ◇「自然や人にやさしいまち」とはどんなまちかを話し合う。
- ◇藤田について調べる。
- ・いいところもあるけど、よくないところもあるよ。
- ◇各種教室に参加する。
- ・こんな活動をしている人もいるんだ。こんな方法もあるんだ。
- ◇お年寄りや視覚障害者と交流する。
- ・ぼくたちと同じだね。ただちょっと不便なんだね。
- ◇自分たちにできることを考えて実践する。

自分たちの住む藤田は、やさしいまちになってるかな？



人や自然を気遣う気持ちが大切なんだね。ぼくたちにもできることを身近なことから考えよう。



藤田の宝物って何だろう？

3年生
単元名「三藤のお宝をさがそう」

☆地域に愛着をもつ

- ◇藤田の宝物について話し合う。
- ◇藤田の農作物や名人について調べる。
- ・おいしい野菜をつくるために努力や工夫をしているすごいな。
- ・藤田の野菜がおいしい理由。
- ◇J A 女性部の活動の意味を考える。
- ・いい物を作ったり誰かに喜んでもらうために努力をしている人たちがいる。それって名人さんと同じだね。

藤田で作られているたくさんの農作物や、努力を続けている人が宝物なんだね。



20年後の藤田の米作りがもっとよくなるためにはどうすればいいんだろう？

5年生
単元名「プロジェクト八十八」

☆地域に誇りをもつ

- ◇藤田に農業は必要か話し合う。
- ◇農業のよい点や問題点から課題をもつ。
- ・いいところもたくさんあるけど、高齢化や後継者問題などもあるんだ。何とかならないかな？
- ◇20年後の藤田の米作りについて考え、提案書を書く。
- ◇農業後継者と意見交換をする。
- ・作業が楽になるとかじゃなく、消費者のために安心して安全な米作りをめざしているんだね。
- ・販売する人、機械を開発する人、私たちのように食べる人・・・みんな農業とつながっているんだ。
- ◇自分たちにできることを考えて実践する。

生産者も消費者も幸せになれる農業がいいな。農作物を食べて生活している私たちも農業とつながっているんだね。

途上国の子どもたちは不幸だと思っていたけど、なぜ笑顔なんだろう？



6年生
単元名「幸せって何？」

☆多様な価値観を知る

- ◇「幸せ」について話し合う。
- ・幸せと思うことは他の国の人も同じなのかな？
- ◇世界の諸問題について調べる。
- ◇ハートオブゴールドの方からカンボジアの現状について話を聞く。
- ・カンボジアの人たちのために何かしたいな。
- ◇1回目の物資支援活動をする。
- ・生活に必要なものや足りないものを送ろう。
- ◇自分たちで考えて2回目の物資支援活動をする。
- ・もっと喜んでもらえるものはないのかな？ぼくたちなら何がうれしいかな？
- ・喜んでもらえてうれしいな。やってよかったな。
- ◇「幸せ」について考える。
- ・人によって「幸せ」と思うことは違うんだね。
- ◇自分の生活を振り返る。

私たちの生活も、世界の国々の人たちと、つながっているんだ。誰かの役に立つことで、自分も幸せになれるんだね。



☆この単元で育みたい思い
(藤田中学校区共通)
◇児童の活動
・その活動で育みたい思い

様々なつながりの中から自分を見つめ直し
自分の生き方を考えていくことのできる子

第三藤田小学校 生活科・総合的な学習で育みたい力

	子どもの姿	育みたい力	低学年	中学年	高学年
自分のかかわり	- 課題を見つめる - 情報を集める - まとめる - 考えをもつ	② 課題を見つけて、追求する力 ① 調べた事実を整理して自分の考えをもつ力 ⑦ 社会の一員として周囲に働きかけながら活動しようとする力 ⑥ 学習で培った考えや思いを生活に活かす力	○自分の思いや願いを表現するために工夫して活動することができ、気づいたり、感動をもったりすることができ、 ○地域の活動に自分から参加しようとする、生活に活かしていくことができる。	○自分の課題について、大まかな見通しをもって追求することができ、 ○調べたことを整理して自分の考えをもつことができる。 ○地域へ目を向けて自分とできること、かかわることができ、 ○学習を通して培った自分の考えや思いを、自分の生活と重ねて考え、自分の生活に活かすことができる。	○自分や学年全体の課題について見通しをもって追求することができ、 ○調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。 ○社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をし、よいとすることができ、 ○学習を通して培った考えや思いを自分の生活と重ねて考えたり、「これからどうありたいか」など、自分の関わり方を考えたりして生活に活かすことができる。
他者のかかわり	- かかわる - 協力する - 気づく - 受け入れる	⑤ 相手のことを考え、かかわろうとする態度 ③ 人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げようとする態度 ④ 自分の考えや思いを相手の立場で表現し、伝えようとする力 ○相手の考えや思いを相手の立場で表現し、伝えようとする力 ○相手の考えや思いを相手の立場で表現し、伝えようとする力 ○相手の考えや思いを相手の立場で表現し、伝えようとする力	○自分のまわりの人、伝えようとする態度 ○自分のまわりの人、伝えようとする態度 ○自分のまわりの人、伝えようとする態度 ○自分のまわりの人、伝えようとする態度	○相手の立場や気持ちを理解し、かかわることができ、 ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができ、 ○相手の立場や気持ちを理解し、かかわることができ、 ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができ、	○相手の立場や気持ちを理解し、かかわることができ、 ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができ、 ○相手の立場や気持ちを理解し、かかわることができ、 ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができ、

【資料】E S D の観点に立った学習指導で重視する能力・態度

①批判的に思考・判断する力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く、建設的、協力的、代替的に思考・判断する力
②未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力
③多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝え、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的に、コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・共同してものごとを進めようとする態度
⑥つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然など自分と自分とのつながり・かわり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度
⑦責任を重んじる態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

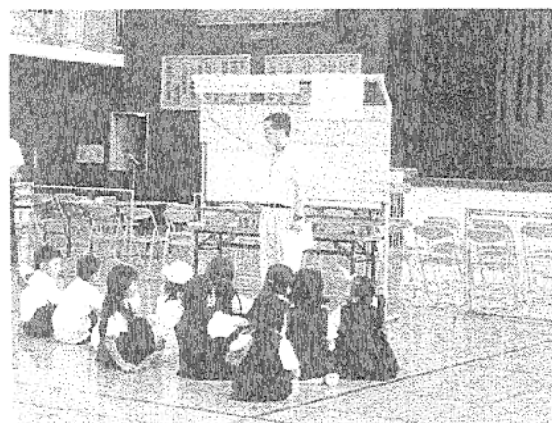
☆スピーカー・発表系列

学年	つけたい力	聞くスキル	話すスキル		形態	単元名
			原稿作り	話し方		
1年	・相手の話を、興味をもって聞く力。 ・話す事柄を順序立てて、話す力。	・相手の顔を見て聞く。 ・最後まで聞く。 ・相手の話を聞いて感想をもつ。 ・聞きたいことは質問する。	・2～3文程度で。 ・観察したり経験したりしたことの中から、必要な事柄を選ぶ。 ・絵や写真、実物を用意する。	・ゆっくり、みんなに聞こえる声で、丁寧な言葉で。 ・みんなの方を見て ・わけて話す。「どうしてかというど…」	1対1 1対複数	わけをはなそう こないしをみつけたよ おはなしきいて これはなんでしょう
2年	・相手の話を、大事なところを落とさないように興味をもって聞く力。 ・相手に応じて話す事柄を順序立てて、言葉遣いに気をつけて話す力。	・大事なことを落とさないように聞く。 ・簡単なメモをとる。 ・質問したり感想を言ったりする。	・構成メモを作り、わかりやすい順序に並べる。 ・「はじめ」「中」「おわり」と順序立てた発表原稿を作る。	・声の大きさや速さに気をつけてはつきり話す。 ・原稿を見ずに、資料を見せながら話す。 ・話し始めと終わりのことばを言う。	1対1 1対複数 (4～5名のグループ)	ともさんはどこかな はっぴようしよう きみたちは図書館たんていだん
3年	・わかったこと、考えたことについて筋道を立てて話す力。 ・話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりする力。	・話し手が伝えたいことは何かを考えながら聞く。 ・自分にとって大切な情報は何かを聞き、自分と比べて感想を言ったりする。	・話し手が伝えたいことを考えながら聞く。 ・自分にとって大切な情報は何かを考えながら聞く。 ・要点をメモしながら聞く。	・聞き手を意識した話し方をする。 ○相手を見て話す。 ○強調、間、相手を指し示す。	1対複数 (4～5名のグループ)	いつも気をつけよう よい聞き手になろう しりょうから分かったことを発表しよう
4年	・相手や目的に応じて理由や事例などを挙げながら、筋道を立てて話す力。 ・話し方の工夫を考えて話す力。 ・聞き手の気を引いて聞き、質問をしたり感想を述べたりする力。	・相手や目的に応じて理由や事例などを挙げながら、筋道を立てて話す力。 ・話し方の工夫を考えて話す力。 ・聞き手の気を引いて聞き、質問をしたり感想を述べたりする力。	・まとまりや細立てが分かるように構成を工夫する。 ①要点メモを整理。 ②原稿を書く。 ③資料を作る。	・聞き手を引きつける発表の工夫をする。 ○話し始めの工夫 ○資料の提示の仕方 ○言葉の抑揚、強調、間のとり方	1対複数(グループ) 1対多数(クラス全体)	つづけてみよう だれもがわかり合えるように 聞き取りメモの工夫
5年	・収集した知識や資料を関連づけ、目的や意図に応じた構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話す力。 ・話し手の意図をしっかりと聞き、自分の意見と比べて考える力。	・話し手の意図をどう伝え、自分の意見と比べながら聞く。 ○「話し手の意図や目的」「自分に伝えたいこと」「共に考えたいこと」など、相手の話を十分に聞き取る。 ○自分の考えと比べ、「共通点や相違点」、「関連して考えたこと」などを整理し、自分の考えをまとめる。	・目的や意図に応じ、伝えるために収集した知識や資料を関連づける。 ・事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。 ①目的・条件を考える。 ②事実を挙げて理由を明確にする。 ③内容を整理し、構成・表現を考える。	・目的や意図に応じて構成を工夫して話す。 ・声の大きさや速さ、口調、表情。 ・資料の提示 ・聞き手の注意を喚起する話し方 ・聞き手に体験を想起させる話し方 ・聞き手に共感や同意を求める話し方 ・聞き手の思考を促す話し方	1対多数(学年全体など)	◎きいて、きいて、きいてみよう ◎すいせんします
6年	・自分の意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考え、場に応じた適切な言葉遣いで話す力。 ・聞き手の立場や考えを的確につかみながら聞き、自分なりの考えをもつ力。	・話し手の意図をどう伝え、自分の意見と比べながら聞く。 ○「話し手の意図や目的」「自分に伝えたいこと」「共に考えたいこと」など、相手の話を十分に聞き取る。 ○自分の考えと比べ、「共通点や相違点」、「関連して考えたこと」などを整理し、自分の考えをまとめる。	・自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考える。 ①意見 ②根拠となる出来事など ③予想される反論と、それに対する答え ④意見の繰り返し	・自分の意見を、場に応じた適切な言葉遣いで話す。 ・声量や抑揚、調子、速さ、間の取り方 ・姿勢、視線、表情 ・呼びかけような話し方 ・繰り返し ・資料の提示	1対多数(学年全体など)	◎平和について考える ◎今、わたしは、ぼくは

☆対話・話し合い系列

学年	つきたい力	聞くスキル	話すスキル	形態	単元名
1年	・互いの話をよく聞き、話題に沿って話し合う力。	・わからないことは尋ね返す。 ・うなずきながら聞く。	・聞き手の方を向って話す。 ・丁寧な言葉遣いで話す。 ・話題に沿って話したり返したりする。	1対1	ふたりでおぼなし なんたいうたらしいのかな おみせやさんごっこしよう
2年	・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う力。 ・グループで話し合って考えを一つにまとめる力。	・話している人を見て聞く。 ・最後まで聞く。 ・わからないことは質問する。	・話題に沿って話す。 ・進んで意見を言う。 ・考えを言ってから理由を言う。 ・聞かれたことに答える。 ・司会を決める	4人程度のグループ	みんなできめよう
3年	・互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合う力。 ・司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う力	人の意見と自分の意見が同じか違うかを比べながら聞く。	・意見と理由を言う。 ＜司会＞ ・みんなが意見が言えるようにする。 ・意見を整理する。	4～5人のグループで	話し合って決めよう わたしたちの学校行事
4年	・司会や提案者などの役割を理解し、目的に向かって話し合う力。 ・人間関係を壊さない言葉や話し方で話し合う力。	互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞く。	・はじめに賛成か反対か立場をはっきりさせて言う。 ・前の人の意見と同じか違うかをはっきりさせて話す。 ＜司会＞ ・予定通りに進める(進行メモ) ・意見が出るようにする。 ・出た意見をまとめる。	6人程度のグループ	よりよい学級会をしよう
5年	・話題を決めて、収集した知識や情報を関連づけ、互いの意図や立場をはっきりさせながら、計画的に話し合いをする力	・自分の考えと関連させながら話を聞き、考えを広げたり深めたりする。 ・複数の考えの根拠をのべているところや異なるところを明確にしながら聞く。	目的を意識しながら、話題に沿って、自分の考えたことを、正確に効果的に伝える。 ○意見を先に、理由を後に話す。 ○自分の考えの理由として、調べたことを伝える。 ○自分の立場を明確にして話す。 ○自分の調べたこととつなげて話す。 ○疑問や反論を分かりやすく伝える。 ○具体的な事柄を挙げて尋ねる。 ○「たずねる言葉」「理解したということ」を伝える言葉「話に区切りをつけ、次へすすめる言葉」を活用する。	グループ討論	◎豊かな言葉の使い手になるためには
6年	・自分の意見を確かな根拠を示しながら説得力のある主張をする力。 ・話し手の主張と根拠を正確に聞き取り、その主張と根拠は筋が通っているのか、説得力をもつものなのかを判断する力。	・話し手の意図をとらえ、自分の意見と比べながら聞く。 ・相手の立場や意見を考えながら聞く。 ○相手の主張や根拠を予想する。 ○それに対する意見や答えを考えておく。	・議論の筋道に沿って、自分の立場を明確にし、説得力のある発言をする。 ○意見を先に、理由を後に話す。 ○体験や具体例を入れたり、資料などを提示したりして話す。 ○相手の主張や、質問に対する答えをふまえて発言する。	学級討論会	◎学級討論会をしよう

生活科の授業実践



本単元について

<生活科の目標>

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつ。

自分自身や自分の生活について考えさせる。

いのちの学習

- すべてのことは今の自分の生活とつながっていることに気づく。
- 様々なつながりの中から、自分を見つめ直し、自分の生き方を考えていく。

ESDの視点から

身近な人々に支えられていることに気づく。

自分を振り返り、成長に気づく。

本単元では

- ・地域のお年寄りに昔遊びを教わることで、昔遊びに興味をもったり、お年寄りのすばらしさに気づいたりすることができる。
- ・地域のお年寄りと主体的にかかわることを通して、自分の住む地域のよさに気づき、愛着をもつことができる。

- ・地域のお年寄りや友だちと繰り返しのかかわり合うことで、自分や友だちのよさや成長に気づくことができる。
- ・昔遊びを楽しんだり、熱中したりする中で味わった喜びや、得た技能を、次の活動や生活に活かすことができる。

育みたい力は

他者とのかかわり

- 自分のまわりの人に進んでかかわることができる。
- 自分の言葉で表現し、伝えることができる。

自分とのかかわり

- 自分の思いや願いを実現するために工夫して活動することができる。
- 気づいたことを生活に活かしていこうとすることができる。

平成26年11月27日（木）5校時

指導者 1年担任 小野 道子

1 単元名 いっしょに あそぼう

2 単元目標

- 家の人や地域の人に、昔遊びを教えてもらったり、友だちと昔遊びの練習に取り組んだりしながら、一緒に活動することの楽しさを味わうことができる。

（生活への関心・意欲・態度）

- 友達や家の人、また地域の人と一緒に昔遊びをする中で味わった楽しさや、気がついたことを、言葉や動作や絵で表現することができる。

- 昔遊びの技が上達することを目指して試行錯誤しながら練習するだけでなく、友達同士で遊びの場を工夫したり声を掛け合ったりして練習することができる。

（活動や体験についての思考・表現）

- 昔遊びの楽しさや、地域の人のおしさ、友だちや違う年齢の人と一緒に遊ぶことの楽しさに気づくことができるとともに、友だちのがんばりや自分の成長に気づくことができる。

（身近な環境や自分についての気づき）

3 単元構想（別紙）

4 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
ふれる (2)	昔遊びに関心をもち、進んでやってみようとしている。	昔遊びの経験を話したり、聞いたりしている。	昔遊びの楽しさに気が付いている。
つかむ (2)	自分がやってみみたい遊びを選び、進んでやってみようとしている。	地域の人に自分から遊び方をたずねたり、教えてもらったことを何度も練習したりしている。	地域の人に遊び方を教えてもらう楽しさや、上達する喜びに気が付いている。
追求する(3)	友だちと関わりながら進んで練習に取り組んでいる。	友だちと一緒に遊べる場や方法を工夫したり、友だちに声をかけたりしている。	友だちと一緒に遊ぶ楽しさや、一緒に上達する喜びに気が付いている。
活かす (2)	できるようになった技を周りの人に進んで見てもらおうとしている。友だちの上達にも関心をもっている。	友だちや地域の人と一緒に遊んだ楽しさや、活動して気が付いたことを言葉や動作や絵で表現している。	自分の成長や友だちのがんばり、地域の人のおしさに気が付いている。

5 指導上の立場

○単元について

本単元は、指導要領生活科の内容（5）及び（8）を受けた単元である。第三藤田小学校では、登下校の見回りや様々な行事への参加など、地域の方が大変協力的である。1学期に実施した通学路探検でも、地域の人との関わりをクラスみんなで確認することができたが、昔遊びを通して地域の人との交流を図り、さらにつながりが深まるよう、本単元を設定した。

○児童の実態

本学級は、男子7人、女子11人で、男子の方が人数が少ないが、全体的に元気のよい児童が多い。また、生活科の時間には、交流学級の児童2人（ともに男子）も一緒に活動しており、20人という人数の割には活発に学習に取り組んでいる。そのうち16人が同じ保育園から入学してきており、クラスの中で、伸び伸びと自分を出せる児童が多い。

昔遊びについては、ほとんどの児童が保育園や幼稚園等で、お手玉やこま、あやとりなどの遊びを経験してきており、地域の人に教えてもらったことがある児童もいる。そこで、昔遊びを楽しむだけでなく、昔遊びを通じて、地域の人と一緒に遊ぶ楽しさや地域の人への優しさや思い等にも気づけるようにしていきたい。また、友だち同士の学び合いも意識できるようにし、よりよい人間関係づくりにもつながるようにしたい。

6 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」に迫るために、次のようなことを工夫していく。

（1）自分とのかかわり

「自分の思いや願いを実現するために工夫して活動することができる」ための工夫

- ・「ふれる」段階では、地域の人が作ってくれたお手玉で遊びを体験することで、昔遊びに興味をもち、「もっと上手になりたい。」「他の昔遊びもやってみたい。」という意欲をもったり、地域の人への優しさに触れたりできるようにする。
- ・児童が希望する昔遊びを体験する時間を十分とった上で、どの遊びが上手になりたいかを決めさせるようにすることで、意欲をもち継続的に同じ遊びの練習に取り組めるようにする。
- ・「がんばりカード」を用意し、技を増やしたり確実性をあげたりすることを目指して、意欲的に練習に取り組めるようにする。
- ・「活かす」段階では、練習の成果を、地域の人や家の人に見てもらえる場を設定し、自分のがんばりや成長が実感できるようにする。

（2）他者とのかかわり

「自分のまわりの人に進んでかかわることができる」ための工夫

- ・まず、「ふれる」段階で、自分たちでいろいろな昔遊びを体験させておくことで、次の「つかむ」段階で、地域の人と楽しく活動するだけでなく、課題意識をもって地域の人に昔遊びを教えてもらうことができるようにする。
- ・「追求する」段階では、自分で試行錯誤するだけでなく、友だちに教えてもらったり、反対にアドバイスしてあげたりして、教え合ったり、励まし合ったりしながら上手になる喜びを体験させ、共に学ぶ良さを味わうことができるようにする。そのために、友だちへの言葉かけについて、具体的におさえて意識づけすることで、励まし合うなどして仲良く遊んだり、遊び場として使いそうなバケツや台・遊び方の本・音楽CDなどを用意しておくことで、自発的に子どもたちが交流したりできるようにする。
- ・「活かす」段階で、「むかしあそびのかい」を開き、地域の人や家の人に練習した成果を見てもらい、自分の成長を見守ってくれることを実感できるようにする。また、その気づきをもとに、地域の人にお礼の手紙を書き、自分の気持ちを伝えられるようにする。

7 本時案（追求する段階 第2時）

目標	もっと楽しく遊べる場や方法を工夫しながら、友だちと一緒に昔遊びを練習することができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 前時の活動を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○前時に引き続き、遊びのコーナーに分かれて練習することを確認する。 ○前時の活動を振り返り、練習するときどんな言葉かけをしてあげるとよかったかを思い出させた後、本時のめあてを知らせる。	
ともだちといっしょにもっとたのしくあそぼう。		
2 いっしょに楽しく遊べる場や方法について話し合う。	○遊びのグループごとに、一緒に楽しく遊べる方法はないか話し合わせ、考えたことを発表させる。 ○地域の人と遊んだときのことを思い出させ、何人かで競争しながら遊べる場や、一緒に遊べる方法を考えさせる。	
3 コーナーごとに、練習する。	○練習の前に、グループごとに、できるようになりたい技を話し合わせ、友だちの願いを共有するようにさせる。 ○遊び場として使いそうなバケツや台、遊び方の本、音楽CDなどを用意しておく。 こま・・・バケツや台などを利用して競い合う。 お手玉・・・回数を競い合う。 一緒に音楽に合わせる。 あやとり・二人技をする。 二人でとりあう。 けん玉・・・回数を競い合う。 一緒に音楽に合わせる。 ○練習の中程にハーフタイムとして一度声かけ前半の振り返りをさせ、後半の意欲につなげる。	○友だちと一緒に遊べる場や方法を工夫したり、友だちに声かけをしたりしながら自分の遊びに取り組んでいる。 （観察）
4 本時のまとめをする。	○今日初めて技ができるようになった児童や、アドバイスしてあげた児童を紹介する。 ○本時の活動を振り返ってうれしかったことなどをがんばりカードのふりかえり欄に書かせ、友だちと一緒に練習して技が向上したことを称賛する。	○本時の活動を振り返り、友だちと一緒に遊ぶ楽しさや、自分や友だちのがんばりに気づいている。（観察・カード）

単元構想

	学習過程	学習活動と児童の意識の流れ	全体への支援
ふれる	むかしあそびをやってみよう。(1)	地域の人や家族にむかしあそびを教えてもらったことを思い出す。 ・むかしあそびっておもしろいね。 ・おじいちゃんやおばあちゃんが教えてくれて楽しかった。 ・小学校でもやってみたいな。 ・お手玉が上手にできてうれしいな。 ・ほかの技も知りたいな。 ・ほかの遊びもやってみたいな。	・保育園や家で、おじいちゃんやおばあちゃんに、昔遊びを教えてもらったことを思い出させ、楽しかった経験を話し合わせる。 ・地域の人が作ってくれたお手玉を紹介し、地域の人の優しさに触れ、昔遊びに興味をもたせる。 ・お手玉遊びの簡単な技をみんなでやって成功体験を持たせ、多くの児童が昔遊びに意欲がもてるようにする。 ・ほかにもしてみたい昔遊びを発表させ、興味を広げながら学習を進めるようにする。
	いろいろなむかしあそびをしよう。(1)	やってみみたいむかしあそびをする。 ・いろいろあって楽しいな。 ・むずかしいけど楽しいな。 ・もっとじょうずになりたいな。 ・だれかに教えてもらいたいな。	・児童がやってみみたい昔遊びの道具をなるべく用意し、体験できるようにする。 ・昔遊びには技があることを意識するようにし、技が上達する喜びに気づくようにする。 ・もっと上手な人に教えてもらおうとよいことに気づき、できる遊びや技を増やしたいという意欲をもたせるようにする。
つかむ	むかしあそびのあそびかたやわざを教えよう。(2)	むかしあそびについて技を教わったり一緒に遊んだりする。 ・いろんなわざがあるんだね。 ・できるようになりたいな。 ・こまをまわすコツがわかったよ。 ・おてだまのわざがふえたよ。 ・むかしあそびっておもしろいね。 ・もっと上手になりたいな。 ・地域の人はずいいな。	・地域の人に学校に来てもらい、一緒に楽しく遊ぶ中で、遊び方を教えてもらったり、技を教えてもらったりして意欲を深める。 ・地域の人と触れ合う中で、地域の人の応援の気持ちや、地域の人も子どものときに練習して上手になったことなどに気づき、自分も上達したいという思いをもてるようにする。 ・地域の人から、上手になるためには、互いに教え合ったり、励まし合ったり、競い合ったりして、たくさん練習することが大切であることを助言してもらい、みんなががんばって練習に取り組もうとする意欲をもたせる。
追求する	むかしあそびの練習をしよう。(3)	むかしあそびを練習する。 ・どうやったら上手になるだろう。 ・同じ遊びの人同士一緒に練習したいな。 ・教え合えるね。 ・声を掛け合って仲良くあそぼう。 ・コツを教えてもらったよ。 ・アドバイスしたら、できるようになったよ。 ・友だちにおうえんしてもらって、うれしかったよ。	・取り組みたい遊びを1つに絞り、技を磨いたり増やしたりする。 ・遊びごとにコーナーを作り、同じ遊びの友だちと一緒に競い合ったり教え合ったりして楽しく練習できるようにする。 ・練習するときに、どんな声かけをしてあげるとよいか話し合わせ、進んで教え合ったり、励まし合ったりすることができるようにする。 ・「がんばりカード」を励みに、技を増やしたり確実性をあげたりしながら練習する意欲をもたせるようにする。 ・教えてもらってできるようになったことや、応援してもらってうれしかったことなどを振り返りカードに書いて発表させ、友だちと一緒に練習するよさや楽しさに気づけるようにする。
	本時	友だち同士でもっと楽しく遊べる方法を考えながら練習する。 ・一緒に遊べる場所を作ろう。 ・競争したら楽しそう。 ・友だちにおうえんしてもらって、うれしかったよ。 ・できる技がふえたよ。 ・みんなの前で発表したいな。 ・もっと他の人にも教えたいな。 クラスではっぴょうしよう。 ・友だちが上手になってうれしいな。 ・家の人に見せたいな。 ・教えてくれた地域の人に見てほしいな。	・友だち同士でもっと楽しく遊べる方法はないか考えさせ、一緒に遊べる場所を作ったり、声を掛け合ったりするとよいことに気づかせる。 ・バケツや台・遊び方の本・音楽CDなどを用意し、何人かで遊んだり競い合ったりできる場や方法を工夫させ、一緒に活動しやすくするようにする。 ・自分たちで遊び場や遊び方を工夫したことや、自分達で考えたやりかたで一緒に遊んだり競い合ったりして楽しかったことなどを、振り返りカードに書いて発表させ、友だちと一緒に練習するよさや楽しさに気づけるようにする。 ・ミニ発表会をして、できるようになった技をクラスみんなに披露し、お互いのがんばりや成長を認める場とし、家の人や地域の人にも見てもらいたいという気持をもたせる。

活かす	地域の人やお家の人にむかしあそびの技を見てもらおう。(1)	地域の人や家の人を招待して、むかしあそびの技を見せたり、一緒にあそんだりする。 ・家の人がびっくりしたよ。 ・地域の人にほめられたよ。 ・じょうずになったよ。 ・がんばって練習してよかったな。	・参観日に「むかしあそびのかい」を開き、地域の方や家の人に、練習の成果を見てもらったり、一緒に楽しく遊んだりする。 ・グループごとに発表して、練習の成果をみんなにみてもらった後、地域の人や家の人と一緒に遊ぶ時間を設け、スムーズに交流できるようにする。 ・「みてみてカード」を各自に持たせ、技を見てもらったらサインをもらうなどして、いろんな人と進んで関わられるようにする。 ・生活科カードに、楽しかったことやよかったことを絵や文でかき、単元の振り返りをさせる。
	地域の人にお礼の手紙を書こう。(1)	活動を振り返り、昔遊びを通して一緒に遊ぶことの楽しさや自分のがんばり・成長を絵や文で表す。 ・昔遊びを一緒にして楽しかった。 ・昔遊びが上手になった。 ・大変だったけど、自分や友達が上手になってうれしかった。 ・友だちに喜んでもらえてよかったよ。 ・教えてくれた地域の人にお礼を言いたいな。	・クラスで発表し合い、昔遊びの楽しさやお互いの成長をみんなで共有できるようにする。 ・地域の人にお礼の手紙を書き、教えてもらって上手になったことや、地域の人と一緒に遊べてうれしかったことなどを再確認して、学習のまとめとする。

岡山市立第三藤田小学校 ESDカレンダー 1年生

第1学期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	ふたり でいなか そう	わがを はなそ う	はなの みち	こんないを みつけたよ	おはな	みいつけた	しらべたいな、 見せたいな	あつたふゆ のことば	あみ せやき んこつ しを	どぶつ の あや	いこいっば い1年生	
算数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
生活科	がっこうだいすき	たくさんさいてね きれいにさいてね	いきものどなかよし	あきと とむだち あまのほほや だしめうごう	いっしょに あそぼう (本朝)	みんな いっしょに	もくすく2年生					
保健体育	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
道徳	たのし い こ	うらの さん ぎょ	うみ め か ら や ん	ぼく に で き る こ と	たけ と ん は つ ぐり	ぼく に で き る こ と	ここをこめて プレゼント					
図工												
音楽												
児童学習	練習(活動)	逆足	音楽鑑賞	生活科見学	音楽鑑賞	保健体育	6年生を送る会	新1年生入学式	6年生を送る会			

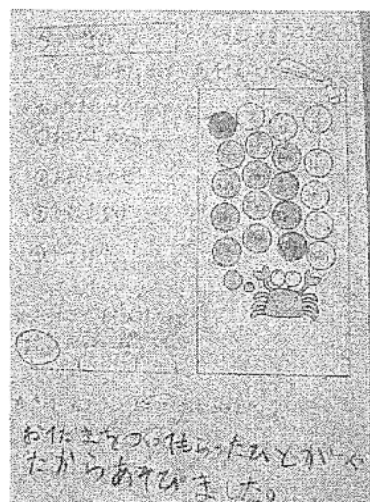
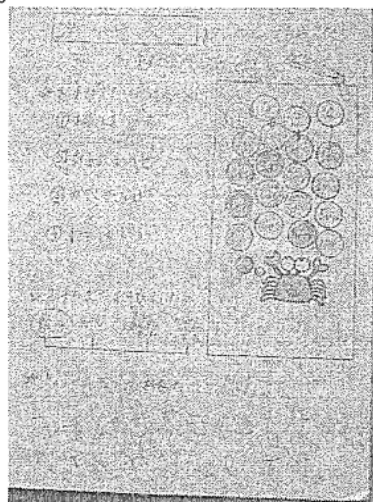
授業内容	授業内容
① 2人で話す、聞く。	① 授業内容
② 自然にかかわり、気づいたことを書き、発表する。	② 授業内容
③ グループで話す、聞く。	③ 授業内容
④ 発表のし方、聞き方。	④ 授業内容
⑤ たずねたり、必要たりする。	⑤ 授業内容
⑥ 理由を付けて自分の考えを言う。	⑥ 授業内容
⑦ 班クイズに必要な情報を集め、発表し、伝える。	⑦ 授業内容
⑧ 人や自然にかかわる。	⑧ 授業内容
⑨ 相手の気持ちを考え、自分の思いを伝える。	⑨ 授業内容

内容・心算	内容・心算
A 愛敬心	A 愛敬心
B 感謝物を大切にすること	B 感謝物を大切にすること
C 自分のできることをがんばる気持ち。	C 自分のできることをがんばる気持ち。
D 礼儀正しく、きちのよいあいさつをしてお迎えよう。	D 礼儀正しく、きちのよいあいさつをしてお迎えよう。
E 女たちや自然にかかわり、自分の思いを表現する。	E 女たちや自然にかかわり、自分の思いを表現する。
F 自分の思いや願いを工夫して活動する。	F 自分の思いや願いを工夫して活動する。
G 今までの経験を活かして工夫して活動するともに互励にも励みあう。	G 今までの経験を活かして工夫して活動するともに互励にも励みあう。
H 成長に気づく。	H 成長に気づく。
I 冬のめざす	I 冬のめざす

〈 授業の実際 〉

(1) 「ふれる」段階

単元の導入では、地域の方（JA藤田女性部）の手作りのお手玉で遊ぶことによって、昔遊びにより興味をもったり、地域の方とのつながりを意識させたりするようにした。また、最初にどの児童も少し練習すればできそうな簡単な技をがんばりカードの形式で提示することで、自分にもできるという自信をもち、「もっと難しい技をやってみたい。」「他の昔遊びもやってみたい。」という意欲につながった。



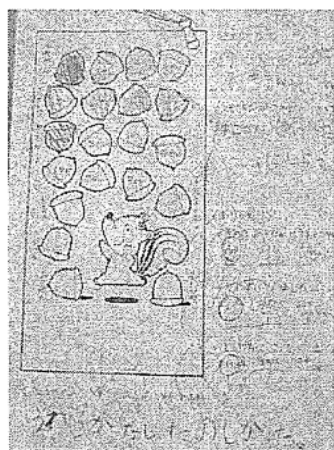
(2) 「つかむ」段階

自分たちで興味のある昔遊びをやっていくうちに、「もっと上手になりたい。」「いろんな技を教えてもらいたい。」という思いが出てきたので、地域の方をお願いして、学校に来て教えてもらうことにした。当日は、JA藤田女性部の方と藤田地区安全パトロールの方が15名来校し、「昔遊びの先生」として、お手玉、こま、けん玉、あやとり、紙風船などを熱心に教えてくださった。児童も興味のある遊びを熱心に教わったり、難しい技を見せてもらったりして、昔遊びを楽しんだ。地域の方から大いに刺激を受け、どの児童も「〇〇先生のように上手になりたい。」「たのしかったから、もっとやりたい。」という思いを強くもつことができた。

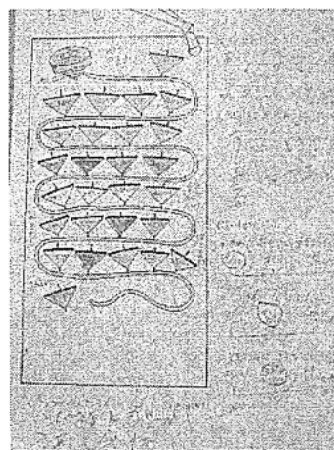


(3) 「追求する」段階

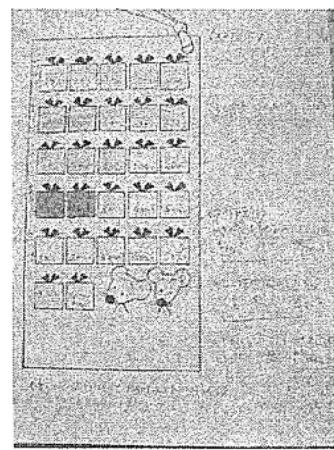
「つかむ」段階で経験した昔遊びの中から、続けて練習したい遊びを1つ決め、がんばりカードを励みに練習に取り組んだ。始めは、各自で思い思いに練習したが、次第に友だちと一緒にしたいという児童が増えてきたので、一緒に楽しく遊ぶにはどうしたらいいか考えさせ、「やさしいことばをつかってあそぼう。」「いっしょにあそべる方法を考えよう。」と、少しずつレベルアップしながら、練習に取り組ませた。児童は、言葉に気をつけながら、教え合ったり励まし合ったりして、仲良く練習できていた。



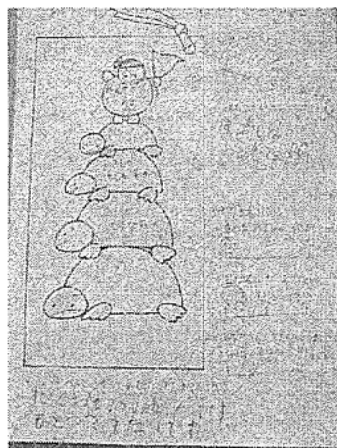
〈けん玉〉



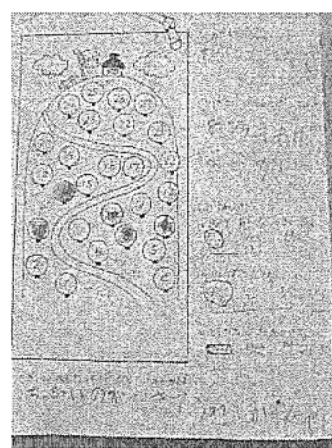
〈こま〉



〈お手玉〉



〈あやとり〉

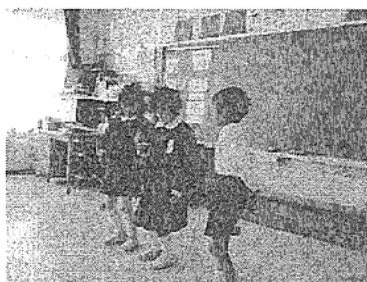


〈紙ふうせん〉

(4) 「活かす」段階

参観日に、地域の方にも来ていただいて「昔遊びの会」を開き、練習の成果を発表したり、地域の方、保護者、児童が入り交じって、一緒に昔遊びを楽しんだりした。地域の方に上手になったことを褒めていただき、達成感を味わうことができた。

また、学習の最後に、教えてくださった地域の方にお礼の手紙を書いたが、一緒に楽しく遊べた喜びとともに、地域の方のおかげで昔遊びが上達したこと、これからも見守ってほしいことなどに言及した内容の手紙が書けていた。



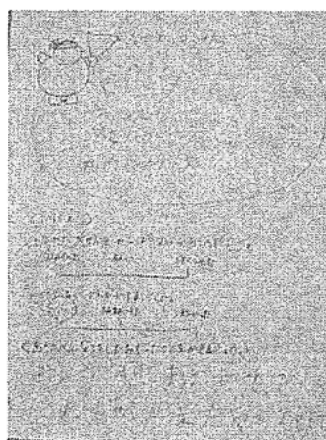
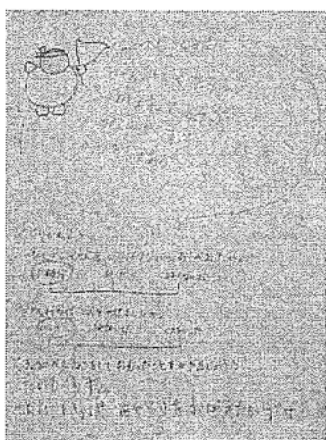


〈 成果と課題 〉

（公開授業）

本時では、友だち同士でもっと楽しく遊ぶために、一緒に遊べる遊び方を工夫させたかったが、前時の「やさしいことばをかけ合う。」「教え合ったりほめたりする。」などの態度面からステップアップすることが難しかった。そこで、グループを回りながら、道具を紹介するなどしてアドバイスをしていた。グループごとに話し合いをする際に、地域の人と遊んだときのことを写真を見せて思い出させたり、道具の実物を見せて紹介したりするなどして手がかりを掴ませてから、話し合いをさせるとよかったと反省している。地域の方に教えてもらうときに、競い合う遊び方を意識的に教えてもらうようにすれば、手がかりがもっと増えると思う。今回は、お手玉の演舞を見せてもらっていたので、お手玉グループの児童が、音楽に合わせてみんなでお手玉をすることを思いつくことができ、よかった。

また、話し合ったことをワークシートに書かせるようにしたが、時間がかかり練習の時間が少なくなってしまったので、話し合っただけで練習に取り組ませたほうがよかったと思う。



（単元全体を通して）

本単元は、昔遊びを題材にしているが、本来は家族と一緒に遊んだ経験から学習に入っていくのが自然だと思う。しかし、今回は、地域の方の作ってくださったお手玉があったおかげで、児童に昔遊びをスムーズに体験させることができた。また、地域の方との交流にもつなげることができたと思う。時期的には、本来は1月に行うことが多いが、寒くなる前なので、地域の方に来ていただきやすく、2回来校してもらうことができ、交流がしっかりと図れたと考えている。そのため、その後の学校行事などでも親しみをもって接することができていた。地域の方への親しみや尊敬の気持ちは、2年生での生活科の学習や3年生以上での総合的な学習でも活かされたいと考える。

自分で選んで決めた遊びを継続的に練習することを通して、続けてがんばる力や上達する喜びが味わえたと思う。難しい技にあきらめずに挑戦する児童が増えたり、やさしい言葉を意識させたことで、乱暴な言葉遣いがなかなか直らなかった児童が穏やかに友だちに接していたり、地域の人に上達したところを見てもらうことに喜びを感じたりしながら、「人（友だち、地域の人）や社会（昔遊び）と自分とのつながりを意識し、主体的にかかわる子ども」に迫ることができたと考えている。

平成26年10月22日（水）5校時

指導者 2年担任 山本龍太郎

1 単元名 うごくうごくわたしのおもちゃ

2 単元目標

○ 動くおもちゃを作ったり遊んだりすることを通してそのおもしろさや不思議さに関心をもつことができる。

○ 自分で作った動くおもちゃを使って、みんなで遊びを楽しむことができる。

（生活への関心・意欲・態度）

○ 動くおもちゃを使って遊びながら、おもちゃの仕組みに興味をもち、工夫しながら作ることができる。

○ みんなに楽しんでもらうために遊びのルールを工夫することができる。

（活動や体験についての思考・表現）

○ 身近な材料を使い、工夫しながら、遊ぶものを作ることができることに気づく。

○ 動くおもちゃを作ったり、使って遊んだりするなかで、みんなといっしょに遊んだり、作ったりする楽しさやよさに気づくことができる。

（身近な環境や自分についての気づき）

3 単元構想図（別紙）

4 単元について

本単元は、9つの指導内容のうち、主に（6）身近にある物を使った遊び（8）身近な人との交流に関わって構成した単元である。

身近にある物を使って動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫して作ったりすることが主な活動で、その活動をさらに他の人（1年生、保育園児や地域の方々）に広げて、みんなで活動を楽しみつながりをもつ機会とするのが、本単元である。

「ふれる段階」では、まず、動くおもちゃの見本を用意して触って遊ばせることで、子どもたちの興味を引き、「作って、遊びたい」という思いをもてるようにする。そして、自分自身で作って遊ぶ場を設定し、しっかり遊んで楽しませる。その際、おもちゃ作りの先生役として地域の方々に協力していただき、児童一人ひとりが確実におもちゃを作って楽しむことができるようにするとともに、いっしょにおもちゃ作りをすることで交流を図る機会としたい。

「つかむ段階」では、自分たちが作ったおもちゃで友だちと遊んだり競争したりする中で、おもちゃの仕組みに興味をもち、工夫をしたり、遊び方のルールを考えたりさせたい。

「追求する段階」では、動くおもちゃで遊ぶ楽しさを知った子どもたちに、自分たち以外の人といっしょに遊びたい人がいるかたずね、まず1年生といっしょに遊ぶ場を設定する。その活動のなかで、ルールや遊び方の説明をするなどして、いっしょに楽しく遊ぶ経験をさせる。そして、「もっとたくさんの人といっしょに遊びたい」という思いをもたせることで、保育園児や地域の方々へさらに目が向くようにしたい。1年生よりも小さい保育園児や大人

の地域の方という相手意識をしっかりとらせることで、遊びのルールや場の工夫、接し方など、どうすればいっしょに楽しめるかについて、話し合いながら準備を進めていきたい。

「活かす段階」では、保育園児や地域の方々を招待していっしょに動くおもちゃで遊ぶ活動を通して、相手が喜んでくれたり、なかよくなったりという経験を通して、交流することの楽しさを十分に味わわせたい。

5 児童の実態

本学級の児童は、明るく活動的で何事にも興味関心をもって取り組むことができる。特に図画工作や生活科での工作等の制作活動は大好きである。しかし、家では、既製品のおもちゃで遊ぶことが多く、自分たちで遊びを考え出したり、手作りのおもちゃで遊んだりすることは少ないようである。

1学期の図画工作で行った水に浮かべて遊ぶおもちゃづくりでは、夢中になっておもちゃを作り、友だちと楽しく水に浮かべて遊ぶ姿が見られた。しかし、友だち同士で教え合ったり、おもちゃを工夫したり、改造したりする児童は、ほとんどいなかった。

昨年度1年生では、「もうすぐ2年生」の単元で保育園児等と年下の子どもたちといっしょに遊んだり、2年生になって学校探検をしたりと、様々な場面で交流することができ、上級生としてどう接すればよいのかを考えて行動することができるようになってきている。しかし、地域の方々とは、学校行事や生活科で農作物のことを教えていただく等の交流をしているが、地域の方々に対して児童から進んで働きかけるような交流はできていない。

そこで、本単元を通じて、うごくおもちゃを作ったり遊んだりするなかで、いっしょに楽しむための工夫や改造の教え合いを子どもたち同士で行うことができるようにしていきたい。さらに、地域の方や保育園児と遊びの交流をすることで、主体的に活動できるような場を設定し、交流する楽しさを味わわせたい。

6 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「自分の思いや願いを実現するために、工夫して活動することができる」ための工夫

- ・ 単元の導入で、動くおもちゃの見本を見せて遊ばせることで、動くおもちゃを作って遊びたいという意欲を喚起する。
- ・ 「つかむ」段階では、おもちゃの仕組みや遊び方の工夫をしたいという思いをもてるように、遊ぶ場をおもちゃごとに設定し、競い合ったり、教え合ったりすることができるようにする。
- ・ 「追求する」段階では、「楽しいお店とはどんなお店か」について考える場を設定し、みんなで話し合った楽しいお店の条件を掲示し振り返らせることで、いつでもそれを意識しながらお店の準備をすることができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「自分のまわりの人にすすんでかかわることができる」ための工夫

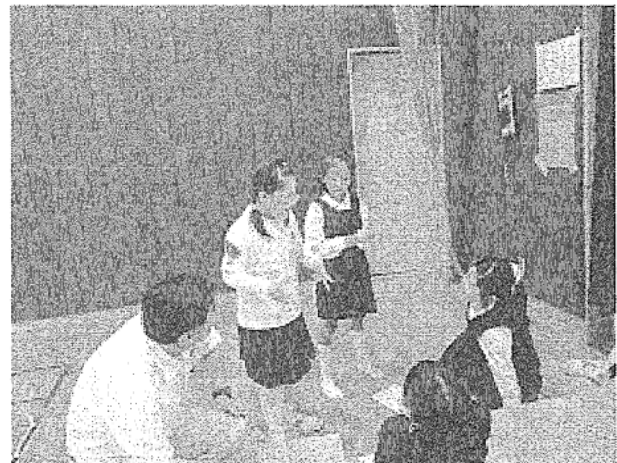
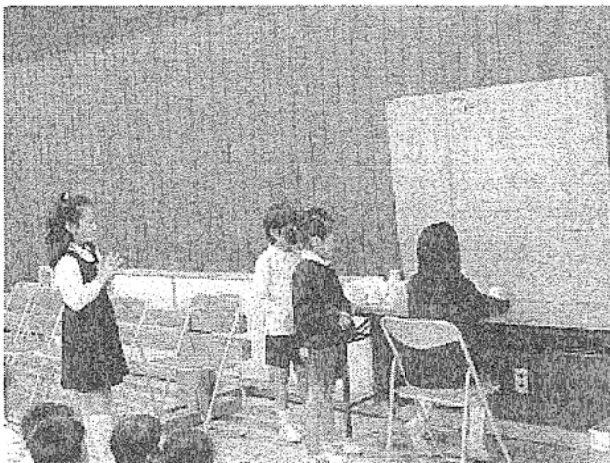
- ・ 遊びに誰を招待するかを話し合わせることで、自分のまわりの人々(1年生、保育園児や地域の方々)に対して、いっしょに楽しく遊びたいという思いをもてるようにする。
- ・ いっしょに遊ぶ相手として、まず身近な1年生を招待し、さらに保育園児や地域の方々へと段階を追って広げていくことで、より相手意識をもって活動できるようにする。
- ・ 「追求する」段階のお店の練習で、お店の人の役とお客さんの役を交代して行うことを通して、双方の立場から、楽しいお店にするための工夫について教え合うことができるようにする。

目標	お店の人の役とお客さんの役になって、教え合うことで、楽しいお店になるように工夫することができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 本時のめあてをつかむ。	○1年生とおもちゃで遊んだ時のことを振り返り、もっと楽しいお店にしようという思いをもつことができるようにする。	
教え合って、もっとたのしいお店にしよう。		
2 学習の見通しをもつ。	○活動の流れを掲示することで、活動の見通しをもたせる。	
3 楽しいお店になるように、自分のお店の工夫を考える。	○教え合う視点を明確にするために、再度楽しいお店の条件を確認するとともに工夫カードを持たせ、確認できるようにする。	
①さくせんタイム （10分） 前半（A店B客） ②教え合いタイム （10分） 後半（A客B店） ③教え合いタイム （10分）	○ <u>さくせんタイムで、同じ店の人同士で工夫について確認する時間を持ち、練習タイムで活かせるようにする。</u> ○2つのグループ（A・B）が組になり、互いにお店役とお客になることで教えやすくする。 ○保育園児役は白帽子をかぶり、大人の役は赤帽子をかぶるようにして、相手を意識して接することができるようにする。 ○1つのお店グループとお客グループを選び、お店役とお客役を演じさせ、演じた後にどのようなアドバイスをすれば良いか発表させることで、教え合いタイムのやり方がわかるようにする。	○楽しいお店になるために教え合うことができた。 （観察、ワークシート）
②教え合いタイム （10分） 後半（A客B店） ③教え合いタイム （10分）	○話し合いがうまくいかないグループには、よかったことや困ったことを相手に伝えるように助言する。 ○教えてもらったことをすぐに取り入れることで教えた側にも教えられた側にも充実感が味わえるようにする。 ○けがをしたり、おもちゃがこわれたり、物が散らかったりしないように約束を確認する。	
4 本時の活動を振り返る。	○お店ごとに、どんな意見を取り入れ、どんな点がよくなったかを発表する場をもつことで、使える考えを共有したり、楽しい店になったことを実感したりできるようにする。	

- | |
|---|
| <p>○児童が教え合ったことを楽しいお店の条件に照らし合わせることで、自分たちの思いにそったお店になったことを確認し、次の活動への意欲につなげる。</p> <p>○本時をワークシートで振り返る。</p> |
|---|

＜成果と課題＞

- ・前時に書いた作戦が「おもしろく、たのしく、やさしく」という視点に沿って書けていた。そのことにより、めあてが明確になっていた。
- ・店と客の役を代表が前でやった場面が良かった。よかった点や改善点を子どもたちの中から言わせるのが難しかったが、たくさん出てきた。
- ・お年寄りや、園児役でモデルをしたときに「おばあちゃん」と言わずに名前を聞こうという意見はかかわりという意味でもとても良かった。
- ・見本で見せた店が壁向きになっていたため、他の子どもたちに見えにくかった。
- ・見本の店については、前時にやっておいても良かったのでは。
- ・工夫カードが活動になると活かせていなかったのも、それぞれのお店に掲示しておくとか、シールを貼るとかできたら立ち返るのに良かった。
- ・教え合いタイムの前半やったあとに集めてみんなの前で発表させると良かったのでは。
- ・お店役ではがんばっていたが、客役では教え合いという立場でなくクレームを付けるという立場の子どももいた。
- ・同じ店で何度も繰り返しお客役をすることがわかっていなかった子どもがいた。
- ・2時間一つながりで行えば、時間的にはもっとゆとりをもっていろんな店を周りながら楽しみながら意見交換ができるのではないだろうか。お店役の人が遊びを終えたあとに司会をするように最初の説明の時にやらせるようにしておけば、もっと子どもたち主体の教え合いタイムになったと思う。
- ・1週間後のおもちゃまつりでは、保育園児や地域の方々に対して「だい三ふじ田よろこび大きくせん」というテーマをもとに、「おもしろく」「たのしく」「やさしく」しようと子どもたちががんばることができたのは、本時の取組が生きていたと思う。



3 單元構想 (全 17 時間)

[illegible]

クロスカリキュラム による授業実践



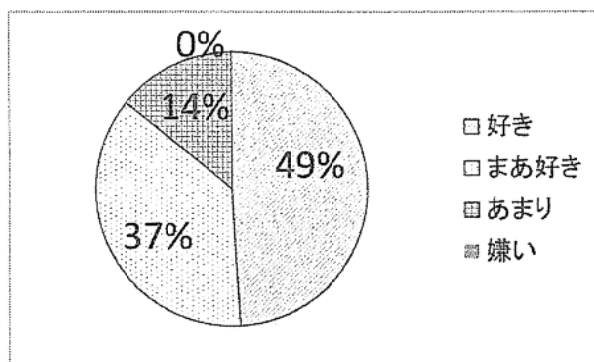
食育の取組について

(1) 児童の実態

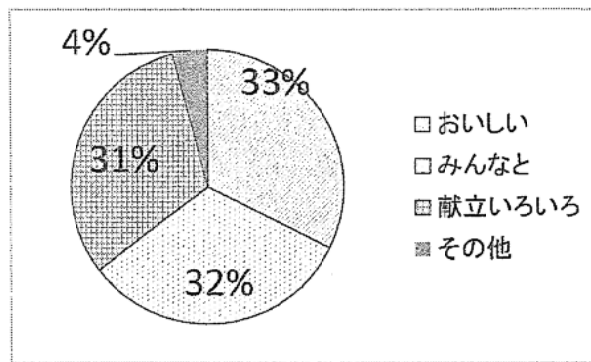
本校の学区は農業地域であり、専業農家は少ないものの、日頃から祖父母等の作ったお米や野菜を食べているという児童が多くを占めている。児童は登下校中の畑で、あたりまえのように様々なお米や野菜を目にしているが、「何という野菜か」「旬はいつか」「どうやって栽培しているのか」などについてはあまり知らなかったり、興味がなかったりする。

食生活についてアンケートを採ってみると、朝食は以前からほとんどの児童がきちんと食べてきており、家庭での意識も高い。また、給食は9割近い児童が好きと答え、その理由は「おいしいから」「みんなと食べるから」「いろいろな献立があるから」という意見が多く、残量も比較的少ない。しかし、残す児童の理由はやはり「嫌いなものがあるから」が多く、食べ慣れていないものを敬遠したり、その食材の良さを知らなかったりする傾向があった。

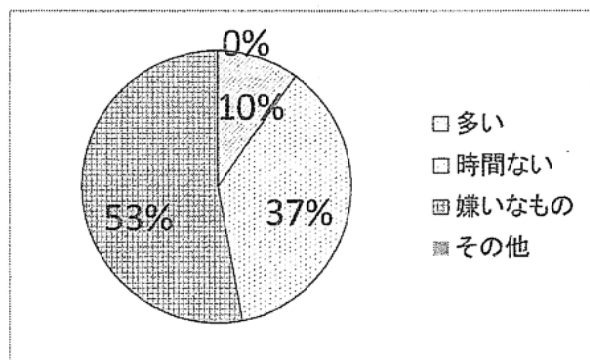
給食は好きですか？



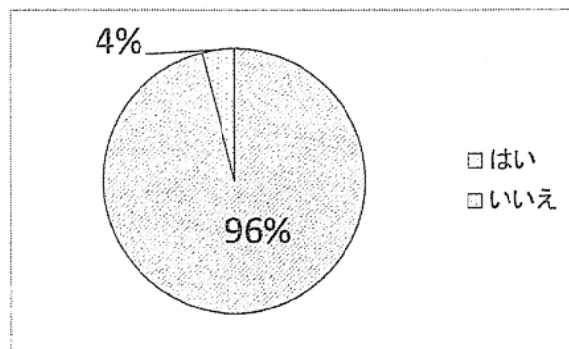
なぜ好きですか？



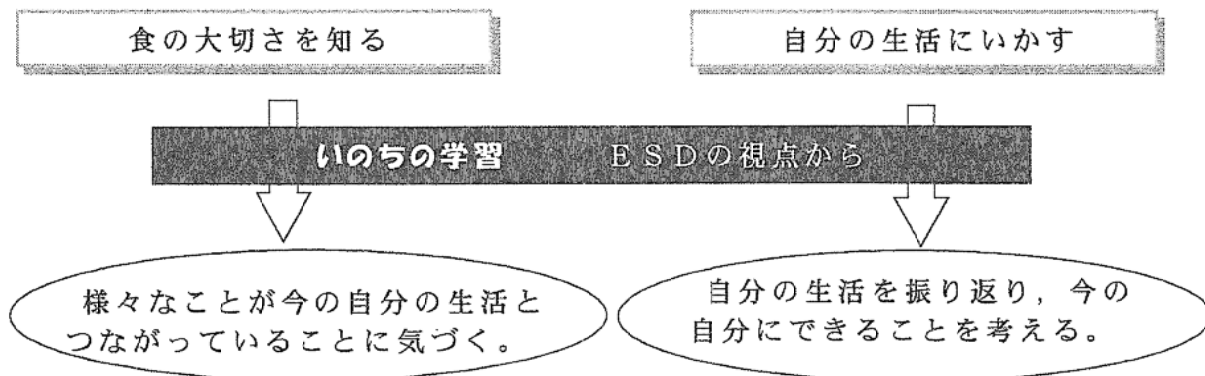
給食を残す理由は？



朝食を食べていますか？



そこで、「食の大切さを知り、自分の生活にいかそうとする子ども」を次のように捉え、研究に取り組んだ。



(2) 研究の視点と主な内容

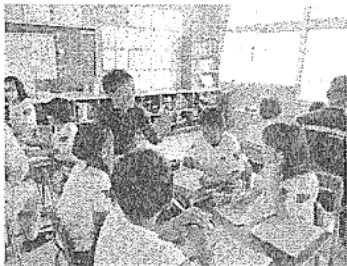
①各教科・領域とのクロスカリキュラムによる授業づくり

- 食に関する指導の全体計画及び年間計画に基づき、生活科、社会科、体育科（保健）、家庭科、学級活動、総合的な学習の時間等に位置づけ、クロスカリキュラムによる授業を系統立てて行う。

<実践例1> 5年生 総合的な学習の時間「プロジェクト八十八」

「藤田に米づくり必要か？」について話し合う。

ふれる



農家の方のお話を聞く



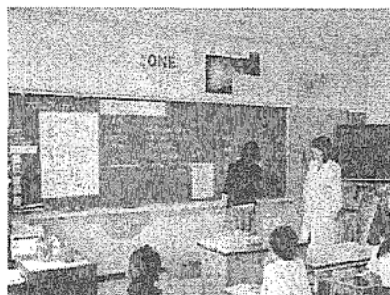
アヒル・アイガモ農法の見学



学校田での稲作体験

つかむ

課題をもつ(提案を考える)



家庭科と関連づけながら
お米の良さについて学習



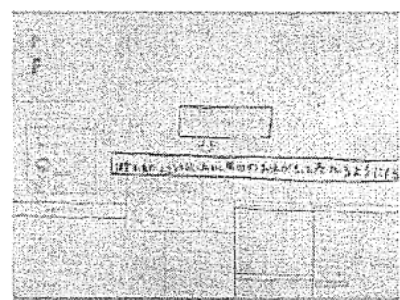
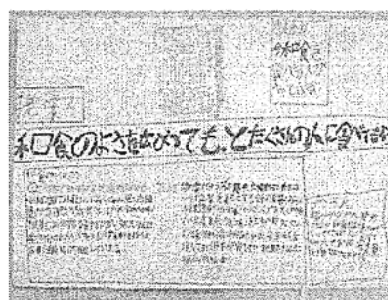
ご飯を炊いて、お米の食べ比べ



バケツ稲による品種別比較実験

追求する

提案書の作成



お米や和食の良さに目を向け、それをテーマに「20年後の藤田の米作りについての提案書」を作成した児童もいた。

活かす

自分の生活を振り返り、できることを実践する

<食に関する指導の視点>

- ・日常の食事に興味・関心をもつ。(食事の重要性)
- ・栄養のバランスのとれた食事の大切さがわかる。(心身の健康)
- ・食品の安全・衛生について考えることができる。(食品を選択する能力)
- ・生産者や自然の恵みに感謝して食べることができる。(感謝の心)
- ・協力して食事の準備・後片付けをすることができる。(社会性)
- ・特産物を理解し、日常の食事と関連づけて考えることができる。(食文化)

(3) 公開授業について 3年生 総合的な学習の時間「三藤のお宝をさがそう」

①単元の流れ

学区の農家を見学する

ふ
れ
る



玉ねぎ農家の見学



いちご農家の見学

レンコンのおいしさのひみつを調べる

つ
か
む



レンコンの試食

追
求
す
る



育て方、レンコン料理、農家の苦労や工夫について調べる。

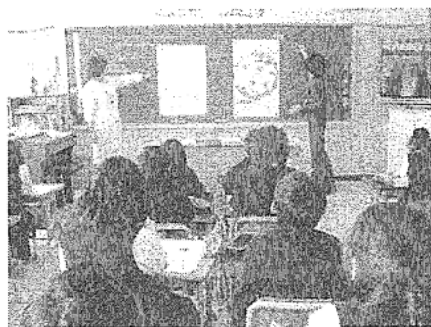
なぜJA女性部の
方は、こんな活動を
しているんだろう？

課題をもつ

活
か
す



みそや豆腐の試食



みそや豆腐のよさを知る授業（本時）

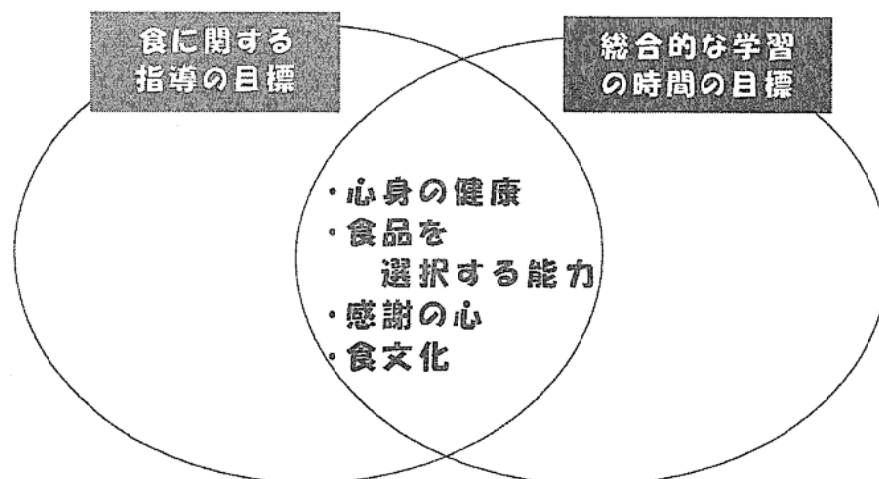


JA女性部の方に
インタビュー

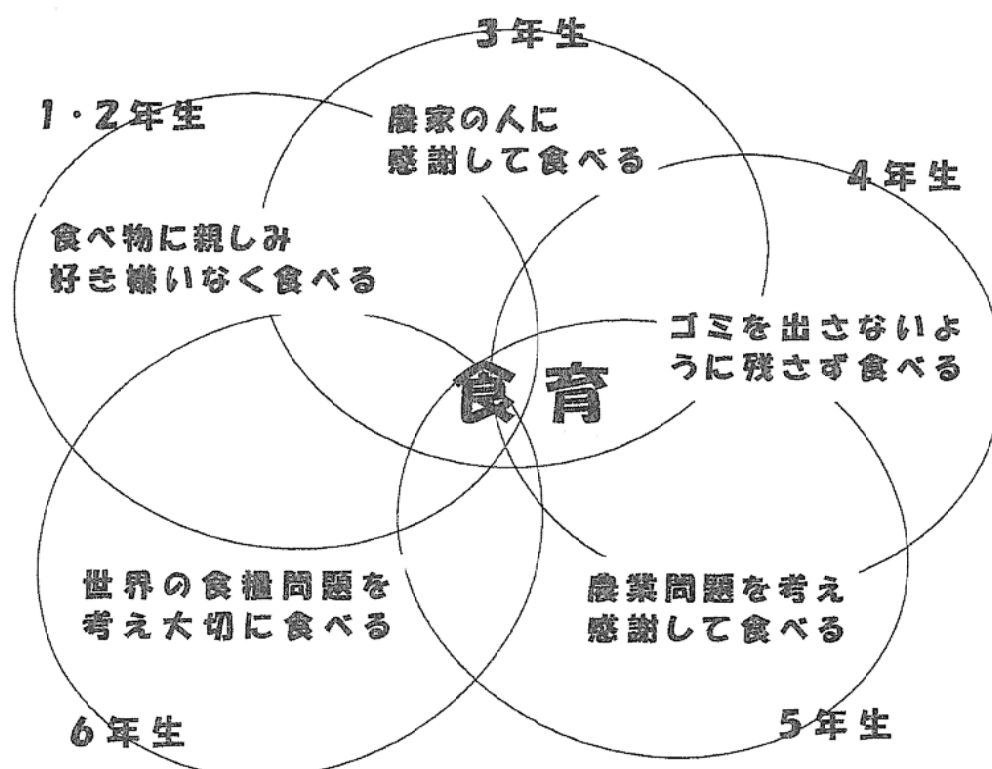


JA女性部の方に
教わって豆腐作り体験

②ねらいについて



総合的な学習の時間としてのねらいは別にあるが、食育の視点を取り入れ、クロスカリキュラムで授業を行うことで、本時では「食事は多くの人々の努力があって作られることを知り、感謝の気持ちをもって食べることができたり、地域の産物に興味をもち、日常の食事と関連づけて考えることができたりする」ようにしている。



そして、1，2年生は生活科で野菜を育てる経験をし、「食べ物に親しみ、好き嫌いなく食べる」

3年生では、農家やJA女性部の方の苦労や工夫を知ることによって「感謝して食べる」

4年生は、環境面から、残食をゴミにしないために「食べ物を残さず食べる」

5年生では、生産者と消費者の両方が幸せになれるよう、自分たちにできることを考え、「地産地消を考え、感謝して食べる」

6年生では、世界の飢餓に苦しむ子どもたちのことを考え、「食べられることに感謝して食べる」というように、様々な視点から食について考え、食の大切さを知り、生活に活かすことができるようにしている。総合的な学習の時間だけでなく、3・4年生の国語、社会、保健体育や、5・6年の社会、家庭科など、他の教科でも積極的に食育を取り入れている。

②給食時間を活用しての取組

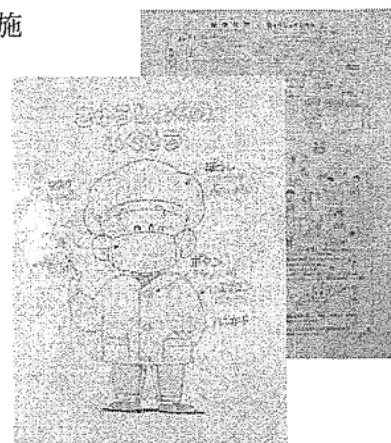
- 学級担任による指導
- 準備・返却時の指導
- 校内放送による献立，地元産の食材，行事食などの紹介
- 年3回のたてわり給食
- セレクト給食・バイキング給食・6年生の立てた献立の実施



たてわり給食



6年生が家庭科で考えた献立



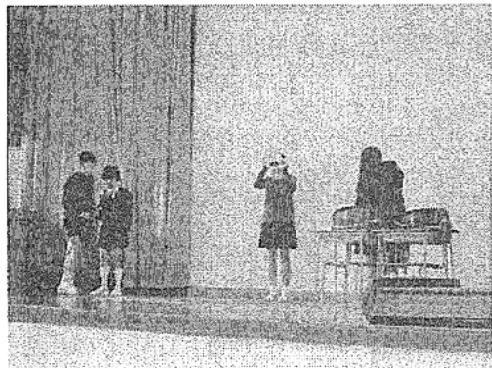
教室の掲示物

③給食委員会の取組

○給食集会

1月の給食週間に合わせて，ショート集会を企画，開催。

劇を通して栄養バランスのとれた食事の啓発や，給食調理員さんへの感謝の手紙の贈呈を行っている。



給食委員会によるショート集会



給食調理員さんへ感謝の手紙

○残食量調査

年に2回の残食量調査を給食委員会が担当。

残食量の少なかったクラスを放送して呼びかけ。

○お誕生日給食の開催

3か月ごとに誕生日の児童を招待して，ランチルームで給食。給食委員会が旬や様々な食材，外国の食べ物などについてのクイズを出題し，グループで楽しく参加する。



お誕生日給食

④家庭への啓発

○食育便りの発行

○生活チャレンジカードの実施

年に3回、生活チャレンジカードで、規則正しい生活習慣への取組を実施。

その中に、朝食の項目を設けて啓発している。

○給食運営委員会の開催

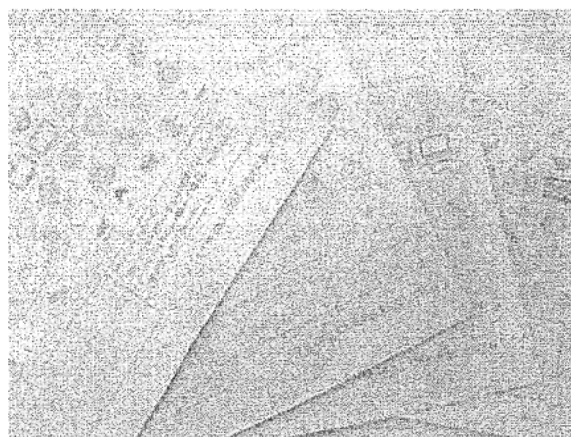
○給食試食会の実施

毎年参観日を利用して、1年生の保護者を対象に給食試食会を実施。子どもと一緒に給食を食べることで、我が子の様子を知ってもらったり、給食についての意見や感想をもらったりしている。

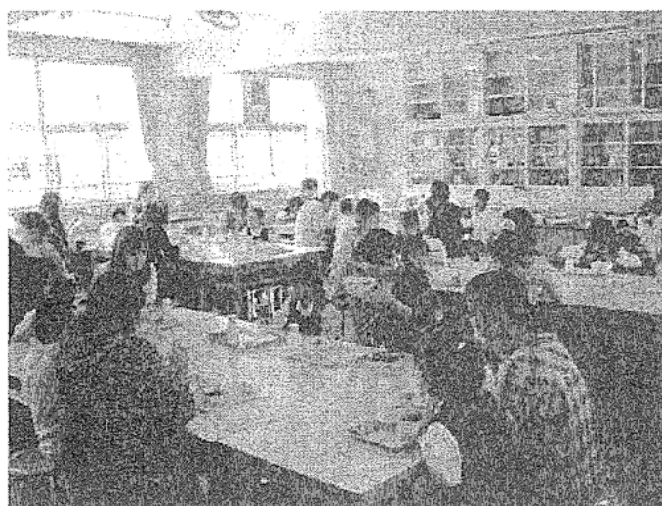
続けて給食運営委員会にも参加していただき、衛生面についてや献立の工夫などについて栄養士から説明を行っている。



食育だより



生活チャレンジカード



親子給食
(給食試食会)

平成27年1月27日(火) 5校時

指導者 T1 3年担任

松本 容子

T2 学校栄養職員 小野 綾子

1 単元名 三藤のお宝をさがそう～三藤の宝物発見！～

2 単元目標

- 藤田学区の農作物やその農家について調べたり、それらを実際に食べてみたりすることを通して、地域への愛着をもつことができる。(かかわる力)
- 藤田の農作物やその農家について自分なりの課題をもち、見学やインタビューをすることで、三藤の宝物は何かについて考えることができる。(課題解決力)
- 調べたことを整理して新聞などにまとめ、わかりやすく工夫して発表したり、友だちの発表について感想を返したりすることができる。(コミュニケーション力)
- 藤田の農作物や加工品を作っている人の苦労や工夫を知ること、食べ物に関心をもったり、感謝の気持ちをもって食べようとする。(実践力)

3 単元構想(別紙)

4 児童の実態

藤田学区は干拓地であり、さまざまな作物をつくる農業がさかんな地域である。大豆についても、以前は田んぼのあぜを有効利用し、多く作られてきた歴史がある。

3年生の子どもたちは2学期に国語科の「すがたをかえる大豆」を学習したことで、大豆には多くの栄養があることや、味噌や豆腐などのさまざまな食品となって食べられていることなどについて学習してきている。しかし、大豆が加工されて食べられていることについてよく知る反面、なぜ大豆が加工されて食べられているのかという理由や、藤田学区で大豆を加工して多くの人に食べてもらう活動をされている方々がいることなどについては知らない。また、実際に大豆から豆腐作りなどを経験した児童は少なく、知識はあるものの実体験は十分とは言えない。

5 単元について

3年生の総合的な学習の時間のテーマは「三藤のお宝をさがそう」である。はじめての総合的な学習の時間ということもあり、まずは実際の農家を見て回り、知るところから活動を始めている。

「ふれる」段階では、学区のいちご農家・玉ねぎ農家に見学に行き、それらについて見聞きしたことをまとめる活動を行った。総合的な学習の時間とはどのような学習かを知るとともに、今まで身近ではあったものの詳しく見ることのなかった農業の様子を見たり、知りたいことを農家の方にインタビューしたりする経験を積むことで、これからの学習の導入的内容となると考えた。

「つかむ」段階では、学区のレンコン農家に絞って見学・調査を行った。まず、みんなでレンコンを調理して食べてみて「おいしい」と感じることで学習への意欲をもたせた。そして1学期と同じように農家へのお見学を行い、話を聞いてメモを取り、学習したことを個人でまとめる活動を行った。

「追求する」段階ではさらに、見学後調べたことを加え、グループごとにまとめて伝え合った。農家の方がおいしいレンコンを育てるためにされてきた工夫や苦労にも気づくことができた。

「活かす」段階では、藤田学区で大豆を味噌や豆腐に加工して多くの人に食べてもらおうと活動されているJA女性部の方と豆腐作りを体験したり、お話を聞いたりする。それらの活動を通して、JA女性部の方が経験されてきた苦労や工夫、そしてどんな思いをもってその活動をされているかに気づくことができるようにしたい。

以上4つの段階を通して、藤田には広大な農地で作物を作るさまざまな名人がいることや藤田でとれた作物で加工品を作り、その良さを広めている人がいることを知ることによって藤田に愛着をもつことができるようにしたい。

6 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」及び食育部研究主題「食の大切さを知り、自分の生活にいかそうとする子どもの育成」にせまるために、次のような手立てを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「自分の課題について、大まかな見通しをもって追求することができる」ための工夫

- ・ JA 女性部の方がなぜ味噌と豆腐を作っているのかについて、2 学期までの学習を振り返りながら予想させることで見通しをもって調べることができるようにする。
- ・ 国語科の「すがたをかえる大豆」の学習と結びつけることで、課題をつかみやすくする。
- ・ 単元の導入時に JA 女性部の方が作った味噌と豆腐を食べることで、興味関心をもたせる。
- ・ 子どもたちにとって身近な給食に味噌と豆腐がどのくらい給食に出ているか調べることで、自分たちの食生活に味噌と豆腐が大きくかかわっていることを実感できるようにする。

「学習を通して培った自分の考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考え、自分の生活に活かすことができる」ための工夫

- ・ 藤田の農作物や加工品を作っている人の苦労や工夫を知ったり、思いにふれたりすることで、感謝の気持ちをもって食べようとするようにすることができるようにする。
- ・ 藤田の農作物が自分の食生活と大きく関わっていることを知ることで、食べ物に関心をもつことができるようにする。

(2) 他者（人・もの・こと）とのかかわり

「自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、地域で行われている工夫や努力に気づくことができる」ための工夫

- ・ JA 女性部の方にインタビューをすることで、JA 女性部の方がどんな思いをもってこの活動をされているかに気づくことができるようにする。
- ・ JA 女性部の方と一緒に豆腐作りを体験することで、JA 女性部の方の技術のすばらしさや、今までされてきた苦労や工夫に気づくことができるようにする。
- ・ 藤田の農作物を使って加工品を作る活動を調べて新聞などにまとめて発表する場を設けることで、友だちの考えを知り、それについて意見や感想を言うことができる。

7 食に関する指導の視点

- いろいろな食品や料理の名前がわかる。【食品を選択する能力】
- 健康に過ごすためには食事が大切なことがわかる。【心身の健康】
- 食事は多くの人々の努力があって作られることを知り、感謝の気持ちをもって食べることができる。【感謝の心】
- 地域の産物に興味をもち、日常の食事と関連づけて考えることができる。【食文化】

8 本時について

前時に、「JA 女性部の方はなぜ味噌と豆腐を作る活動をしているのだろうか。」という問題を提起し、それについて予想を立てる。「藤田で大豆を作っているからではないか。」や「味噌と豆腐に栄養があるからではないか。」といった予想が出てくると思われる。本時では、導入の部分で、その予想の中の「味噌と豆腐そのものに良さがあるからではないか。」と考えたものについて取り上げることで、味噌と豆腐の良さを意識することができるようにしたい。そして、給食の献立に味噌と豆腐が多く出されていることから、味噌と豆腐が自分の食生活に大きく関わっていることに気づくことができるようにする。

段階	学習過程	児童の学習活動	児童の意識の流れ	国語	その他
ふれる	三藤のお宝をさがそう	○総合的な学習の時間オリエンテーション ○「三藤のお宝」について話し合う。 ○学区を調べる計画を立てる。 いちご・玉ねぎ・用水・妹尾川・お店・建物・田畑・レンコンなど ○いちご農家と玉ねぎ農家について調べる。(探検・見学など) ○調べたことを新聞や模造紙にまとめる。(個人) ○一学期に学んだことを振り返る。	・総合的な学習の時間ってどんな学習をするんだろう。 ・3年生では、藤田の学区について勉強するんだな。 ・お宝って何だろう？ 友だちの考えを聞いてみよう。 ・三藤の学区の田んぼはどこまで広がるかな。 ・いちごはピニールハウスでつくられているんだね。 ・玉ねぎを調べるのに機械を使っているんだ。 ・学区の中には、いちご作りの名人や玉ねぎ作りの名人がいたよ。 ・他の名人もさがしてみよう。	国語 「よく聞き手になろう」 「気になる記号」 「報告書の書き方」 社会 「たけのこしゅっぱつ」 「学区のようす」 理科 「たねをまこう」 「どれぐらい育ったかな」 道徳 「祭りだいて」	その他 難波商店 いちご農家 玉ねぎ農家
つかむ	レンコンのひみつをさがそう	○藤田のレンコンを食べる。 ○レンコン農家へ見学に行く。 ○1回目の見学で見えてきたことを個人で新聞にまとめる。 ○みんなで見えてきたことを交流し、さらに調べたいことの計画を立てる。(本時) ○レンコン農家に2回目の取材をする。 ○グループで今まで調べてきたことについてまとめる。 ○まとめたことを家の人に伝える。	・藤田のレンコンも有名らしいよ。 → ・一度食べてみようか。 ・レンコンってこんなにおいしいんだ。 ・こんなにおいしいレンコンをどこでどうやって育てているんだろう。 ・じゃあ、まずレンコン畑を見に行こう。 ・思っていたよりもレンコン畑は広いなあ。 ・レンコンは土の中に埋まっているんだね。 ・機械ができてきたらレンコンを作っているのか聞こう。 ・名人はいつかレンコンを作っているんだろう。 ・なんでこの藤田でレンコンを作っているんだろう。 ・では、もう一度詳しく教えてもらおう。 ・1年が一番大きな時はいつだろう。 ・収穫や出荷はどうやってしているんだろう。 ・肥料をくふうするとレンコンがおいしくなるんだね。 ・聞く人がわかりやすいように伝えよう。 ・農家の苦労が伝わるといいなあ。	社会 「人々のくらしをささえるしごと」 理科 「育ち方を調べよう」 道徳 「おばあさんときれいな歩道」 学校行事 社会科見学	レンコン農家 中原さん レンコン農家 中原さん
追求する	三藤の宝物発見！	○今までの活動を振り返り、藤田で豆腐やみそを作っている人がいることを知る。 ○藤田で作ったみそや豆腐を食べておいしさを感じる。 ○豆腐とみそについて疑問に思ったことを調べる。 ○豆腐とみそについて学ぶ。(食育) ○なぜ豆腐やみそを造っているのか予想する。 ○JA女性部の方にインタビューする。 ○豆腐作りに挑戦する。 ○JA女性部の方に豆腐作りを教わる。 ○JA女性部の方の活動の理由について話し合う。 ○三藤のお宝について考え、まとめる。	・三藤のレンコン作りの名人は、さまざまな工夫や苦労をしてレンコンを育ててきたんだね。そんな名人も、三藤の宝ものだね。 ・作っているのは農作物だけじゃなく、豆腐やみそなんじゃないかな？ ・藤田には、こんなにおいしい豆腐やみそを作っている人がいるんだって。 ・でも、なぜ豆腐やみそを作っているのか？ ・大豆は栄養が豊富で、加工することで毎日のように食べているんだね。 ・みんなはたくさん食べてもらいたいからじゃないかな？ ・自分の作った豆腐で食べてみると、世界で一つのものができるんだね。 ・ばくちくも作りたいな。名人に教えてもらおう。 ・うまくて固まってきた豆腐。名人に教えてもらおう。 ・今でもおいしいものを作るために頑張っているんだって。 ・藤田の良さを広めるために頑張っているんだって。	国語 「本で調べて、ほうこくしよう」 「しりよりからわかったことを発表しよう」 「百科事典や図鑑の使い方」 社会 「今に残る昔とくらしのうつりかわり」 算数 「表とグラフ」	小見山さん JA女性部

9 本時案

目標	給食の献立を調べたり学校栄養職員の話の聞いたりする活動を通して、味噌と豆腐の良さを考えることができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○ 前時に、JA 女性部の方が味噌と豆腐を作る理由を予想したことを想起させ、味噌と豆腐に何かひみつがあるからではないかと予想したことを振り返り、本時のめあてをつかみやすくする。 ・ 藤田で大豆を作っているから。 ・ おいしいから。 ・ えいようがあるから。	
みそと豆ふのひみつを見つけよう。		
2 予想をたてる。	○ 国語で「すがたをかえる大豆」を学習したことを想起させ、予想を立てやすくする。 ・ えいようがある。 ・ おいしい。 ・ よく食べられている。	
3 給食の献立表などをもとに、味噌と豆腐のよさを探る。	○ 自分たちがどのくらい味噌と豆腐を食べているか調べるために、共通の食事である給食の献立表を使用することを知らせる。 ○ ある月の給食献立表の主要材料の項目から、味噌と豆腐が使われている部分を赤で囲み、味噌と豆腐が使用されている日付欄に赤シールを貼ることで、味噌と豆腐は、1 か月の給食に何度も出るくらい身近な食品であることに気づかせる。 ○ 味噌と豆腐をよく食べていることや、いろいろな料理に使われていることについての気づきを共有しやすくするために、グループでの活動にする。 ● 給食の献立を例に、味噌と豆腐がどんな料理に使われているか知らせることで、味噌と豆腐が和食に限らず、様々な料理に使われていることに気づくことができるようにする。 ● 栄養の三色分け表に味噌と豆腐を位置づけることで、味噌と豆腐には体をつくる働きがあることを理解しやすくする。 ● 大豆そのものと比較することで、豆腐と味噌の消化・吸収のよさがわかるようにする。 ● 味噌の歴史について伝えることで、日本人の知恵や伝統的な食品になったことを理解できるようにする。	◎給食の献立表の中から、味噌と豆腐を見つけることができる。(活動・ワークシート) ④味噌と豆腐が自分の食生活に大きく関わっていることに気づくことができる。(活動)
4 まとめをする。	○ 味噌と豆腐のひみつをまとめる。 ・ いろいろな料理に使える。 ・ 消化がよく、えいようがとりやすい。 ・ 昔から食べられている。 ○ 味噌と豆腐のひみつについて分かったことや思ったことを書かせる。 ○ 次時は、味噌と豆腐を作る理由について実際に JA 女性部の方にインタビューすることを伝え、次時への意欲をもたせる。	○味噌と豆腐のひみつについて分かったことや思ったことを書くことができる。(ワークシート)

○担任 ●学校栄養職員

学年	岡山市立第三藤田小学校 ESDカレンダ－3年生											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	よい朝の手に なろう		空にかき記号 報告書の書き 方		②		すがたをかえる大豆		しりとりから わかったことを 発表しよう		水で調べて はぐくみよう	
社会	① たんけんしゅっぱつ 学区のようす		①		人々のくらしをささえるしごと		G		今に残る昔と今の くらしのうつりがかわり		③	
算数	A		①		E		④		①		⑤	
理科	たねを まこう		どれぐらい にかな		育ち方を調べよう		⑤		⑤		⑤	
総合	三藤のお重って何だろう？		三藤のお重って何だろう？		レンコンのひみつをさがろう		三藤のお重発見！（本時）		⑤		⑤	
朝の時間	いちご 農家		五ねぎ農家		D		F		れんこん農家		JA女性部	
道徳	祭りだ いこ		おば あさん とされ いふ		⑤		⑤		⑤		⑤	
音楽	⑤		⑤		⑤		⑤		⑤		⑤	
学校の時間	社会 科見 学		収穫 祭		給食 週間		⑤		⑤		⑤	

技能面

	問題内容	
A	学区について知る。	
B	植物の育ちを知る。	
C	動物の育ちを知る。	
D	郷土に親しむ。	
E	人々のくらしを変える仕事を知る。	
F	くらしを支える仕事をしている人に感謝の気持ちをもつ。	
G	大豆について知る。	
H	ものづくりをしている人の苦労や工夫	
I	大豆を加工するための甘の道具や昔の人の知恵について知る。	
J	収穫を喜ぶ気持も 食への感謝の気持ち	
K	食への感謝の気持ち 調理してくださる方への感謝の気持ち	

①	話の聞き方
②	報告書の書き方
③	表の見方、書き方
④	資料からわかったことの発表の仕方
⑤	百科事典や図鑑の使い方

授業反省

<T 1>

- ・ 子どもたちがとても緊張して、最初の予想を立てるところで時間がかかってしまったので、学習活動3の時間が短くなってしまった。
- ・ 総合的な学習の時間のねらいから、みそと豆腐を同時に扱ったので、子どもたちが混乱しないか心配だった。「豆腐のひみつ」「みそのひみつ」に分けてまとめるなどの工夫をした方がよかったのだろうか？
- ・ 給食の献立に印をつけた後、子どもたちに思った程感動がなかった。印をつける活動をしなくても、みそや豆腐をよく食べていることをよく知っていた。しかし、給食の献立を使うことで、最後に「給食にはこんなにいいものが使われている」という振り返りにつながったのはよかった。



<T 2>

- ・ 時間が短くなったので、担任との掛け合いなどが十分にできず、一方的にしゃべってしまった。
- ・ パン食が増えてきているので、日本で受け継がれてきた伝統の食べ物を知って欲しかった。しかし、3年生にわかるように説明するのは難しかった。



研究協議・指導講評

- ・ 予想のところでしっかりと考えさせたので、よい考えがたくさん出たし、子どもたちの主体的な学びになった。
- ・ 子どもたちが立てた予想に応じて深めていき、それをまた予想に対応してまとめていくという学習の流れが、子どもたちの思考の流れに合っていてとてもよかった。
- ・ T 1とT 2の役割が、きちんと打ち合わせされていてよかった。
- ・ 給食の献立を使うことで、栄養士が登場する必要感が生まれる。自分に身近なこととして捉えられるという点でもよかったのではないかな。子どもたちはとても楽しみながら活動できていた。他の食品と比較すれば、たくさん食べられていることが実感できたのではないかな。
- ・ 栄養だけでなく、作る人の思いや地域とのつながりもあり、とてもよい取組だと思う。
- ・ 学校栄養職員の話は、専門性があってよかった。写真などの資料もわかりやすかった。
- ・ 地域のみそを始めに食べてみるのは、とてもいい導入。
- ・ 「ひみつ」という言葉が漠然としていて、子どもたちにはわかりにくかったのではないかな。「大豆のパワーを見つけよう」などの目標の方がよかったのでは？
- ・ 「すがたをかえる大豆」の振り返りがもう少しできていれば、予想が出やすかったのではないかな。
- ・ 学習を深める活動のところが時間が短くなってしまったのが残念だった。
- ・ 説明の情報量が多すぎた。もう少し内容をしぼることと、栄養士の説明から担任が必要なものを選び、整理してまとめるとわかりやすかった。
- ・ 話が広がりすぎてしまったので、3色分けは、今回は必要なかったのではないかな？
- ・ 「油揚げ」や「厚揚げ」などの加工品の扱いが難しい。
- ・ 学びを今後の自分の生活に活かせるような取組を大切にしたい。家庭に負担をかけない程度に伝えていくことも必要。
- ・ 保健指導、図書指導等との連携も考えてみてはどうか。



平成26年6月20日(水) 3校時

指導者 T1 専科

板倉 真由美

T2 学校栄養職員

小野 綾子

1 単元名 プロジェクト八十八 ～20年後の藤田の米作りについて考えよう～

2 単元目標

- 藤田の米作りのいいところや問題点から自分なりの課題をもち、提案書を作成することを通して20年後の藤田の米作りについて考えることができる。(課題解決力)
- 米作りに携わっている人たちへの取材や交流を通して、米作りのための工夫や努力に気づき、地域に愛着をもつことができる。(かかわる力)
- 作成した提案書をもとに資料を提示しながら説明や提案をしたり、友だちの考えを聞いて質問や助言をしたりすることができる。(コミュニケーション力)
- 社会の一員として、今の自分にできることを考え、実践しようとするすることができる。(実践力)

3 児童の実態

藤田は干拓地であり農業がさかんな地域である。両親や祖父母が米作りをしていたり、1年生の時から学校田で田植えと稲刈りの体験をしてきたりしているため、児童にとって米作りは身近なものである。しかし実際の米作りの作業やお米の品種などについてはほとんど知らない。

学習の始めに「藤田に米作りは必要か?」と投げかけてみた。「必要」と答えた児童が28名中27名と大多数であったが、「田んぼではなくお店があった方がいい。」「お米は他の県から買えばいい。」と考える児童もいた。また、藤田に農業は必要と考える反面、「将来農業をしたいか?」との問いに「はい」と答える児童はほとんどおらず、その理由としては「ダサい感じがする」「大変そう」「儲かりそうにない」というものだった。この結果から、地域の農業後継者クラブ方7名に来ていただき、直接話を聞くことにした。若い専業農家の方の話を聞くうち、「もっと農業について知りたい」「農業のイメージが変わった」と話す児童が出てきた。

そこで、「20年後の藤田の米作りがどういう姿になっているとよいと思うか」を米作りのよい点と問題点を手がかりに自分なりの考えをもち、一人ひとりが提案書を作成していく。バケツ稲による比較実験やフィールドワークでのインタビュー、お米の食べ比べなど、実際に自分たちの手で調べたことを根拠にすることで、実感をともなった提案書を作成させたい。

4 単元について

藤田中学校区における5年生の総合的な学習の共通テーマは「藤田に農業は必要か」である。児童は3年生の総合的な学習の時間で、地域の農業について学習している。レンコンの栽培法やおいしい食べ方などを教わることで、自分たちの地域には素晴らしい作物があり、それをつくる名人がいることを学んでいる。また、本校では、毎年5年生が中心となって、学校田でもち米を育てる活動をしている。5年生は、社会科で日本の農業や食料生産についても学ぶので、自分たちの住んでいる藤田学区の米作りを学習の場にするによって、課題の設定・情報の収集・まとめ発信という探究的な学習に意欲をもって取り組むことができると考えた。また、当たり前のように見慣れたこの水田は、栽培する人のいろいろな思いが込められ、地域の人たちの努力に支えられている素晴らしい財産であることに気づくことで、さらに郷土を大切に思う気持ちが深まることを期待している。

「ふれる」段階では、「藤田に米作りは必要か」というテーマで話し合った。実際にもみ蒔きを体験し、自分の手で苗を育てたり、社会科で農業について学んだりすることで、米作りに興味をもつ児童が増えると考えた。また、実際に米作りをされている農家の方に話を聞く機会を設けた。農業に対する思いや食を担う農業の大切さを知ることで、「米作りは必要だ」と考える児童が増えると考えた。さらに、「主食としてのお米のよさ」についても学習することで、提案を考える際の視点を増やすと同時に、より身近な問題としてとらえられると考えた。

「つかむ」の段階では、児童一人ひとりが「20年後の藤田の米作りがどうなっているとよいか」という自分なりの考えをもち、農家の方から聞いた農業のよい点と問題点の両面から考えることで、具体的な課題をもちやすくなると考えた。また、いくつかの種類の種籾を入手し、実際に自分たちの手でバケツ稲を育てて観察や比較実験をすることで、課題解決の手がかりとしたい。

「追求する」の段階では、フィールドワークで米作りに携わっている人たちにインタビューをして教わったことや、バケツ稲を使って調べたことをもとに、自分たちの思い描く20年後の藤田の米作りについての提案書を作成する。まずは一人ひとりで「藤田の米作りがどうなるとよいか」という自分の課題について調べ、提

案書を作成する。

「生かす」の段階では、グループで提案書を見直す。まず、一人ひとりが作成した提案書について友だちと考えを交流し、互いの提案についてのメリット・デメリットを洗い出す。次に似た考えをもつ児童のグループで、そのデメリットを解決する方法を考える。その際に地域の農業後継者クラブの方々と共に考える機会をもつようにする。例えば安全なお米作りするための「手間がかかる」というデメリットを解決しようとする、と、「機械化するとお金がかかる」という新たなデメリットが生まれ、解決することは難しい。その中で地域の農家の方々がどんな努力や工夫をしたり、何を大切にしているのかに気づかせたい。そして、そんな農家の方々の努力や工夫を知ること、自分の故郷である「藤田」を誇りに想う気持ちを育てたい。また、今の自分たちにできることを考え実践することで、自分たちの生活をふりかえるきっかけとしたい。

5 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」及び食育部研究主題「食の大切さを知り、自分の生活に活かそうとする子どもの育成」にせまるために、次のような手立てを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる」ための工夫

- ・ 農家の方から、農業のよいところと問題点の両面から話を聞くことで、課題意識をもって学習に取り組めるようにする。
- ・ 「20年後の米作りはどうなっているとよいか」について話し合い、「こうなって欲しい」という自分なりの考えを初めにしっかりともち、何について調べればよいのか見通しをもち、調べ学習に入れるようにする。
- ・ お米について、栽培法、農業機械、販売、栄養、調理など、様々な側面から迫ることで、それぞれのつながりに気づいたり、多様な考えをもったりできるようにする。
- ・ バケツ稲による比較実験、お米の食べ比べ、アンケートなど、自分たちの手で実際に調べたことを根拠に提案書を作成することで、実感を伴った提案書になるようにする。
- ・ 地域にフィールドワークに出かけ、米作りに携わっている方たちに直接質問する機会をもたせることで、地域の方の思いや願いにもふれることができるようにする。
- ・ 違う考えをもった友だちや農業後継者クラブの方と考えを交流する機会をもち、「よりよい米作り」には様々な考えや見方があることに気づくことで、更に自分の考えを見直し、米作りについて深く考えることができるようにする。

「社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしようとすることができる。」ための工夫

- ・ 農家の方の思いにふれることで、今の自分の食生活をふり返り、感謝の気持ちをもって食べることができるようにする。
- ・ 日本の抱える農業問題が、今の自分の生活とつながっていることに気づくことで、生活を見直したり、自分にできることを考えて実践したりすることができるようにする。

(2) 他者（人・社会・自然）とのかかわり

「自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができる」ための工夫

- ・ 地域の農家や農業後継者の方と何度も交流し、思いや考えを聞く機会を設定することで、どんな思いをもって農業に取り組んでいるかに気づけるようにする。
- ・ 調べ学習と学校田やバケツ稲の実践を平行して行うことで、調べたことを実感したり、栽培活動に活かしたりできるようにする。
- ・ 農家、JA、栄養士など、米に関わる様々な立場の人から学ぶことで、農業や農産物に対する視野を広げることができるようにする。

6 食に関する指導の視点

- 日常の食事に興味・関心をもつ。
- 栄養のバランスのとれた食事の大切さがわかる。
- 五大栄養素と食品の3つの働きがわかり、好き嫌いせずに食べることができる。
- 生産者や自然の恵みに感謝し、残さず食べることができる。
- 特産物を理解し、日常の食事と関連づけて考えることができる。

- 【食事の重要性】
- 【心身の健康】
- 【心身の健康】
- 【感謝の心】
- 【食文化】

7 本時案

目 標	給食に、なぜ多くのお米が使われているのかを考える活動を通して、お米のよさに気づくことができる。	
学習活動	教 師 の 支 援	評 価
1 給食に米がたくさん使われていることを知り、本時のめあてをつかむ。	○精白米、もち米、玄米、タイ米から給食のお米がどれかを当てるクイズをすることで、興味をもって学習に入れるようにする。 ○給食の献立の中から、米の食品を見つけさせることで、ほぼ毎日給食でお米を食べていることに気づかせる。(精白米・玄米) ○●他にも給食には米製品がたくさん使われていることを紹介し、調味料を含めた献立表を見せることで、お米が給食に欠かせない食材であることを実感させ、本時のめあてをつかませる。 (米粉パン、米粉麺、米酢、料理酒、みりん、味噌など) ☆様々なものに加工される	
なぜ給食にはこんなにお米が使われているのだろう？		
2 予想をたてる。	○これまでの知識をもとに予想を立てることで、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・栄養があるから ・手に入りやすいから ・たくさんあるから ・いろんな料理になるから ・日本の主食だから ・安いから	○課題に対する予想を立てることができる。(ワークシート)
3 給食の献立表をもとにお米が多く使われる理由を探る。	○日本のお米の生産量を提示することで、お米が日本でたくさん穫れていることや、日本の「主食」であることを確認する。 ●主食という面から、おかずに注目させることで、和食のおかずだけでなく、洋食や中華にも合う食材であることに気づかせる。 ☆いろいろなおかずに合う ●ご飯を主食にすることで、おかずとして様々な栄養がとりやすくなるという利点や、腹もちのよさにもふれることで、主食としてのすばらしさにも気づけるようにする。 ☆腹もちがいい、バランスがよくなる ○赤・黄・緑の栄養素に分類することで、大切なエネルギー源になっていることがわかるようにする。 ●栄養士から、赤・黄・緑の栄養素をもとに話を聞くことで、お米のもつ栄養価の豊富さに気づけるようにする。 ☆様々な栄養素が含まれている ○和食が世界文化遺産に認定されたことにふれ、世界に認められたすばらしい食材であることがわかるようにする。	
4 本時のまとめをする。	○ワークシートに「なぜ給食にはこんなにお米が使われているのか」という課題の答えをまとめることで、お米のよさについて意識づけできるようにする。 ○感想を書かせる際に、助言をすることで、自分の生活をふり返ったり、活かしたりしていけるようにする。	
5 次時の学習を知る	○お米のよさに反して、消費量が減少している資料を提示し、問題提起することで、自分の提案を考える上での手がかりになるようにし、次時には具体的な提案を考えることを知らせる。	○課題に対する自分の考えを書くことができる。(ワークシート)

○ T 1 ● T 2

5年総合的な学習の時間 単元構想 (全85時間) 藤田中学校区5年生共通テーマ『藤田に農業は必要か?』

＜育みたい力＞

- 調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。(課題解決力) ESD②
- 自分や学年全体の課題について見通しをもって追求することができる。(課題解決力) ESD①
- 自分の学年全体の課題に進んでかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができる。(かかわる力) ESD③
- 目的や意図に基き、資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる。(コミュニケーション力) ESD④
- 社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしようにとすることができる。(実践力) ESD⑦

段階 学習過程	児童の学習活動と意識の流れ	他教科との関連	その他
ふれる (⑩)	藤田の農業について話し合おう。 必要！ おじいちゃんやおばあちゃんが田んぼを守ってきたから、そのために干拓した土地だから、田んぼは必要ない！ 田んぼよりお店が欲しい。他から買えばいい。 農業のよい点や問題点について話を聞こう。 食料としてのお米について学ぼう (本時) 20年後、今の米作りがどうなっているのか考える。 おいしいお米ができるといい。作業が楽になるといい。よく売れるようになるといい。安全なお米ができるといい。もっとお米作りをする人が増えるといい。 アヒル農法の見学 (興陽高校) 個人でテーマを決める。 テーマに沿って調べる。 パケツ稲で実験 ・1本の苗からとれる屋。 ・品種によってどんな違いがあるか。 ・どんな病気になるか。 ・どんな虫がくるか。 アヒルをつかって安全な米作りができるんだね。お米は高い値段で売れるんだって。でも手間がかかって大変みたいだよ。 お米の種類によって、大きさや形が違う。色もちがうよ。調べるによって、育ち方や採れる量も違うのかな？ 手作業で植えると大変だね。2、3本の苗が、本場に贈るのかな？この後どんな世話をするのかな？ 鳥よけの仕掛けをする。・教わったことを活かして実践する。 箱刈りをする (全校行事) ・刈り方を説明する。 お米を乾燥させる。・天日干しにする。 もみすり 収穫祭 (学校行事) ・収穫した餅米で、地域のひととお餅をついて食べる。 ・地域のひとに提案書を発表する。 意見交換し自分たちができることを考えよう。	社会 「米作りのさかんな地域」「さまざまな土地のくらし」 国語 「きいて、きいて、きいてみよう」 (インタビューの仕方) 理科 「植物の発芽と成長」 国語 「次への一歩活動報告書」 家庭科 「五大栄養素のはたらき」 社会 水産業のさかんな地域」 「ごはんをみそしる」 国語 「わたしたちの『図書館改造』提案」 「インターネットを使って調べる」 「グラフや表を引用して書く」 社会 「これからの食料生産」 国語 (本時2) 「すいせんします」 算数 「百分率 割合のグラフ」	協力依頼 地域の方 岡山大学 農業 後継者 興陽高校 地域の方 岡山大学 農業 後継者

岡山市立第三藤田小学校 ESDカレンダー 5年生												
第5学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											
社会	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											
算数	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											
理科	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											
総合	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											
英語	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											
音楽	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											
学校行事	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫											

内容・心算面	問題内容
A	植物の発芽と生長に必要なもの
B	現在の米作りの問題点や、それに従う人たちの努力、工夫
C	それぞれの土地にあった農業や暮らし方の工夫
D	食がでるしくみ
E	水資源における問題点や、それに従う人たちの努力、工夫を米作りと比べる
F	食料生産をよりよくするためのさまざまな取組や、今後の問題点
G	お米のつくり手や日本食のよさ
H	先人の努力を知り、糧土を敬する気持ち
I	お米の消費について
J	先人の努力を知り、糧土を敬する気持ち

技能面	到達内容
①	インクビューの仕方
②	稲作の観察方法
③	インターネットで調べるときに注意
④	グラフや表の引出し方
⑤	算数の求め方、それを使ったグラフの書き方
⑥	ごちの炊き方
⑦	稲刈りの書き方
⑧	平均の求め方
⑨	稲刈りするときの話し方

<研究協議>

○身近で共通体験である給食を教材として使ったのは、お米を毎日食べていることを実感させる手立てとしてよかった。

○米から作られる調味料の多さは、子どもたちの中に驚きがあってよかった。

○「なぜこんなにもお米が使われているのか？」の予想を、子どもたちはよく考えていた。

○栄養素の説明をする際の掲示物が、よく工夫されていてよかった。

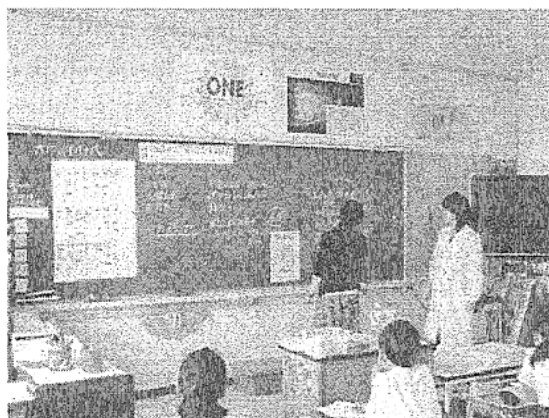
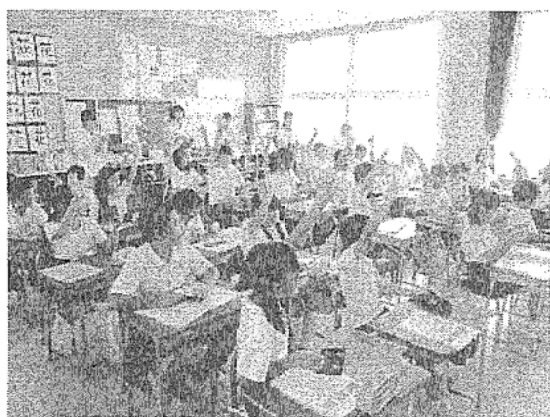
●献立の写真が見づらかった。献立名を書いておくなどの工夫があればよかった。

●こちらが意図していたものとは違う予想が多く出てきた。

●子どもたちの立てた予想を具体的にしてやる内容にすることが、大切なのではないか。

●知識としては、お米のよさが理解できたと思うが、実感として捉えられたかは疑問。

●隣同士やグループで話し合う活動があるとよかった。



<成果と課題>

○この授業を行ったことで、食としての「お米のよさ」を知るきっかけとなった。この後「20年後の藤田の米作り」についての提案書を書くにあたり、これに着目して、「和食のよさを広めることで、米作りを盛んにしたい」「お米を使った商品を開発したい」などの考えをもった児童が多くいた。

○米が、主食のご飯としてだけではなく、様々な食品や調味料として使われていることを知り、さらに給食でどれくらい食べているかを実感したことで、子どもたちにとってお米がさらに身近なものとなった。そのお米を生産している農業についての関心も高まったように思う。

○学校栄養職員とTTで授業を行うことで、子どもたちの中に聞きやすい雰囲気生まれ、この後の学習でも、質問に行く姿が見られた。

●お米についての知識は増えたが、それによってすぐに自分の食生活を振り返ったり、食生活に活かしたりすることは難しい。家庭科とのクロスカリキュラムなどを通じて、自分の生活に活かしていけるよう工夫していく必要がある。

(4) 成果と課題

○成果

・様々な取組の成果で、「給食がすき」「まあ好き」と答えた児童が全体の85%を超え、「嫌い」と答えた児童は0%になっている。

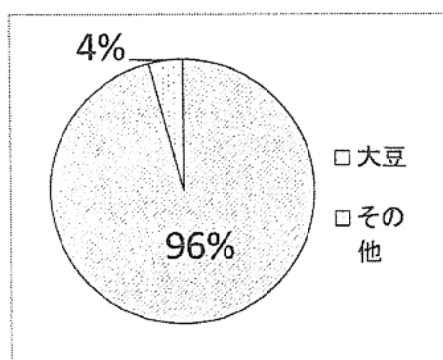
・給食にレンコンが出ると、「これは〇〇さんちのレンコンかなあ？」という発言や「このお米は何の品種だろう？」等の発言が聞かれる。また、給食に出ている地元産の食材をアンケートで尋ねると、3年生以上のほとんどの児童が「レンコン」「玉ねぎ」などの藤田の代表的な農産物をあげていた。

食に関する指導を、3年生、5年生の総合的な学習の時間の中に位置づけ、クロスカリキュラムで総合的・横断的に学習を行うことで、地域の農作物に興味をもったり、生産者の努力や工夫に感謝の気持ちをもったりすることができてきた。

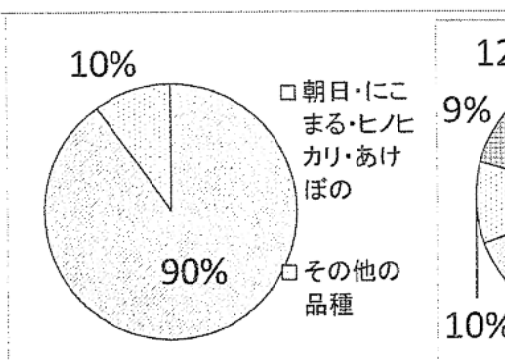
豆腐は何からできていますか？

藤田でとれるお米の品種は？

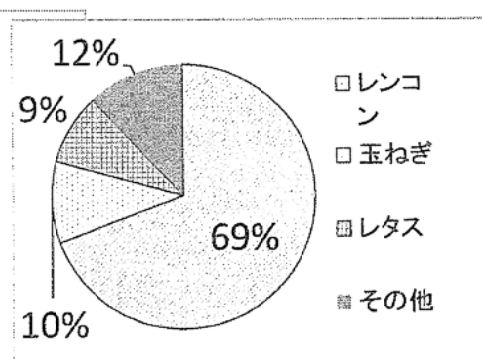
例えば給食に出る地元の食材といえは？



(3年生以上)



(5年生以上)



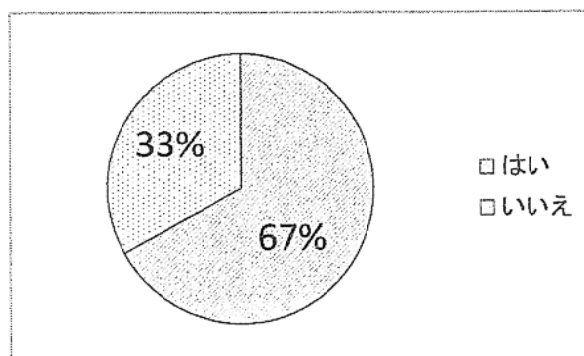
(3年生以上)

○課題

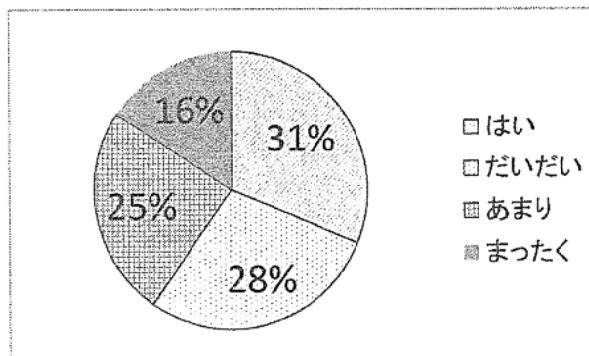
・「食事を好き嫌いなく食べている」「日頃からバランスよく食べている」という児童の割合は、まだまだ低い。食に関する指導の全体計画及び年間計画を見直し、様々な教科・領域で食に関する指導をさらに充実させていきたい。

・学習をしている時には、「残さずに食べよう」「感謝して食べよう」という意識が高まり、意欲的に実践することができるが、それが生活の中に定着し、持続していくのは難しい。「食に関する様々なことは、すべて今の自分の生活とつながっていること」を意識し、自分の生活を振り返ることができるよう、授業実践でどのように位置づけていくのか、さらなる研究を進めていきたい。

日頃からバランスよく食べていますか？



食事の時、好き嫌いなく食べていますか？



食に関する指導の年間計画

[illegible]

食に関する指導の全体計画

岡山市立第三藤田小学校

児童の姿
8学級の小規模校である。
児童は明るく元気である。
・保護者の家庭
・生活習慣を提示しており、自然に恵まれ、協同体的な性格が強く、教育に対する関心も高く、学校への期待も大きい。

学校教育目標
郷土を愛し、心豊かにたくましく児童を育成する
・たくましくやりぬく子(健康・体力の向上)
・心身共に健康で、自分の目標に向かって最後までねばり強く取り組む子
・よく考える子(豊かな学力の育成)
・自分で考え、正しく判断し、課題解決に向けて行動できる子
・やさしく思いやる子(よい人間関係づくり)
・相手の立場や思いを考えながら、進んでかかわる子

文部科学省
「学習指導要領」
食育基本法
食育推進基本計画
岡山市教育振興基本計画
岡山県教育振興基本計画
「自立する子どもの育成」
藤田地区コミュニティスクール
スローガン
「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」

食に関する指導目標

生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることを目指し、児童一人一人が望ましい食生活の基礎・基本と食習慣を身に付け、食事を通じて自らの健康管理ができるようにする。

- 食事の重要性、食事の喜び、楽しさの理解をする【食事の重要性】
- 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける【心身の健康】
- 正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける【食品を選択する能力】
- 食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝の心を育む【感謝の心】
- 食生活のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける【社会性】
- 各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ【食文化】

各学年の発達段階に応じた食に関する指導の重点

幼稚園・保育園	低学年	中学年	高学年	中学校
友だちや先生と食べを楽しむ	【食事の重要性】 ・毎日の食事にいろいろな食品が使われていることに興味関心をもち、食品の名前が分かる。 ・毎日、おいしく食べることができ、1日を元気に過ごすことができる。 【社会性】 ・基本的な食事マナーを身に付け、みんなと楽しく給食を食べることができる。	【食事の重要性】 ・食べ物はその働きによって3つのグループに分けられることを知る。 【心身の健康】 ・栄養のバランスを考え、食事の心がけができる。 【食品を選択する能力】 ・食品の名前や働きを知る。 【社会性】 ・協力して準備や後片付けをし、楽しい雰囲気の中で食事をすることができる。	【食事の重要性】 ・自分の食生活を見つめ直し、規則正しいバランスの良い食事が大切であることが分かる。 【心身の健康】 ・自分の健康を食事、運動、休養及び睡眠の生活習慣から考え、規則正しい生活を心がける。 【食品を選択する能力】 ・食生活では何をどう選ぶのか、どのようにして、どのくらい食べるかを身に付ける。 【感謝の心】 ・食料の生産・流通・消費にかかわる工夫や努力を知り、自分たちを支えてくれる人への感謝の気持ちをもつ。 【社会性】 ・食事のマナーについて考え、会話をしながら気持ちよく食事をすることができる。 【食文化】 ・自然の恵みを生かし、知恵と工夫で生み出された郷土料理を知り、大切にしていこうとする。	自分の生活や将来の課題を見つけ、望ましい食事の仕方や生活習慣を理解し、自らの健康を保持増進し、食事を通じて望ましい人間関係を構築する。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別活動	給食時間	低学年 ①気持ちよく食べよう<健> ②給食の準備や後片付けをきちんとしよう<社> ③望ましい食習慣を身に付けよう<健>	中学年 ①給食の準備や後片付けをきちんとしよう<社> ②給食の準備や後片付けをきちんとしよう<社> ③望ましい食習慣を身に付けよう<健>	高学年 ①給食の準備や後片付けをきちんとしよう<社> ②給食の準備や後片付けをきちんとしよう<社> ③望ましい食習慣を身に付けよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>	①みんなと仲良く食事しよう<社> ②食事の環境を整えよう<社> ③食事と環境について考えよう<健>
	一斉指導等	・秋の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・準備と後片付け<社>	・秋の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・準備と後片付け<社>	・秋の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・準備と後片付け<社>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>	・給食の紹介<健> ・給食のマナー<社> ・生活の理解<健>
	給食行事	・たてわり給食・お誕生日給食 ・児童調査	・たてわり給食・お誕生日給食 ・児童調査	・たてわり給食・お誕生日給食 ・児童調査	・お誕生日給食	・お誕生日給食	・お誕生日給食	・お誕生日給食	・お誕生日給食	・お誕生日給食	・お誕生日給食	・お誕生日給食	・お誕生日給食
	学校行事	・1学期始業式・入学式・健康診断・遠足 ・運動会	・1学期始業式・入学式・健康診断・遠足 ・運動会	・1学期始業式・入学式・健康診断・遠足 ・運動会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会	・1学期終業式・2学期始業式・山の学校 ・海の学校・チャレンジ集会
	学級活動	・きょうどうはんげんのこと ・こんには学校給食<社> ・1日のスタートは食べることから<健>	・1日のスタートは食べることから<健> ・いろいろな食べもの<文> ・きょうどうはんげんのこと	・1日のスタートは食べることから<健> ・いろいろな食べもの<文> ・きょうどうはんげんのこと	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>	・学校給食「給食週間」<健> ・食への感謝の気持ち<健> ・早寝早起き朝ごはん<健> ・食べ物のなかま分け<健> ・旬の食べもの<健> ・食べ物と体の健康<健>
教科の連	1年	・あつまれふゆのことば											
	2年												
	3年												
	4年												
	5年												
	6年												
	国語												
	社会												
	理科												
	生活												
家庭	家庭												
	図画工作												
	体育(保健領域)												
	道徳												
	総合的な学習の時間												
食に関する礼儀、生命尊重、尊敬、感謝、勤労生産、郷土愛、国際理解などの内容について、心情を豊かに育てる。													
礼儀(給食前後に心をこめたあいさつをする。)		礼儀(給食前後に心をこめたあいさつをする。)											
生命尊重(生きていることの喜びを認識し、生命を大切にすることを学ぶ。)		生命尊重(生きていることの喜びを認識し、生命を大切にすることを学ぶ。)											
尊敬・感謝(給食は、多くの人の世話に支えられていることに気付く。)		尊敬・感謝(給食は、多くの人の世話に支えられていることに気付く。)											
公徳心、規則の尊重(健康に気を付け、わがままをしない、規則正しい生活をする。)		公徳心、規則の尊重(健康に気を付け、規則正しい生活をする。)											
郷土愛(郷土食を知り、先人の知恵を生活に役立てる。)		郷土愛(郷土食を知り、先人の知恵を生活に役立てる。)											
礼儀(給食前後に心をこめたあいさつをする。)		礼儀(給食前後に心をこめたあいさつをする。)											
生命尊重(生きていることの喜びを認識し、生命を大切にすることを学ぶ。)		生命尊重(生きていることの喜びを認識し、生命を大切にすることを学ぶ。)											
尊敬・感謝(働く人への感謝、人々の営みを回り、給食を食べるまでには、多くの人の世話に支えられていることに気付く。)		尊敬・感謝(働く人への感謝、人々の営みを回り、給食を食べるまでには、多くの人の世話に支えられていることに気付く。)											
公徳心、規則の尊重(健康に気を付け、規則正しい生活をする。)		公徳心、規則の尊重(健康に気を付け、規則正しい生活をする。)											
郷土愛(郷土食を知り、先人の知恵を生活に役立てる。)		郷土愛(郷土食を知り、先人の知恵を生活に役立てる。)											
総合的な学習の時間		藤田のお宝さがそう											
個別相対指導の方針及び取組		朝食欠食率や好き嫌い等の実態調査の調査と結果公表・朝食の指導 アレルギー疾患や肥満等、個人の健康課題をもつ児童や保護者への生活・栄養相談											
家庭・地域との連携		給食献立表と食育だより、学年・学級だより、保健だより、給食試食会、給食運営委員会、学校保健委員会、スクールランチセミナー											

※<>内は、食に関する指導の内容を示す。<前>食事の重要性 <健>心身の健康 <選>食品を選択する能力 <感>感謝の心 <社>社会性 <文>食文化

平成27年2月10日(火) 2校時

指導者 5年担任 菅井 憲人
学校司書 尾島 朋子

1 単元名 「すいせんします」

2 単元目標

- (1) 収集した知識や情報を関連づけて、目的や意図に応じた話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話することができる。
- (2) 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。

3 指導計画(全7時間)

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 第1時 | モデルから、学習の見通しをもつ。 |
| 第2時 | モデルをもとに構成や表現の工夫を見つける。 |
| 第3時 | 推薦する作家を決め、理由を明確にするための資料を収集する。 |
| 第4・5時 | 構成や表現を考えて、原稿をつくる。 |
| 第6時 | モデルをもとに話し方の工夫をする。(本時) |
| 第7時 | 推薦を発表し、説得力のある推薦ができたか振り返る。 |

4 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「自分や学年全体の課題について見通しをもって追求することができる。」ための工夫

- ・ 説得力のある推薦をするために、内容と話し方の2つに分けて考えさせる。
- ・ モデルを示して考えさせることにより、より説得力のある推薦にするためにどうすればよいか考えやすいようにする。
- ・ 実際にモデルを示すことで、学習の見通しがもてるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「目的や意図に応じ、資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる。」ための工夫

- ・ 目的や意図に応じ、資料を提示しながら説明できるようにするために、話し方の工夫を見つけることができるようなモデルをつくる。
- ・ 実際に資料を提示しながら発表できるようにするために、図書館を活用する。
- ・ モデルを提示することにより、より説得力のある推薦のしかたについて実感することができるようにする。
- ・ 発表会では、推薦を聞くときの観点に沿って相互評価をすることで、助言をしやすくできるようにする。
- ・ 推薦したことを自分の生活にいかすことができるようにするために、推薦する目的や条件を本や作家に設定する。

5 本時案（第6時）

目 標	モデルから、説得力のある話し方をするための工夫を見つけることで、自分の推薦にいかすことができる。	
学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○ 話し方の工夫がない推薦では、聞き手の受け取り方が異なることに気づかせることで、本時のめあてをつかむことができるようにする。	
話し方の工夫をして、より説得力のあるすいせんにしよう。		
2 モデルから、話し方の工夫を見つける。	○ 取り入れてほしい話し方を意図的にモデルに入れ、実際に見せることにより、視覚的に話し方の工夫を見つけられるようにする。 ○ 原稿をもたせることで、どこで話し方の工夫をしたのか分かりやすくする。 ● 子どもの見つけた話し方の工夫について、なぜその工夫したのか話すことにより、どんなところで使えばよいか分かるようにする。 ○ 「話し方のポイント」としてまとめることにより、意識しながら練習することができるようにする。	○ 話し方の工夫を見つけることができる。 （観察・発言）
<話し方のポイント> ・実際に資料を指し示している。（分かりやすく） ・声の強弱，速さ，間を工夫している。（大事なところ） ・相手を見て話している。		
3 自分を取り入れたい話し方を決め、練習をする。	○ 原稿に赤字で工夫を書き込むことで、意識して、練習できるようにする。 ○ ペアで練習をすることにより、相手を意識して練習できるようにする。 ○ チェックシートを使い、友だち工夫をチェックしてもらうことで、次の練習にいかす。 ○ 練習後、がんばったらもっとよくなることを言い、何度も練習をしてチェックシートの評価が上がることで、達成感をもてるようにする	○ 話し方の工夫を、自分の推薦にいかすことができた。 （原稿・観察）
4 本時のまとめをする。	○ 活動の振り返りを書かせ、本時のまとめとする。	

すいせんします③ 名前 ()

① 私は、5年生のみなさんにおすすめの作家として、岡田淳さんをすいせんします。

② 岡田淳さんは、1979年に『ムンジャクンジュユは毛虫じやない』というユニークな題名の物語で作家としてデビューしますが、実は2007年までは、作家的ほかにもう1つ仕事をしていました。何の仕事をしているか？それは、小学校の図工の先生です。なんと退職するまで図工の先生をしなから、物語を書いていたそうです。

③ 特に私のおすすめの本は、『びりっかの神様』です。みなさんは、何かで自分が悲しい気持ちになつて、落ち込んだり、まじい気分が持たなくなつたり、何かで自分さえいかに苦手で、テストであまりよくない点数をとると、悲しい気持ちになつたことを覚えていて、このお話はそんな気持ちをお話で飛ばして、勉強でもスポーツでも、いろいろな人に見え、羽の生えた小さな不思議なおじさんを中心に、あるクラスは、運動会の学級対抗リレーのとき、面々一生懸命走る場面です。この小さな不思議なおじさんのおかげで、クラスのみんなの気持ちが一つになり、一位をとることで、より大切なことに気が付くのです。

④ このように、岡田淳さんの本はわくわくしたり、読むと元氣になつたりする。『フングリコングリ』、『ふしぎの時間割』、などの作品もあります。あなたもぜひ読んでみて下さい。

☆話し方のポイント☆

○

○

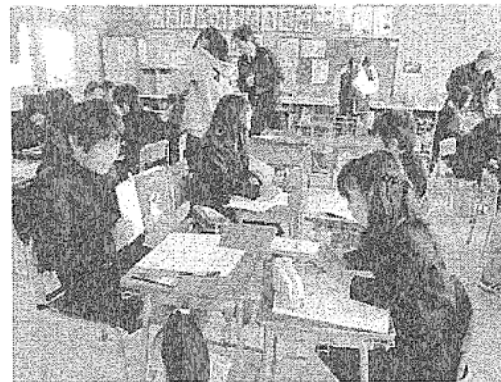
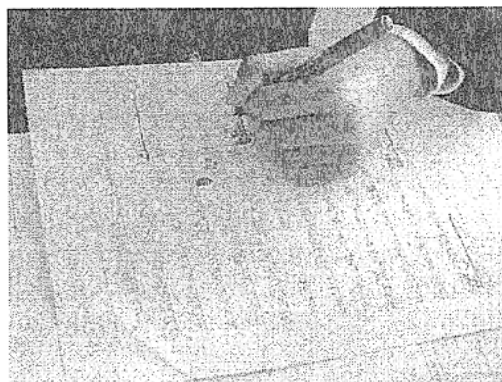
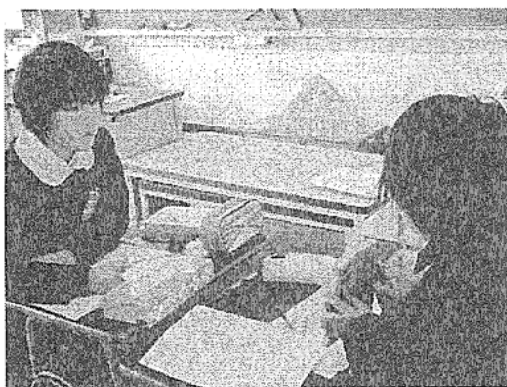
○

○まとめ (できるようになったこと、上達したこと、気をつけたこと等)

成果と課題

成果：○ 課題：●

- よくないモデルがあったので、話す速さ、目線などの視点をもつことができた。
- よくないモデルとよいモデルを両方だしたのは比較しやすくとてもよかった。よくないモデルからいい話し方をしたいという意欲につなげることができた。
- 児童の発言から、T1からT2に尋ねる形で工夫のポイントやその場所を確認することで理解を深めることができた。
- ポイントをまとめることで、話し方の工夫を絞って練習に取り組むことができた。
- この単元を図書館と連携した授業を作ることで、普段児童がどんな本や作家が好きなのかを知るきっかけとなったり、お互いの好きな本を推薦し合うことで新しい一面を発見したり、本への興味・関心を高めたりすることができた。
- よいモデルの前に原稿が配られていたのに、実際にモデルを見せるときに、原稿に目がいっている児童がいき、話し方の工夫に気がつきにくかった。
- よいモデルを示した後、ワークシートに線を引かせたが、視覚的に見つけた工夫が線を引かせることによって出にくくなってしまった。
- すいせんの練習をするときに、総合評価を行ったが、お互いの評価基準をしっかりと明確にしておく必要がある。
- 見つけた工夫を黒板に簡潔にまとめることで、児童の理解を深めることができた。



1 主題名 「今、わたしにできることをしよう」 4-(8) 国際理解 (中心教材「ハチドリのひとしずく」 光文社)

2-① ねらい

諸外国での問題に目を向け、国際社会に貢献していこうという心情を養う。

2-② ねらいとする価値

現在世界では内戦や紛争など様々な問題が起こっている。日本も国際社会の一員として、それらの問題の解決のために貢献していく必要がある。日本の国際貢献を充実させるためには、国が積極的に支援政策を行うだけでなく、国民一人ひとりが世界の問題に目を向け、高い関心をもつことが大切である。国際社会に生きる意味を知り、自分にできることを積極的に行おうとする意識を育み、世界の中で責任を果たそうとする意欲を育てたい。

3 児童の実態

児童はこれまで、毎年6年生が行っている物資支援活動を見てきた。そして、自分たちが6年生になると総合的な学習の時間に、世界で起こっている様々な問題について知ったり、それらを自分たちの生活(幸せ)に関連付けて考えたりしている。5月にはHG代表の田代さんの話を聞き、カンボジアへの支援活動の必要性をあらためて知った。6月の有森裕子さんの話では、国際社会を舞台に、自分たちの生き方や幸せを模索しながら自他共に輝いて生きることのすばらしさを学んだ。そして6月からNCCCとの交流を開始し、お互いのプロフィールを交換したり、交流相手の幸せを願った手作りのお守りを贈ったりした。さらに8月には、ただ募金箱を置くだけの募金活動ではなく、自分たちが実際に募金箱を持って立ち募金活動を行った。募金をしてもらえるようお願いをしたり募金をしてくれた人にお礼を言ったりすることで、支援活動をするこの大変さや充実感を味わった。

しかし、国際交流に対する意識や理解、かかわろうとする意欲には大きな個人差がある。本時を通して、日ごろ児童が感じている国際交流への思いを補充・進化・統合し、助け合って国際社会を生きていこうとする意識を育てたい。

4 教材観

中心教材である「ハチドリのひとしずく」は、わずか17行の文章に世代を超えた共感の輪が広がっている物語である。本著は地球温暖化という環境問題をテーマとした物語であるが、筆者らがうたえている本質的要素は国際理解にもしっかりと通じるものがあると考え、中心教材として活用した。

6年生の児童は、客観的に自分自身を見つめたり、ある程度の見通しをもって物事を考えたりすることができるようになってきている。そのため、大きすぎる問題や困難すぎる課題に対して自分自身の無力感を感じるようになる。そして、ある問題に対して真剣に考えたり、議論したり、行動を起こしたりすることに大きな抵抗を感じるようになる。しかし、そのような無力感及び不信やあきらめを払拭すべく、「自分にできることをすればいい」ことを知り、「自分にもできることがある」という意識を育み、積極的に国際交流及び支援活動に取り組む姿勢を育てたい。

5 研究テーマと本時の関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然など自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成」にせまるために、次のような手立てを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

○学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり、「これからどうあればいいか」など、自分のかかわり方を考えたりして生活に活かすことができる。

・カンボジアの現状を知ったりカンボジアの人の気持ちを想像したりすることで、自分の生活を見直したり、「自分にできる」交流活動や支援活動を考えて実践したりしていくことができるようにする。

○社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしようとすることができる。

・カンボジアの現状を知ったりカンボジアの人の気持ちを想像したりすることで、「自分たちにできる」交流活動や支援活動を、友だちと計画したり家庭や地域に協力を要請したりして実践していくことができるようにする。

・自分たちができることは微力であっても、さらに多くの人の力が集結すれば大きな力になると認識することで、一人でも多くの人にカンボジアの現状を知ってもらい、その解決を目指す国際協力の必要性を社会全体で共有していくことができるようにする。

(2) 他者(人・社会・自然)とのかかわり

○相手の立場や気持ちを理解してかかわることができる。

・HGのスタッフの方のお話を聞いたり映像で交流したりすることで、交流活動や支援活動及び国際理解への思いや考えを知り、積極的に活動に取り組む意識を高める。

・NCCCの子どもたちと手紙や映像で交流するなど、「自分たちにできる」交流活動を展開することで、国際交流は難しいとする意識や抵抗感を無くし、能動的に交流活動に取り組む楽しさや充実感を味わうことができる。

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 世界の出来事を想起し、それに対する自分たちの取り組みについて話し合う。	○ 今、世界でどんな問題が起こっているか、知っていることはありますか。 ・学校に行けない子ども ・貧しい暮らし ・人権問題 ・食料問題 ・エネルギー問題 ・環境問題 ・地雷 ・内紛や紛争 今、わたしたちにできることをしよう ○ そのような国に対して、<u>私たちは</u>どんなことをしていますか。 ・募金活動 →六区夏祭りでは 24,856 円の募金 ・物資支援活動 →昨年度、石けん 277 個/タオル 212 枚/歯ブラシ 252 本/子ども服 879 着/縄跳び 74 本/バレーボール 11 個/（総数 1,705） 募金 34,590 円 ・交流活動 →NCCC の 19 人の子どもたちと交流 ○ それらは、カンボジアにおいてどれだけの効果があるのでしょうか。 ・衛生的な生活を送って病気を予防して欲しい。 ・歯磨きをしてむし歯をなくして欲しい。 ・NCCC の人が本当に必要とする物を買いたい。 ・NCCC の人と仲良くなりたい。思いや願いを知って、できれば叶えたい。 →だけれども、あまりにも少なすぎる。私たちのやっていることって効果があるのかな？役に立っているのかな？	・自分たちが現在取り組みでいる交流活動や支援活動を想起することにより、本時の方向付けをする。 ・自分たちが取り組んでいる交流活動や支援活動が、非常に微力な取り組みであることを知ることで、自分たちの取り組みの有効性や必要性について考えさせる。
2 資料「ハチドリの一とすく」を読んで話し合う。	○ なぜ動物たちは、「そんなことをしていったい何になるんだ」と笑ったのでしょうか。 意見① ・そんなことをしても効果がないから。 ・自分たちにはどうしようもないことだから。 ・やっても仕方ないことを続けてもむなしいから。 ○ クリキンディは何と答えたと思いますか？ 意見② ・ほっとくことはできない。 ・誰かがやらないといけない。 ・ほくはあきらめないぞ。 ◎ 「私は、私にできることをしているだけ」とは、どんなことを意味するのでしょうか。 意見③ ・自分たちのできる限りのことでもいい。 ・大切なのは行動すること。 ・あきらめない。投げ出さない。	・大きすぎる問題に対しても、あきらめずに行動に移すことの難しさを確認し、クリキンディの気持ちを想像することで「何とかしたい」という気持ちや「行動する」ということが大切であることに気づかせる。 ・自分の能力以上の取り組みが求められるのではなく、自分のできる限りの範囲で取り組みばいいことを確認し、「できることをやってみよう」という気持ちで行動すればいいことに気づかせる。
3 これからの自分の取り組みについて考えさせる。	○ 私たちの国際交流では、どのように取り組んでいきたいですか。 まとめ ・自分の出来る限りの範囲で国際交流を進めていきたい。 ・少しでも誰かの役に立っているのであれば、やっていることは無駄ではない。 ・少しずついいから、困っている人を助ける取り組みを進めていきたい。	・これからの自分の取り組みを、具体的に考えることができるようにする。
4 先生の話聞く。	○ 『「金の鳥—クリキンディ」について』を読む。	

- (育みたい力)
- 社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしようにとすることができる。(実践力) ESD ⑦
 - 学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり、「これからどうあればいいか」など、自分のかかわり方を考えたりして生活に活かすことができる。(実践力) ESD ⑥
 - 相手の立場や意図を理解してかかわることができる。(かかわる力) ESD ⑤
 - 互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。(コミュニケーション力) ESD ④
 - 調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。(課題解決力) ESD ①

学習過程	児童の学習活動	児童の意識の流れ	他教科との関連	その他
ふれる (15)	テーマ 「いろいろな国の現状を知り、その問題について考えてみよう。」 ○幸せについて考える。 ○世界の子どもの現実を知る。 ・YouTube や本「世界がもし100人の村だったら」 ・YouTube「学校に行けない子どもたち」「ごみ捨て場の子どもたち」→感想や疑問をまとめる。 ○ハートオブゴルド (HG) 代表田代さんの話を聞く。 ・HG の活動について知る。 ・昨年度の物資支援活動について知る。 ・世界の状況やカンボジアの人たちの生活の様子を知る。 ○HG 施設 NCCC の子どもたちとの交流 ・プロフィール帳やお手紙を作って送る。第1回交流活動を行う。 ・NCCC の子どもたちとウェブカメラで第2回交流活動を行う。	・幸せ (友だちや家族がいるから、安心で安全な生活だから、笑い合えるから) ・幸せ (お金がないから、ほしいものが手に入らないから、勉強しなくてはならない) ↓ ・私たちは食べ物や物や場所があって暮らしている。この当たり前のことは他の国でも当たり前のことなんだろう? ・彼も暮らす。学校にも行かず、働く子どももいる。他の国の人と比べると、今の自分が幸せだ。 ・戦争に巻き込まれた子どももいる。子どもだけで生活している人もたくさんいる。 ↓ ・実際に活動している人たちに話を聞いてみよう。 ・自分たちにとってもっと当り前のことが、カンボジアでは普通ではない。 ・健康で衛生的な生活を送るための物資が足りない。 ・カンボジアのために自分たちも何かしたい。 ↓ ・カンボジアの人たちと交流しよう。 ・カンボジアとつながる。友だちができた。喜んでくれてとてもうれしい。 ・NCCC の子どもたちも活発な生活が送られていないんだ。何か助けてあげられないのかな? ↓ ・HGG が行っている活動に参加したい。 ↓ ・支援を必要としている人たちに支援活動をしよう。 ・タオル・石けん・歯ブラシが足りないからカンボジアへ物資支援をしよう。 ・カンボジアの人たちに必要なのを送るために募金を集めよう。 ・自分たちになにか貢献したいからいろいろな人へ呼びかけ活動力を発揮しよう。 ↓ ・私たちが取り組んでいることに、意味はあるのかな?役に立つのかな? ↓ ・振り返ってみよう。みんなはなぜ物資支援活動をしたんだろう? ・集まったものをカンボジアの人に届けてももらえない。カンボジアの人に届けてたも届いていない。 ・私たちのような子どもでも、色々な人の力を得てたくさんの人を支援することができる。 ・たとえ一人の力は小さくても、たくさんの人と協力して取り組めば大きな力になる。いろいろなことができるようになる。 ↓ ・1 回目は HG の活動に参加させてもらってたね。ほかにも支援できることはないかな? ・船着・背ボール・ノート・消しゴム・筆・鉛筆・帽子・バドミントンなどを贈りたい。 ・もし自分がカンボジアで生活していたらこの活動はできるだろうか? ↓ ・みんなであつた活動が本当に喜んでももらえるかどうか HG の方に聞いてみよう。 ・マットや等身人形なんかも喜んでもらえそう。 ・カンボジアの体育の現状がよくわかった。 ↓ ・HG の方のお話から第2回支援活動の内容を決定しよう。 ↓ ・みなさんからいただいた募金で、カンボジアでマットを作ろう。 ・①日本でもマットを買って贈ろう。②カンボジアで材料を買って作るのと安い。③マットは一人だけじゃなくてたくさんの人が活用できる。 ・④今までの贈ったことのないものを送りたい。⑤マットは一人だけじゃなくて、自分たちも嬉しい気持ちになれる。 ・誰かの役に立ったり喜んだりするっていいことだ。	道徳「世界がもし100人の村だったら」 「捕虜に思いをよせて」 ※インターネットの検索の仕方を知る 国語「学級討論会をしよう」 国語「ようこそ、わたしたちの町へ」 道徳「今君たちに伝えたいこと」 「他国の中で見つけた光」 国語「平和について考える」 道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 道徳「ハチドリのはたとしづく」(本題)	HG NCCC 第二藤田小学校 第一藤田小学校 藤田中学校 大塚保育園
つかむ (20)	テーマ『NCCC への支援活動』を実践しよう。 ○国際協力実践活動の計画を立て、実践活動を行う。 ・HG カンボジア第1回支援活動 (NCCC へタオル・石けん・歯ブラシ) を行う。 ・支援活動の方法を実践し、学ぶ。 ○今、わたしたちができることを考える ・自分たちの取り組みの有用性や必要性について考える。 ○第1回支援活動を振り返る。 ・第1回支援活動を振り返り、なぜ物資支援活動をしたのか考える。	・支援を必要としている人たちに支援活動をしよう。 ・タオル・石けん・歯ブラシが足りないからカンボジアへ物資支援をしよう。 ・カンボジアの人たちに必要なのを送るために募金を集めよう。 ・自分たちになにか貢献したいからいろいろな人へ呼びかけ活動力を発揮しよう。 ↓ ・私たちが取り組んでいることに、意味はあるのかな?役に立つのかな? ↓ ・振り返ってみよう。みんなはなぜ物資支援活動をしたんだろう? ・集まったものをカンボジアの人に届けてももらえない。カンボジアの人に届けてたも届いていない。 ・私たちのような子どもでも、色々な人の力を得てたくさんの人を支援することができる。 ・たとえ一人の力は小さくても、たくさんの人と協力して取り組めば大きな力になる。いろいろなことができるようになる。 ↓ ・1 回目は HG の活動に参加させてもらってたね。ほかにも支援できることはないかな? ・船着・背ボール・ノート・消しゴム・筆・鉛筆・帽子・バドミントンなどを贈りたい。 ・もし自分がカンボジアで生活していたらこの活動はできるだろうか? ↓ ・みんなであつた活動が本当に喜んでももらえるかどうか HG の方に聞いてみよう。 ・マットや等身人形なんかも喜んでもらえそう。 ・カンボジアの体育の現状がよくわかった。 ↓ ・HG の方のお話から第2回支援活動の内容を決定しよう。 ↓ ・みなさんからいただいた募金で、カンボジアでマットを作ろう。 ・①日本でもマットを買って贈ろう。②カンボジアで材料を買って作るのと安い。③マットは一人だけじゃなくてたくさんの人が活用できる。 ・④今までの贈ったことのないものを送りたい。⑤マットは一人だけじゃなくて、自分たちも嬉しい気持ちになれる。 ・誰かの役に立ったり喜んだりするっていいことだ。	道徳「世界がもし100人の村だったら」 「捕虜に思いをよせて」 ※インターネットの検索の仕方を知る 国語「学級討論会をしよう」 国語「ようこそ、わたしたちの町へ」 道徳「今君たちに伝えたいこと」 「他国の中で見つけた光」 国語「平和について考える」 道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 道徳「ハチドリのはたとしづく」(本題)	HG NCCC 第二藤田小学校 第一藤田小学校 藤田中学校 大塚保育園
追求する (20)	テーマ「カンボジアの人に喜んでもらえる活動をし、実践しよう。」 ○第2回支援活動を考える。 ・第1回支援活動や第2回支援活動をもとに、第2回支援活動をどのようにしていくか考える。 ○HG の子エトラ先生とウェブカメラで交流する ・自分たちが考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかどうか HG 事務局と相談する。 ・HG 事務局に相談した後、クラスで話し合う。 ○HG 事務局の方の話を参考に、第2回支援活動の内容を決定し、実践する。	・支援を必要としている人たちに支援活動をしよう。 ・タオル・石けん・歯ブラシが足りないからカンボジアへ物資支援をしよう。 ・カンボジアの人たちに必要なのを送るために募金を集めよう。 ・自分たちになにか貢献したいからいろいろな人へ呼びかけ活動力を発揮しよう。 ↓ ・私たちが取り組んでいることに、意味はあるのかな?役に立つのかな? ↓ ・振り返ってみよう。みんなはなぜ物資支援活動をしたんだろう? ・集まったものをカンボジアの人に届けてももらえない。カンボジアの人に届けてたも届いていない。 ・私たちのような子どもでも、色々な人の力を得てたくさんの人を支援することができる。 ・たとえ一人の力は小さくても、たくさんの人と協力して取り組めば大きな力になる。いろいろなことができるようになる。 ↓ ・1 回目は HG の活動に参加させてもらってたね。ほかにも支援できることはないかな? ・船着・背ボール・ノート・消しゴム・筆・鉛筆・帽子・バドミントンなどを贈りたい。 ・もし自分がカンボジアで生活していたらこの活動はできるだろうか? ↓ ・みんなであつた活動が本当に喜んでももらえるかどうか HG の方に聞いてみよう。 ・マットや等身人形なんかも喜んでもらえそう。 ・カンボジアの体育の現状がよくわかった。 ↓ ・HG の方のお話から第2回支援活動の内容を決定しよう。 ↓ ・みなさんからいただいた募金で、カンボジアでマットを作ろう。 ・①日本でもマットを買って贈ろう。②カンボジアで材料を買って作るのと安い。③マットは一人だけじゃなくてたくさんの人が活用できる。 ・④今までの贈ったことのないものを送りたい。⑤マットは一人だけじゃなくて、自分たちも嬉しい気持ちになれる。 ・誰かの役に立ったり喜んだりするっていいことだ。	道徳「世界がもし100人の村だったら」 「捕虜に思いをよせて」 ※インターネットの検索の仕方を知る 国語「学級討論会をしよう」 国語「ようこそ、わたしたちの町へ」 道徳「今君たちに伝えたいこと」 「他国の中で見つけた光」 国語「平和について考える」 道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 道徳「ハチドリのはたとしづく」(本題)	HG NCCC 第二藤田小学校 第一藤田小学校 藤田中学校 大塚保育園
活かす (15)	テーマ「幸せって何?」 ○HG の方との交流会 ・聞かせていただいた物資等の報告などをしていた。 ・HG 留學生の日本での取り組み、幸せの考え方やその姿勢についてお話をいただく。 ○実践活動をもとめる。 ・その活動が自分たちにとって得るものはあるのかを考える。 ・今後も継続的に続けることができることを考え、自分の生活を取り返す。 ○実践を文、写真や映像を活用して分かりやすくまとめ、5 年生や地域のの人に伝える。	・支援を必要としている人たちに支援活動をしよう。 ・タオル・石けん・歯ブラシが足りないからカンボジアへ物資支援をしよう。 ・カンボジアの人たちに必要なのを送るために募金を集めよう。 ・自分たちになにか貢献したいからいろいろな人へ呼びかけ活動力を発揮しよう。 ↓ ・私たちが取り組んでいることに、意味はあるのかな?役に立つのかな? ↓ ・振り返ってみよう。みんなはなぜ物資支援活動をしたんだろう? ・集まったものをカンボジアの人に届けてももらえない。カンボジアの人に届けてたも届いていない。 ・私たちのような子どもでも、色々な人の力を得てたくさんの人を支援することができる。 ・たとえ一人の力は小さくても、たくさんの人と協力して取り組めば大きな力になる。いろいろなことができるようになる。 ↓ ・1 回目は HG の活動に参加させてもらってたね。ほかにも支援できることはないかな? ・船着・背ボール・ノート・消しゴム・筆・鉛筆・帽子・バドミントンなどを贈りたい。 ・もし自分がカンボジアで生活していたらこの活動はできるだろうか? ↓ ・みんなであつた活動が本当に喜んでももらえるかどうか HG の方に聞いてみよう。 ・マットや等身人形なんかも喜んでもらえそう。 ・カンボジアの体育の現状がよくわかった。 ↓ ・HG の方のお話から第2回支援活動の内容を決定しよう。 ↓ ・みなさんからいただいた募金で、カンボジアでマットを作ろう。 ・①日本でもマットを買って贈ろう。②カンボジアで材料を買って作るのと安い。③マットは一人だけじゃなくてたくさんの人が活用できる。 ・④今までの贈ったことのないものを送りたい。⑤マットは一人だけじゃなくて、自分たちも嬉しい気持ちになれる。 ・誰かの役に立ったり喜んだりするっていいことだ。	道徳「世界がもし100人の村だったら」 「捕虜に思いをよせて」 ※インターネットの検索の仕方を知る 国語「学級討論会をしよう」 国語「ようこそ、わたしたちの町へ」 道徳「今君たちに伝えたいこと」 「他国の中で見つけた光」 国語「平和について考える」 道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 道徳「ハチドリのはたとしづく」(本題)	理科「私たちにできることを考えよう」 社会「世界の中の日本と私たち」 家庭科「考えようこれからの生活」 算数「資料の調べ方」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」 社会「

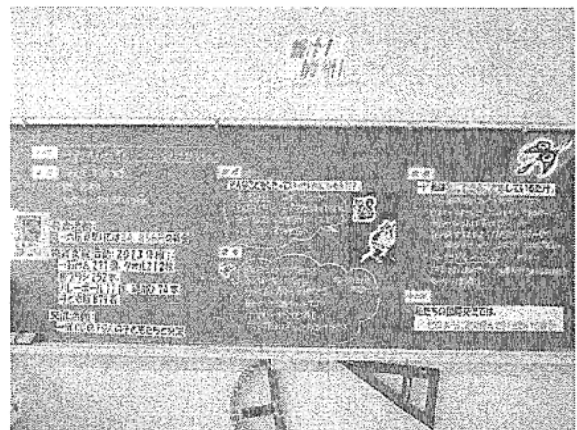
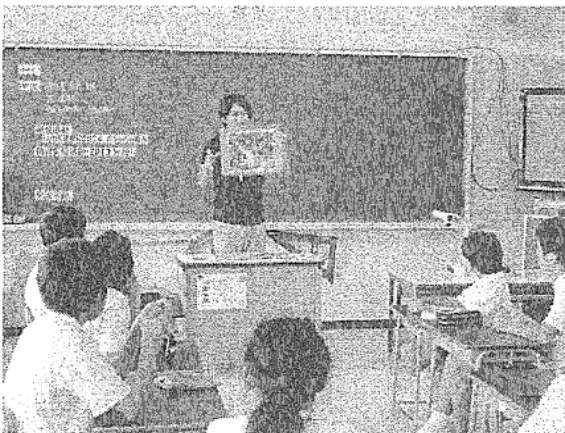
岡山市立第三藤田小学校 ESDカレンダー 6年生

[illegible]

問題内容	回答内容
① 相手の返事を聞き取り、自分の主張を伝える。	A 世界の人口の急激な増加について知る
② 調べたことを、短い文章でまとめる。	B 世界の国の収税について知る
③ 意見文の書き方、スピーチの仕方を知る。	C 諸外国の問題に目を向け、国際社会に貢献しようとする心を持つ
④ 教材の読み方や書き方を覚える。	D アングルの質しの中で生活している子どもたち
⑤	E 生物がけがけがらないものであることを知り、自然の生命を尊重する。
⑥	F 命のかけがえのなさを知り、自然の命を尊重しようとする心を持つ
⑦	G 自分たちの生活を守り取り、よりよくなるための工夫を考える。

授業の成果と課題

- 本時は、6年生の総合的な学習の時間の単元構想でいう「つかむ」または「追求する」段階での実施であった。そのため総合的な学習の時間のクロスカリキュラムとして実施するならば、もう少し早い時期、「ふれる」段階で実施すべきという考え方もあった。
- 一方で、児童は目的意識を忘れて取り組んでいる様子もあったため、本来の目的に立ち返ることができる機会となった。また、自分たちの取り組みの有効性や必要性に対する懸念を払拭する上でも良い機会となった。
- 道徳ということで、授業始めに中心教材名だけ提示し、授業の後半である学習活動3の前に、サブタイトルとしてめあてを提示した。めあての提示が遅く、児童が何をすれば良いかわかりづらかった様子があった。道徳において、めあてを提示（または早い段階で提示）するという事に抵抗があったのだが、総合的な学習の時間のクロスカリキュラムとしての道徳と明確に位置づけて、早い段階からはっきりとめあてを提示し取り組んでいくべきであった。
- 学習活動1では、自分たちの取り組みの有効性や必要性についてしっかりと揺さぶりをかけて、心情面で葛藤をもたせたかった。最終的には、「何のために？どんな思いでこの活動に取り組んだの？」という発問で学習活動に臨んだが、心情面の葛藤をもたせるには不十分であった。
- 学習活動2では、クリキンディの心情をしっかりと想像して書くことができていた。一方で、心情を想像することが困難な児童もいた。そのため、グループにおける話し合い活動を取り入れてみても良かった。
- 学習活動3では、学習活動1での国際交流の振り返りから学習活動2の『ハチドリのひとしずく』の中心教材に移り、また国際交流にもどってまとめを書くという、一連の流れ、特にまとめへのつながりが難しかった。また、まとめでは何をどう書けばよいかわからなかった児童もいた。
- まとめはしっかりと自分たちが取り組んでいる活動に結びつけて書くことができていた。その一方で、時間がなく児童が発表する時間が設けられなかった。
- まとめでは、総合的な学習の時間との関係から『これからの自分たちの取り組み』について考えさせた。学習活動2で考えたクリキンディの心情を想像することで、「自分のできる限りで取り組めばいい」「できることからやってみよう」そして、「自分たちのできる範囲で国際交流を進めていこう」「少しでも誰かの役に立てばむだではない」という考えをもつことができた。
- 学習活動2の意見3及びまとめでの考え方は、6年生の総合的な学習の時間のテーマである「幸せって何？」の学習過程の最後まで意識にあり、国際交流や支援活動はもちろん、“幸せ”のあり方や実現の仕方についての考え方にも強く影響を与えていた。
- 学習活動4では『金の鳥ークリキンディ』を読んだ。児童の関心にあった“燃えていたあの森はその後どうなったのか”について一応の結論が出ていたし、一人ひとりでは微力でもたくさんの人が集まれば不可能ではないという意味も含まれていたが、児童には少し難しかった。もっと具体的な内容を引用すべきであった。



ESD ①
え、生活に活かすことができる。(実践力) : ESD ⑥
を聞いて意見や感想を言うことができる。(コミュニケーション力) : ESD ④
努力に気づくことができる。(かかわる力) : ESD ③
る力) ESD ⑤

意識の流れ

○三藤のお宝って、「三藤の自然や人たちのがんばり」だったね。
○そんな三藤を岡山を日本を地球を大切にしたいな。

○「やさしいまち」って 車が少ない 一人ぼっちがない ポイ捨てしない
生き物がいっぱいいる みんなやさしい いじめがない ごみがない
こわい人やこわい場所がない 川がきれい あいさつがいっぱい

○「自然にやさしいまち」って 花や生き物いっぱい みんなきれいにしようとする
る 川も道も田んぼも空気もきれいでゴミがない 生き物を困らせない
○どれも人のくらしや考え方次第だな。三藤の現在の様子はどうなんだろう。

○何とかできる方法は、ないかな。いろいろな取組や技術を調べたり、聞いたりし
てみよう。

○菜種や蕎麦やごみはリサイクルして生まれ変わることができると。
○ゴミを減らす方法っていろいろあって、自分にもできそうだ。
○まずは自分たちの身近な所からはじめないといけないぞ。
○自分の生活の中にも問題があるな。

自分たちでもできることがある。このまま続けることが大切だな。
考え方次第で、みにもなるし、ごみじゃなくすこともできる！

まずは、自分から自分の周りからはじめなきゃいけないんだ。

○自然だけでなく「人にやさしいまち」について考えてみよう。
○「人にやさしいまち」って いじめがない ひとりぼっちじゃない
こわい人がいなくて安心してくらせる あいさつがいっぱい
みんな笑顔 みんなやさしい
○誰にとってもやさしいまちって、立場によっていろいろな考え方があがるぞ。
○学区や岡山一番街はやさしいまちなのか調べてみよう。

○お年寄りの方の実際の生活の様子を聞いて、自分たちでも体験してみよう。
○車椅子は体が不自由な人にとっては大切なものなんだ。
○盲導犬ってすごい。
○若い立場の人にとっては、自分たちの普通の生活では気がつかなかった
バリアがたくさんあるな。

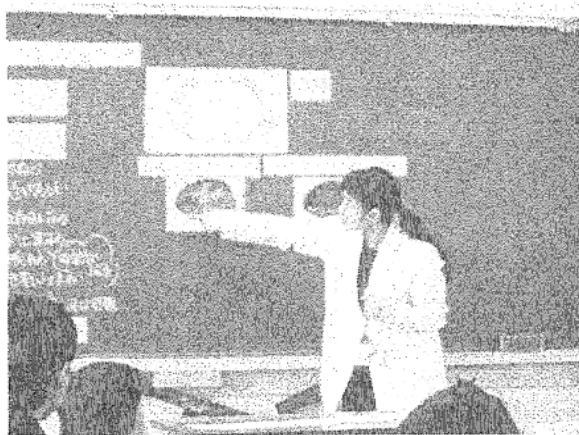
○障がいのある方やお年寄りの方などの立場の弱い人、そして友だちや自分
分にとっても「やさしいまち」にしたいな。そのために自分たちにでき
ることはないかな。

○三藤が、立場の弱い人にとって住みやすい、やさしいまちになるために、まずは、
一番身近なお年寄りの方にとって、住みやすい、やさしいまちにしたいな。

ちよっととした心づかいや、やさしさでできることがたくさんあるよ。家族やクラ
スの友達にももっとやさしくしていきたいな。みんな喜んでくれたし、自分もち
しかった。まずは、自分から自分の周りからはじめなきゃいけないんだ。

○三藤を「やさしいまち」にするためには、相手を思いやる気持ちが大切なんだ。
あいさつすことや、残さず食べること、友達や家族にやさしくすることなど身
近なことから始めて、それを続けていくことが大切なんだ。

初任者研修の授業実践



- 1 単元名 読んで感じたことを話し合おう 「ごんぎつね」
- 2 単元目標 (1)場面の移り変わりに注意しながら、ごんの性格や気持ちの変化、情景などについて、
叙述をもとに想像して読むことができる。
(2)文章を読んでごんの性格や気持ちの変化について考えたことを話し合い、互いの考え
の共通点や相違点を比べることで、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。
- 3 指導計画（全 10 時間）
 - 第一次 全文を読んであらすじをつかみ、学習の見通しをもつことができる。（2 時間）
 - 第 1 時 全文を読み、登場人物やあらすじをつかみながら初発の感想を書く。
 - 第 2 時 初発の感想を交流し合い、読みの視点をもつ。
 - 第二次 場面ごとに、ごんの気持ちや様子を読み取ることができる。（6 時間）
 - 第 1 時 場面設定や行動描写から、ごんがどんなぎつねかを読み取る。
 - 第 2 時 兵十に対するごんのいたずらぶりを読み取る。
 - 第 3 時 兵十のおっかあの葬列を見るごんの様子や気持ちを読み取る。
 - 第 4 時 兵十につぐないをするごんの様子や気持ちを読み取る。（本時）
 - 第 5 時 ひたむきな気持ちが兵十に通じないごんのやるせなさやもどかしさを読み取る。
 - 第 6 時 ごんの死と、ごんと兵十の心のふれ合いを読み取る。
 - 第三次 「ごんぎつね」の結末について感想を書き、感じたことを話し合う。（2 時間）

4 指導上の立場

(1) 教材観

ひとりぼっちの子ぎつねごんは、村で何度もいたずらを繰り返していた。そんなある日、いつものようにちょっとしたいたずら心でしたことで、思いがけず兵十のおっかあへの思いを台無しにしてしまったと深く後悔したごんは、母を失いひとりぼっちになった兵十に自分自身の境遇を重ねて同情を寄せる。ごんは、償いの気持ちをこめてくりや松たけを届け続けたが、そのいじらしい思いは死を前にしてしか兵十に通じることではなかった。

この物語を読み進めるうちに児童は、ごんにいつしか共感し、償いに込められたごんの心情やその変化、ごんと兵十の心のすれちがいやごんの死という結末などについて、想像をふくらませ多様な読み味わいをする事が予想される。

そのような児童の多様な読みを大切にしながら話し合う活動の中で、根拠とした叙述をふまえながら自分の感想や考えを述べたり、友達の考えと比べて自分の考えを見つめ直し、作品に対する理解を深めたりするのに適した題材であると考えられる。

(2) 児童の実態

本学級の児童（男子7名、女子8名、計15名）は、物語文の会話や行動から人物の人柄や心情を想像する学習を重ねている。「一つの花」では、初めの感想から「愛情」をキーワードとして読みのめあてをたて、心が動いたところを自由に書き込みながら自分の読みをもたせた上で、読み広げ・読み深めをさせる「おもしろみつけ」による学習を行った。初めは戸惑いもあったが慣れるにつれ、書くことに苦手意識のある児童も含め、書き込みに意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、読み広げや読み深めの場面では、「間違っていたら恥ずかしい」「考えをうまく表現できない」など、自分の考えに自信がもてずに発表をためらう児童が多かった。そのため、全体での話し合い活動が活発になりにくく、作品を読み深めることが難しかった。そこで、多様な読み味わいのできる「ごんぎつね」を通し、おもしろみつけをもとに友だちと考えを交流する機会を設けることで、互いの考えの共通点や相違点を比べ、それぞれが考えを見つめ直しながら物語を読み深めていく力を身につけさせたい。

(3) 指導観

本学級の実態を考慮し、「ごんぎつね」でも、全員が発表できるようにだれもが書き込めるおもしろみつけの手法を継続することで、書き込み発表で読み広げていくことにした。読み広げの活動では、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、友だちの考えを書き足したり、少人数で意見を交流したりすることで、自信をもって全体場で発表することができるようにしたい。さらに、話し合い活動を通して自分に似た考えを聞くことで、自分の言葉で表すことが苦手な児童も、どのように表現したらよいのか気づくことができるようにしたい。また、読み深めの活動では、全体場で交流し合うことで、多様な感じ方があることや、友だちの考えから、一人では気づかなかった発見があることに気づかせたい。授業の最後には、読み取ったことをもとにし、登場人物の行動から気持ちを捉えることで、場面の移り変わりに即した物語の中での登場人物の気持ちの変化について読み深めていきたい。

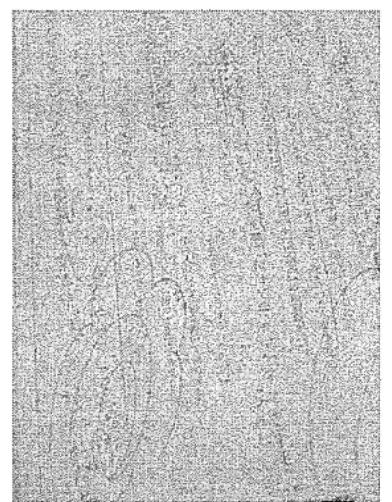
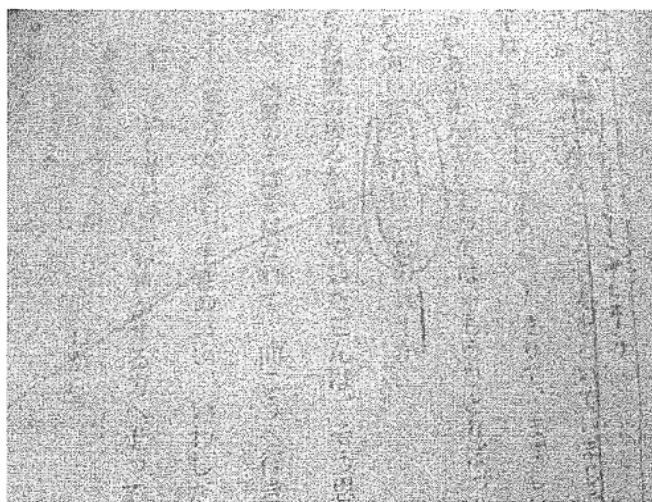
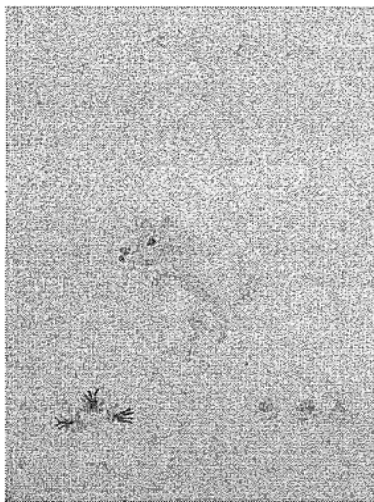
5 本時案（第二次 第4時）

目標	ごんの行動や心内語から、ごんの兵十への気持ちの変化を想像して読むことができる。	
学習の活動	教師の支援	評価
1 前時までの学習をふり 返り、本時のめあてを つかむ。	○前時で読み深めをしたときに使ったキーワードを振り返り、いたずらばかりしていたごんの気持ちの変化を想起することができるようにする。 ○音読後、本時の場面で見つかりそうなおもしろさをキーワードの形で発表させることで、読みのめあてをつかむことができるようにする。	
	「つぐないたい」や「かわいそう」などを見つけよう。	
2 自分の考えをもつ。	○本文のワークシートから、「つぐないたい」や「かわいそう」などのキーワードを手がかりに、心が動いたところを自由に見つけることで、自分の考えをもちやすくする。 ○考えをもったところにサイドラインを引いたり、引いた理由も書き込んだりすることで、根拠と一緒に発表することができるようにする。 ○机間指導により、児童の反応の傾向をつかみ、助言や称揚をすることで、全員が必ず自分の考えをもつことができるようにする。 ・考えをもちにくい児童には、書きやすい文を選んで注目させ、キーワードが見つかりそうか聞いたり、どのように感じたのか選択肢を出して聞いたりすることで、考えをもちやすくする。 ・考えをもつことができている児童には、サイドラインを引いた理由を聞くことで、ワークシートに理由も書くことができるようにする。	○ごんの行動や心内語から、ごんが兵十に寄せる気持ちを見つけていることができる。（ワークシート・発言）
3 もった考えを話し合 う。 （読み広げ）	○グループで考えを伝え合い、書き足す活動をすることで、自信をもって全体での発表することができるようにする。 ○どんなところに線を引いたか、理由とともに発表させ、児童の発表を板書に位置づけることで、全員で確認しながら次の読み深めにつなげることができるようにする。	
（読み深め）	○いたずらばかりしていたごんが、「なぜ繰り返し償いをしに行くのか」「相手が兵十でなくても償いに行ったのか」と問いかけることで、ごんと兵十の境遇に着目し、自分と同じひとりぼっちになった兵十に深く心を寄せていることに気づくことができるようにする。 ○「投げ込んで」「そっと」「置いて」などの表現や、「次の日も、その次の日も」の繰り返しの表現、また、償い物の変化に着目することで、ごんの兵十への気持ちの変化に気づくことができるようにする。	○ごんの兵十を思う気持ちに変化していることに気づくことができる。（発言・ワークシート）
4 本時のまとめをする。	○ごんの気持ちがどのように変化したのかを、理由もつけて自分の言葉で書くことで、本時のまとめとする。	

成果と課題

【成果】

- ・全員が発表できるようにだれもが書き込めるおもしろみつけの手法を継続することで、書き込み発表でたくさんの児童が発言できた。
- ・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、友だちの考えを書き足したり、少人数で意見を交流したりすることで、自信をもって全体場で発表できた。
- ・毎回のワークシートを貼り付けるごんぎつねブックを作ること、ごんの気持ちや行動の変化など、前時までの学習をすぐにふり返ることができた。
- ・机間巡視で児童の考えを把握し、意図的に指名することで、読み広げでは児童の考えをつなげることができた。
- ・前の文とつなげて読んでいる児童や、短い言葉に注目して気持ちを読み取っている児童を称揚し、取り上げることで、次時での本文の読み取り方につなげることができた。
- ・授業の最後には、「なぜなら」を必ず用いてごんの気持ちの変化をまとめさせることで、叙述を根拠にしたまとめをすることができた。



【課題】

- ・教科書ではなく、ごんぎつねブックを使って音読をすれば、これまでの学習の軌跡を振り返りながら、本時の学習に入ることができた。
- ・同じところにサイドラインを引いていても、違う言葉でいろいろな自分に語らせれば、児童のたくさんの考えに触れることができた。
- ・教師が話しすぎてしまったので、児童から考えを引き出せるような補助発問の工夫をしたい。
- ・ごんの言動や行動に注目している児童を取り上げて発問をすることで、ごんの気持ちがなぜ変化したのか、叙述をもとにより深めることができた。
- ・ごんの変化に注目している児童の考えを大切に、毎時間全体場でしっかりと押さえることで、最後の、心のすれちがいの読み取りにつなげることができた。
- ・机間巡視の時、後で取り上げたい考えには、他の児童にも聞こえるように称揚することで、その児童や同じことを書いている他の児童への自信もつけることができた。

1 題材名 メディアと健康

- 2 目 標 （1）過剰なメディア接触が与える影響について、理解することができる。
 （2）メディア接触を中心に、自らの生活を振り返り、改善しようとするすることができる。

3 指導計画

事前 … 生活チャレンジカード・生活習慣改善カード（夏休み）・保健だより・メディアアンケート
 本時 … メディアと健康
 事後 … 生活チャレンジカード

4 児童の実態

（1）生活チャレンジカードから

12月1日（月）～9日（火）の9日間で実施した生活チャレンジカードの結果、回答者24人（男子14人、女子10人）のうち、目標時間の分布については、2時間以内が約29％、2～4時間が約46％、4～6時間が約13％、6時間以上は約13％であった。目標達成度については、ノーメディアデー以外の8日間で8日が約21％、4～7日が約63％、0～3日が約17％であった。

12月4日（木）のノーメディアデーの達成度は約8％（2人）であった。

	8日	4～7日	0～3日
2時間以内	1人	5人	1人
2～4時間	3人	7人	1人
4～6時間	1人	1人	1人
6時間以上	0人	2人	1人

（2）メディアアンケートから

事前に実施したメディアアンケート（特定の日ではなく、平日どの程度メディアを利用しているかについて調査）の結果、回答者26人（男子17人、女子9人）のうち、利用時間2時間以内の児童が約8％、2～4時間の児童が約23％、4～6時間の児童が約23％、6時間以上の児童が約46％であった。

	テレビ	ゲーム	メディア合計
毎日ではない	0人	5人	0人
0～30分	2人	3人	1人
30分～1時間	1人	6人	0人
1～2時間	5人	6人	1人
2～3時間	6人	2人	2人
3～4時間	4人	1人	4人
4～5時間	7人	0人	5人
5～6時間	0人	1人	1人
6時間以上	1人	2人	12人

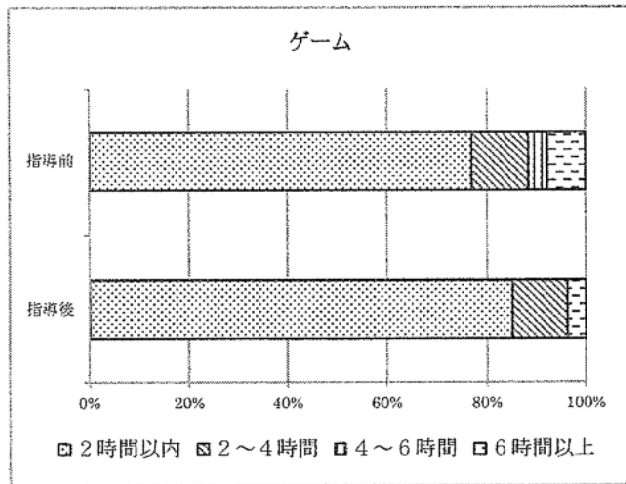
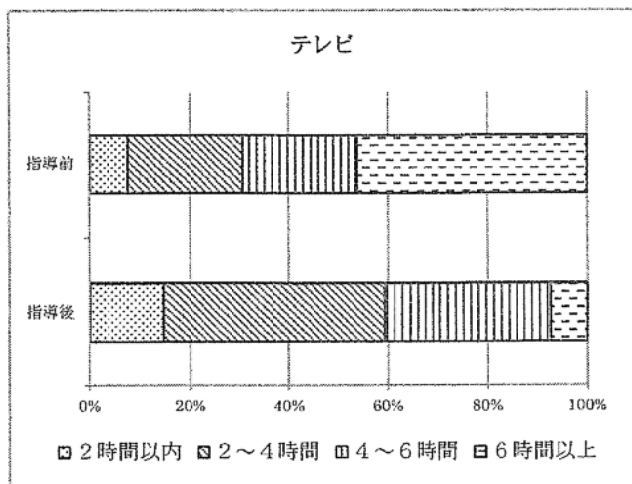
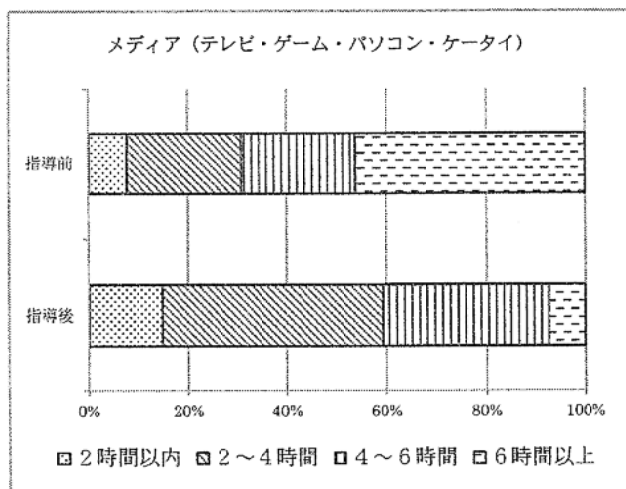
1日の生活とメディアの利用時間について考えよう

成果と課題

○成果

保健指導前と指導後に、テレビ・ゲーム・パソコン・ケータイ・メディア合計（上記4つ）の各項目について、平日どの程度利用しているかアンケートを行ったところ、以下のグラフのような結果がみられた。

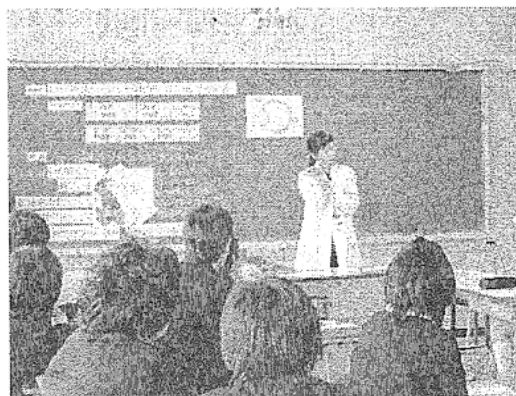
どの項目においても利用時間が短くなっており、意識の変化がみられた。メディア合計利用時間が6時間以上の児童が、指導前約46%いたが、指導後約7%まで減少した。



●課題

テレビの利用時間について、指導前に比べると短くなったものの、依然として長い傾向にあるといえる。各家庭のメディアに関するルールは、ゲームやケータイの利用時間についてのものが多い。児童だけでなく大人にとっても身近なテレビは、生活の中から切り離せないものであるが、その点もふまえながら、メディアとの関わり方を児童に考えさせていきたい。

よりよい生活習慣を身につけさせるための生活チャレンジ週間の取組については、引き続き全校毎学期行い、意識の定着をはかりたい。メディアに関する保健指導については、6年生以外の学年でも計画的に行うようにする。また、メディア指導の実践をより広く家庭に知らせていくことで、連携をはかることができるようにしたい。



評価規準 3年生

	他者とのかわり		自分とのかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○藤田学区の農家の様子や農作物に興味をもって見学することができる。	○「三藤のお宝は何か？」について、友だちと話し合うことができる。	○「三藤のお宝は何か？」について、自分の考えをもつことができる。	○学区の農家について調べたことについて、発表することができる。
つかむ	○レンコン農家の見学を通して、不思議に思ったことや興味があることを見つけてることができる。	○レンコン農家の見学で、質問をしたり感想を言ったりすることができる。	○いちご農家や玉ねぎ農家の見学の経験を生かして、レンコン農家について調べたいことを考えることができる。	○学区の農家について進んで調べることができる。
追求する	○レンコン農家の学習を通して、農家の方が今まで苦労や工夫をしてきたことや、レンコン作りに対する思いに気づくことができる。	○学区のレンコン農家について学んだことをもとに、さらに学習を深めるための質問をすることができる。	○レンコン農家の学習で調べたことを、新聞にまとめることができる。	○自分なりの課題をもって、2回目の取材をすることができる。
活かす	○藤田で作られている農作物や、藤田のために努力を続けている人たちが藤田の宝物であることに気づくことができる。	○今までの活動を整理して、わかりやすく発表することができる。	○今までの活動を振り返り、農家やJA女性部の方々が何を大切にしているかを考えることができる。	○自分たちが見つけた「三藤のお宝」について、広めることができる。

評価規準 4年生

	他者とのかわり		自分とのかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○藤田は自然や人にやさしいまちなのか、身の回りにある様々な課題について考えることができる。	○身の回りにある様々な課題について友だちや家族と話し合うことができる。	○どんなまちがやさしいまちなのか具体的に考えをもつことができる。	○身の回りにある様々な課題について、インタビューや取材をすることができる。
つかむ	○調査活動や体験活動、インタビューなど自分のまわりの人や地域の自然環境に進んでかかわることができる。	○調査活動や体験活動の中で意見や感想を言ったり、質問したりすることができる。	○調査活動や体験活動を通して、やさしいまちづくりのための課題を見つけたら、解決方法を考えることができる。	○調査活動や体験活動に進んで取り組むことができる。
追求する	○調査活動や体験活動を通して、自分のできうることを考え、各家庭で実践することができる。	○今までの調査活動や体験活動をもとに自分たちのできる活動を考え、友だちの意見との共通点や相違点を考えながら話し合うことができる。	○様々な調査活動や体験活動を通して、環境や福祉の課題とその解決方法を考えることができる。	○自分なりの解決方法を計画、実践することができる。
活かす	○自分たちのできる活動をする中で身近な環境や高齢者に進んでかかわることができる。	○今までの活動を振り返り、整理し、新聞等にまとめ発表することができる。	○自分たちの生活を見直し、自分たちのできることを考えることができる。	○やさしいまちづくりのために、地域への啓発活動や学校や家庭でできることを実践できる。

評価規準 5年生

他者とのかわり			自分とのかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○地域の方に手順や注意点を教わりながら、実際にまみまきをすることができる。	○「藤田に米作りが必要か？」について、友達と話し合うことができる。	○「藤田に米作りが必要か？」についての自分の考えとその理由をもつことができる。	○「藤田の米作り」についてあまり知らない自分に気づくことができる。
つかむ	○農家の方への取材を通して、藤田の農家の方の考え「農業の楽しさ」や「農業の問題点」に気づくことができる。	○藤田の米作りの「よい点」と「問題点」について、質問したり自分の考えを話したりすることができる。	○農家の方のお話や苗作りの体験から、「20年後の藤田の米作りがどうなるとよいか」についての提案を考えることができる。	○藤田の米作りを持続・発展させるためにはどうすればいいかを考えることができる。
追求する	○バケツ稲による実験やフィードバックでの取材を通して、提案書を作成する上で必要なことを調べるすることができる。	○フィードバックなどで、自分の調べたい内容について、質問することができる。	○自分のしたい提案に沿って、調べる内容や方法を考えたり選んだりして調べることができる。	○フィードバックなどで教わったことを、学校田やバケツ稲の栽培で活かすことができる。
活かす	○日本の農業問題が、今の自分の生活とつながっていることに気づくことができる。	○自分の提案について、資料を提示しながら相手にわかりやすく発表することができる。	○「20年後の藤田の米作りが持続するための方法」について、提案書をもとに農業後継者クラブの人と意見交換することができる。	○20年後の藤田の米作りを持続するために、今の自分にできることを考えて実践したり、自分の生活を振り返ったりすることができる。

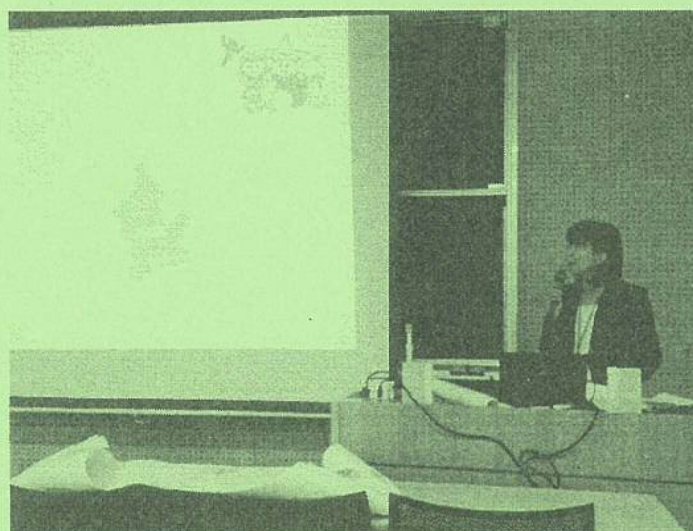
評価規準 6年生

他者とのかわり			自分とのかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○ハートオブゴールドの方から話を聞き、世界の子どもたちの諸問題について知ることができる。	○「幸せ」について、友だちと話し合うことができる。	○「幸せ」についての自分の考えとその理由をもつことができる。	○現在の生活は、世界の中では当たり前ではないということに気づくことができる。
つかむ	○NCCCの子どもたちの気持ちを理解して積極的に関わることができる。	○NCCCの子どもたちと互いに自分の思いを伝えたり質問したりする。	○ハートオブゴールドの活動を聞き、自分にできることは何か考えることができる。	○まわりに働きかけながら、カンボジア支援活動を実践することができる。
追求する	○2回目の支援活動に積極的に取り組むことができる。	○お互いの活動の「よいところ」や「難しいところ」について話し合うことができる。	○1回目の支援活動の振り返りやカンボジアの現状をもとに、「カンボジアの人たちに喜んでもらえる活動」を考えることができる。	○まわりに働きかけながら、カンボジア支援活動を実践することができる。
活かす	○自分たちが行ってきた活動を通して、社会への関心を広げることができる。	○これまで学習してきたことを、資料を提示しながら活動の報告をすることができる。	○これまでの学習を振り返り、「幸せ」についての考えをもち、これからの自分にできることを考えることができる。	○2回の支援活動やカンボジアとの交流を通して培った考えや思いを自分の生活と重ねて考え、これからの生活に活かすことができる。

ESDに関するユネスコ世界会議 サイドイベント発表の記録



ユネスコスクール全国大会 テーマ別交流会発表の記録



憲法改正に反対する声援大会

総会・総決起大会



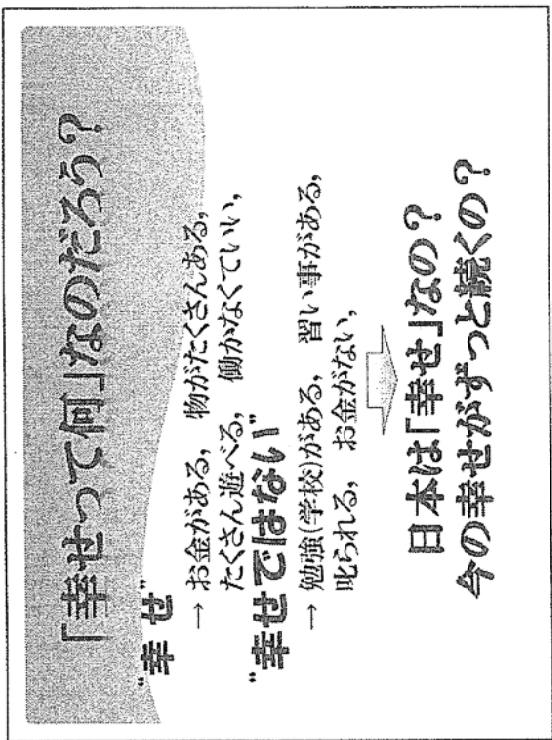
全大連全北一帯に反対する声援大会

総会・総決起大会





こんにちは。第三藤田小学校の6年生です。
これから、私たちが「総合的な学習の時間」で取り組んだ「幸せって何？」について
発表します。



みなさん、「幸せって何」だと思いますか。
お金がたくさんあることでしょうか？
物がたくさんあることでしょうか？たしかに、日本には物があふれていて、お金もた
くさんあるように思えます。
では、それなら日本は「幸せ」なのでしょうか。
そして、このままずっと今の幸せが続いていくのでしょうか。

「いろいろな国の現状を知り、
その問題について考えてみよう。」

～世界がもし100人の村だったら～

私たちが当たり前
と考える生活

↑

世界的にはかなり
違っている

↑

私たちが当たり前と
感じていること

↑

実際にはとても
慮まれている

他の国の人には何かでさげすまれているか？

何とかしていきたい!!

私たちは、6年生の総合的な学習の時間で、「幸せって何？」というテーマで学習をしています。

そこで、まず始めに「世界がもし100人の村だったら」のビデオを見ました。

私たちの多くが考えているあたりまえの普段の生活が、本当は世界的にはかなり違っているということがわかりました。

そして、自分たちが当たり前と感じていることが、実際にはとても慮まれていることに気づきました。

また一方で、「他の国の人には何かできないだろうか」「何とかしていきたい」という思いをもつようになりました。

そこで私たちは、いろいろな国の現状を調べ、その問題について考えてみることにしました。

「いろいろな国の現状を知り、
その問題について考えてみよう。」

◇学校に行きたくてもいけない子ども
◇ゴミ捨て場で生活する人たち
◇悪魔の兵器 地雷

↑

いろいろな国の
現状を知る

◎学校に行けない人たちに何か
できることがあったらしてみたい！
◎今困っている人たちのために
何かできるだろうか？

↑

その問題について
考えてみる

↑

行動力は確実に未来につながる！
～見たり考えたりするだけでなく、
実際に行動することの大切さ～

まず私たちは、「世界には学校に行きたくても行けない子ども」がたくさんいることを知りました。

また、「ゴミ捨て場で生活する人たちがいることも知りました。

そして、「悪魔の兵器」と言われる地雷が世界中に埋められたままになっていることも知りました。

私たちは、いろいろな国の現状を知り、その問題について考えていく中で、「学校に通えることに感謝をする」「恵まれた生活に感謝する」「争いのない世界をずっと未来にまで続けていきたい」と思うようになりました。

また、世界中の子どもたちが「学校に行けるようになっほしい」「お金や食料に困ることがなくなっほしい」と思うようになりました。

さらに、「学校に行けない人たちに何かできることがあったらしてみたい」「今困っている人のために何かできるだろうか」などの考えももつようになりました。

そして、そのような願いに対して、解決に向けて取り組んでいる人たちの活動を見て、「行動力は確実に未来へつながる」ことを知り、見たり考えたりするだけでなく、実際に行動することの大切さも実感しました。

「ハートオブゴールドの方のお話」

NPO法人ハートオブゴールド
・アンコールワット国際ハーブマラソン
・体育指導要領作成 ・日本語教育
・ニューチャイルドケアセンター（NCCC）



「ハートオブゴールド」の方のお話

- ☆国際協力とは分かち合い 一誰にでもできる！
- ☆カンボジアの子どもたちは勉強が大好き
- ☆人の役に立ったとき嬉しい気持ちになれる
- ☆自分のことを褒めてあげたくなるような経験を
- 日本とカンボジアの異なる現状 →想像以上に大変



5月にハートオブゴールド（※以下HG）の事務局長さんが、ゲストティーチャーとして第三藤田小学校に来てくださいました。

・国際協力とは分かち合い。自分の持っているものや抱いた気持ちを分け合うこと。だから誰にでもできる。

・カンボジアの子どもたちは勉強が大好きで勉強に必死！なぜなら生活や将来に直結するから。

・誰でもみんな人の役に立ったときうれしい気持ちになれる。

・自分のことを褒めてあげたくなるような経験をしよう！

など、いきいきと情熱的に話をしてくださいました。

私たちは、日本とカンボジアの異なる現状を教えてもらい、想像している以上にカンボジアが大変なことを知りました。

そして、支援活動の大切さをあらためて感じました。

そこで、「カンボジアの人の役に立ちたい」と思いました。

また、「カンボジアの人をもっと知り、仲良くなりたい」とも思うようになりました。

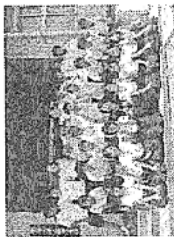
「有森裕子さんの講演」

有森裕子さん
・バルセロナオリンピックピンビック女子マラソン銀メダル獲得
・アトランタオリンピックピンビック女子マラソン銅メダル獲得
・NPO法人ハートオブゴールド代表理事



☆夢や目標はかなうと信じれば絶対実現できる！

- ◇たぐさんの国や人々とふれあい、様々な価値観を知る
- ◇一方的な「してあげる」は支援ではない。
- ◇海外に友だちをつくって世界への理解を深める。



6月には、オリンピックマラソンのメダリストでありHGの代表理事の有森裕子さんが講演に来てくださいました。

有森さんはまず、「夢や目標はかなうと信じれば絶対実現できる！と、努力を支える気持ちの大切さについて熱く語ってくださいました。

また、「たぐさんの国や人々とふれあい、様々な価値観を知ってほしい。

そして、今までにない考え方ができるようになり、共に学び、いろいろなことができるようになって欲しい」ともおっしゃっていました。

そして、「支援活動については、私もカンボジアの人に元気をもらっている。「一方的な「してあげる」は支援ではない。「海外に友だちを作って世界への理解を深めてほしい」と呼びかけられました。

私たちは有森さんから、国際社会を舞台に、自分たちの生き方や幸せをさがしながら、自分も周りも一緒に輝いて生きていくことのすばらしさを学びました。

「第一回交流活動 その①」

第三藤田小学校から♪

◎日本の教科、学校行事の紹介 ◎グループごとの自己紹介

DVDの作成

◎私たちのことを詳しく知ってもらいたい

プロフィール帳の作成

◎さらに幸せになってほしい

お守りの作成



カンボジアの人たちと仲良くなりたいたいと思った私たちは、6月にニューチャイルドケアセンター(※以下NCCC)と第一回交流活動をしました。

HGの方のお話から、カンボジアは学校行事が少なかったり日本と教科が違ったりすることを知りました。

そこで、日本の教科や学校行事について紹介することにしました。

グループごとに簡単な自己紹介もしました。

そしてこれらをDVDにまとめて見てもらうことにしました。

また、私たち一人ひとりのことをさらに詳しく知ってもらいたいと思い、プロフィール帳も作りました。

そして、これからさらに幸せになってほしいという願いを込めて、家庭科の時間に折り鶴とメッセージを中に入れた手製のお守りを作り、それらをNCCCに届けてもらいました。

「第一回交流活動 その②」

ニューチャイルドケアセンターから♪

◎ココヤシの葉で作ったキーホルダー

◎イラスト入りのプロフィール帳

ていねいに編んで作ってある！

イラストが上手！

日本語で漢字まで使っている!!

みんな真剣に日本語を勉強している

するとNCCCから、ココヤシの葉で作ったキーホルダーとイラスト入りのプロフィール帳が届きました。

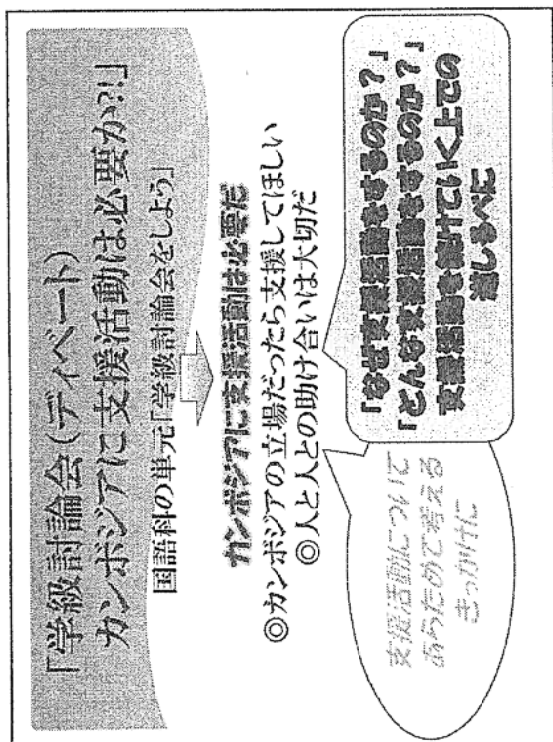
一つ一つ丁寧に編んで作られたキーホルダーはとて素敵でした。

また、プロフィール帳に描かれた上手なイラストに感動しました。

そして、自己紹介が、日本語で漢字まで使って書かれていて驚きました。

☆みんな真剣に日本語を勉強しているなあと感心しました。

カンボジアの子どもたちは勉強が大好きで、生活や将来のために必死に取り組んでいるという様子がよくわかりました。



7月には、国語科の「学級討論会」でディベートをしました。論題は「カンボジアに支援活動は必要か? 必要か? 必要か?」です。

その中で「自分たちがカンボジアの立場だったら支援してほしい」「人と人との助け合いは大切」「少しでも地雷や病気の被害を少なくしたい」と考える人がたくさん出てきました。

そして最後に「カンボジアに支援活動は必要だ」という結論が出ました。

この学級討論会は、カンボジアの支援活動および国際交流についてあらためて考えるきっかけとなりました。

そしてこの討論会で出た意見は、私たちの「なぜ自分たちは支援活動をするのか?」「どんな支援活動をするのか?」という支援活動を続けていく上での道しるべとなりました。

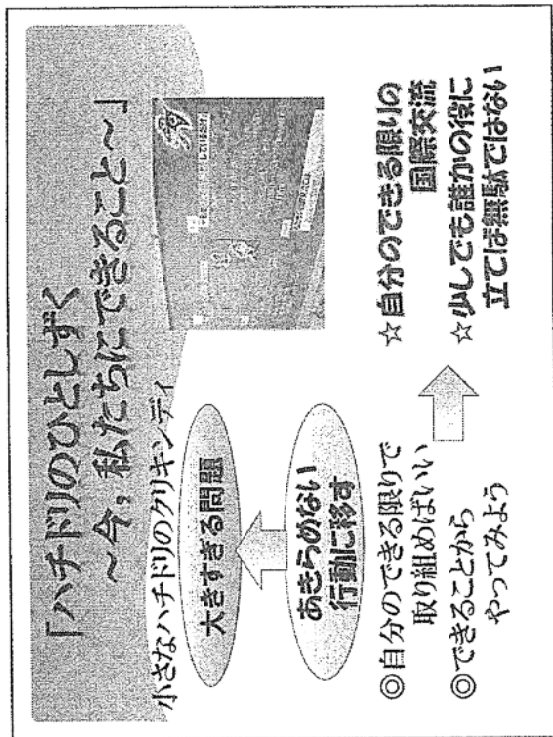
これらのことから「なぜ支援活動をするのか?」について一人ひとりが考えました。

その中で「自分たちがカンボジアの立場だったら支援してほしい」「人と人との助け合いは大切」「少しでも地雷や病気の被害を少なくしたい」と考える人がたくさん出てきました。

そして最後に「カンボジアに支援活動は必要だ」という結論が出ました。

この学級討論会は、カンボジアの支援活動および国際交流についてあらためて考えるきっかけとなりました。

そしてこの討論会で出た意見は、私たちの「なぜ自分たちは支援活動をするのか?」「どんな支援活動をするのか?」という支援活動を続けていく上での道しるべとなりました。



9月の道徳の授業では「ハチドリの一ひとしく ～今、私たちにできること～」を勉強しました。

その中で、大きな問題に対して、あきらめずに行動に移すクリキンディの気持ちを想像することで「何とかしたい」という気持ちや「行動する」ということが大切であることに気づきました。

また「自分のできる限りの範囲で取り組みたい」「できることからやってみよう」と思うようになりました。

そして、「自分のできる限りの範囲で国際交流を進めていきたい」「少しでも誰かの役に立っているのであれば、やっていることは決して無駄ではない」という思いをもつようになりました。

「第二回交流活動」
ウェブカメラを使ったNCCCとの交流 その①」
第三藤田小学校から♪
◎岡山県の昔話や郷土料理
◎児童会の行事や授業の様子



ニューチャイルドケアセンターから♪
◎歌と踊り♪

日本語で歌う
歌に感動！
とても勉強熱心
自分も見習いたい

それが
カンボジアの
発展にも
つながる

また9月にはウェブカメラを使って、NCCCとの交流活動第二弾を実施しました。声と映像で話をして、お互いを知り合い、さらに仲良くなって交流を深めることができました。

交流会では、まず第三藤田小学校から岡山県の昔話や郷土料理などを紹介しました。

児童会活動の行事や授業の様子なども紹介しました。

NCCC側からは歌と踊りを披露してもらいました。

上手な踊りと日本語で歌う歌に感動しました。

交流活動の中で、NCCCの人はとても勉強熱心で自分も見習いたいと思いました。それがカンボジアの発展にもつながるのだなと思いました。

「第二回交流活動」
ウェブカメラを使ったNCCCとの交流 その②」

◇NCCCの人の幸せ
◇雨漏りのしない家
◇ご飯が食べられること



○私たちにどって当たり前
◇争いのない国は幸せ
◇カンボジアの辛い歴史

第二回交流活動を振り返って

◎これからもっと交流をしたい ◎実際に会ってみたい
◎もっと理解していきたい
◎クメール語を勉強して交流したい

NCCCの人の感じる幸せが、雨漏りのしない家に住むことやご飯が食べられることと聞いて驚きました。

私たちが当たり前だと思っていることを幸せと感じていることに気づきました。

また、カンボジアの辛い歴史を話してもらい、争いがない国は本当に幸せな国なのだとことがわかりました。

そして、自分たちの国が他の国の人たちにとってうらやましいと思われている、そんな日本も大切にしていきたいと思えます。

最後はお互い元気に「バイバイ」のあいさつをしました。

とても明るく親しみのこもったあいさつができました。

今回の交流会によって少しずつ打ち解け合い仲良くなることができたからだと思います。

第二回交流活動の振り返りでは、「これからもっと交流をしたい」「実際に会ってみたい」「NCCC(カンボジア)の人のことをもっと理解していきたい」「次は、私たちがクメール語を勉強して交流をしたい」という意見ができました。

「第一回支援活動 その①」

◇8月の募金活動
支援活動の大変さや
充実感を感じた。



◇9月の物資支援活動
衛生的な生活を送るために
必要な、タオル・石けん、歯
ブラシと募金を集めた。



大田区保青園、第一・第二藤田小学校、
第二藤田小学校、藤田中学校
にも協力していただきました。

9月は、交流活動と並行して物資支援活動も進めてきました。その前に、8月の夏祭りでは、募金活動をしました。自分たちで実際に募金箱を持って立ち募金活動を行いました。募金をしてもらえるようお願いをしたり募金してくれた人にお礼を言ったりすることで、支援活動をするこの大変さや充実感も感じました。5月にHGの方から、日本ではありふれているタオル、石けん、歯ブラシがカンボジアでは不足しているということを聞きました。

そこで物資支援活動第一弾では、衛生的な生活をおくってもらうために必要なタオル、歯ブラシ、石けんを集めて送ることにしました。そして、それらを寄付していただけるように、チラシやポスターなどを作りみんなに呼びかけました。活動期間中は学校のあちこちに回収ボックスを置いて、朝は各学年に募金を集めにもまわりました。さらに、第一藤田小学校、第二藤田小学校、藤田中学校、大田区保青園など藤田中学校区全体にも協力を呼びかけました。みなさん快く応じていただき、物資支援に取り組んでくださいました。

「第一回支援活動 その②」

◎たくさんの人に協力してもらえてうれしい
◎たくさんの方の協力を得て支援することができ
◎一人の力は小さくても協力して取り組みれば大きな力に
☆集まった支援物資
石けん ……325個
タオル ……513枚
歯ブラシ ……378本
募 金 ……35,579円



◎集まった物を使ってもらいたい
◎役に立てたうれしい
◎ちゃんと喜んでもらえる
ことはないだろうか？



地域で集まったたくさんの方の物資を見て、こんなにたくさんの方が協力してくれたのだと嬉しい気持ちでいっぱいになりました。私たちのような子どもでも、いろいろな人の協力を得て、たくさんの方を支援することができると学びました。そして、たとえ一人の力は小さくても、たくさんの方と協力して取り組みれば大きな力になって、いろいろなことができるようになるのだなと思いました。もっとカンボジアのことを知り、交流を深めていくことで活動を広げていきたいと思っています。

今回の活動で、石けん325個・タオル513枚・歯ブラシ378本、募金は夏祭りと合わせて35,579円集まりました。集まった支援物資は、有森裕子さんが代表を務めるHGを通じて、11月末にカンボジアに送らせていただきました。第一回目の支援活動を終えて、私たちはこの活動の振り返りをしました。「集まったものをカンボジアの人たちに使ってもらいたい」「カンボジアの人たちの役に立てたうれしい」などの意見がたくさん出ました。私たちの小さな力でも喜んでもらえる活動ができたことで、「もっとカンボジアの人たちに喜んでもらえることはないだろうか」と考えました。

「ESD世界会議サイドイベント」

今年度の活動はもちろん
これまでの活動も交えて発表！



- ◎私たちの思いを伝えるー「国際交流」
- ◎私たちの活動は世界の人々に認められた♪
- ◎カンボジアがすごく大変なことに気づいてくれたら！
- ◎外国の方にたくさん意見をいただくことができた

11月7日ESD世界会議のサイドイベントに参加しました。
きれいなアトリウムでの発表では、観客席にたくさんの方々がいらして、とても緊張しました。
私たちの思いを言葉で伝えることで、国際交流につながったのではないかと思います。
発表を終えてたくさんの方々の拍手をいただいた時、私たちの活動は世界の人々に認められたのだなと思いました。
私たちの発表で、カンボジアがすごく大変なことにたくさんの方が気づいてくれたらいいなと思いました。
外国の方からたくさんの方々の意見をいただくこともできてとても嬉しかったです。
この貴重な経験をこれからの活動にも活かしていきたいと思っています。

「第2回支援活動 その①」

カンボジアの人に喜んでもらえる活動を
自分たちで考えて実践しよう

◎自分たちが考えた活動

鉛筆・青ボールペン・ノート・消しゴム・傘
軍手・くつ・帽子・ボール・バドミントン など



◎チェトラ先生の話をもとに
もう一度支援活動を考える！

まず、第一回の支援活動をもとに第二回目の支援活動を計画しました。
二回目の支援活動では、カンボジアの人に喜んでもらえる活動を自分たちで考えて実践していきます。
そのために、私たちは、まず自分たちでカンボジアの人に喜んでもらえる活動内容をしっかりと話し合っていました。
鉛筆・青ボールペン・ノート・消しゴム・傘・軍手・くつ・帽子・ボール・バドミントン など贈ることが候補に挙がりました。
そこで、自分たちが考えた活動がカンボジアの人に喜んでもらえるかどうか、ハートオブゴート東南アジア事務所・体育科教育普及事業プロジェクトリーダーのチェトラ先生にウェブカメラを使って相談しました。
そして、チェトラ先生に相談をした後、もう一度クラスで話し合いをしました。

「第二回支援活動 その②」

みなさんからいただいた募金で
カンボジアでマットを作って贈ろう♪



①日本で買うと高い
②カンボジアも儲かる
③今まで贈ったことがない
④みんなでも活用できる

↑

→

自分たちも
おれいかなんか
なれるかな

誰かの役に立ったり
喜んでもらえたりする

話し合いの結果、みなさんからいただいた募金でカンボジアでマットを作って贈ってもらうことにしました。

その理由は、

- ①日本でマットを買うと高く、輸送費も高くつく
- ②カンボジアで材料を買ってマットを作るとカンボジアも儲かる
- ③せっかく贈るなら、今まで贈ったことのないものもいい。マットは今まで贈ったことがない
- ④マットは一人だけでなくみんなでも活用できる

など、カンボジアの現状やチャエトラ先生とのお話を参考にして、満足のいく第二回物資支援ができました。

私たちは、二度の支援活動を経験して、「誰かの役に立ったり喜んでもらえたりすること、自分たちも嬉しい気持ちになるのだ」と思いました。

「ハートオブゴールドの方のお話②」

©2014年度物資支援の使われ方




☆アンコールウォーキングの参加賞に♪

◎カンボジアからの留学生の話

目標！夢！！

→

幸せ

家族のために給料が使える♪

2月にハートオブゴールドの事務局長さんが、再びゲストティーチャーとして第三藤田小学校に来てくださいました。

まず始めに、9月に集めた支援物資がどうなったのかについて教えていただきました。

今回は、「アンコールウォーキング」の参加賞として使っていただけでした。

実際に使っていたにいたっている様子を知ることができて、今後も物資支援を続けていきたいという気持ちになりました。

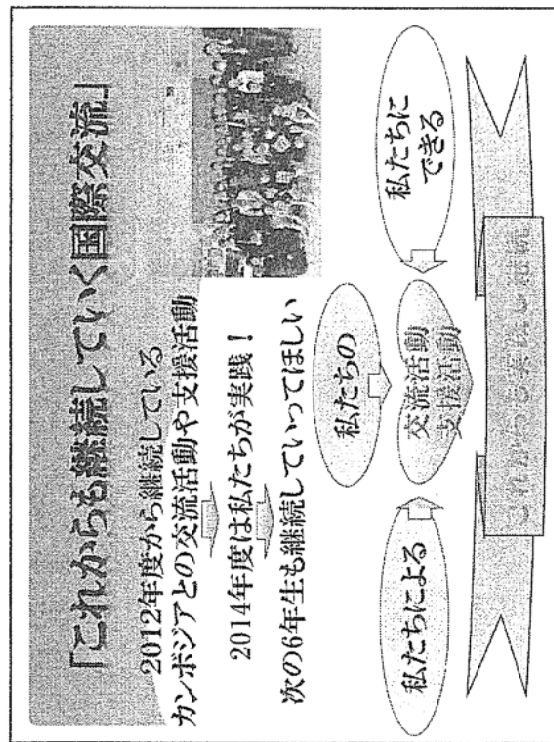
さらに、カンボジアの体育の授業の様子も教えていただきました。

教材がなく、手作りの跳び箱やマットで器械体操をしていました。

私たちの募金で新しいマットを作ってもらい、活用していただけたことが楽しみです。

また、二人のカンボジアからの留学生の話も聞かせていただきました。

やろうと思っただけ、目標のため夢のため、前だけ向いて努力していく姿勢や、「家族のために給料が使える☆ようになったことが幸せ」という幸せの考え方に感動しました。



第三藤田小学校6年生は、以前からHGと協力してカンボジアの支援活動や交流活動を行っています。

わたしたちも今、これらを引き継いで取り組んでいます。

そして、また次の6年生にも引き継いでほしいと思います。

私たちの、私たちにできる支援活動や交流活動をこれからも実践し継続していきたいと思っています。

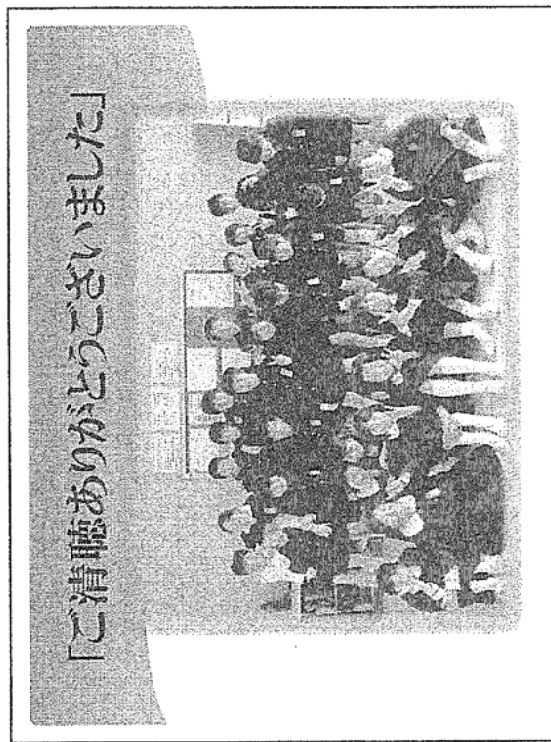


最後に、「幸せって何？」のテーマに立ち返り、自分の、自分たちの幸せについて考えていきます。

これまでの学習で、人や国によって、幸せと感ずることが同じだったり違っていたりすることがわかってきました。

また、人とのつながりのありがたさや喜びも実感しました。

これからも☆支援活動や交流活動を継続し、自分たちの思いや考えを広げたり深めたりして、私たちが考える「幸せ」を見つけていきたいと思っています。

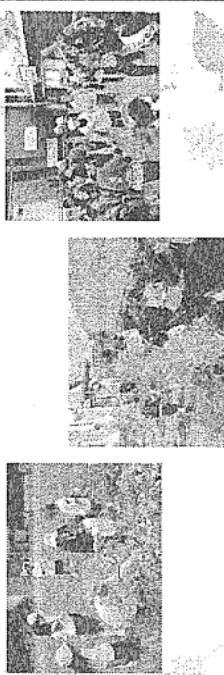


以上、第三藤田小学校の発表でした。
たくさんの方に私たちの発表を聞いていただき、私たちは幸せです。
ご清聴、ありがとうございました。

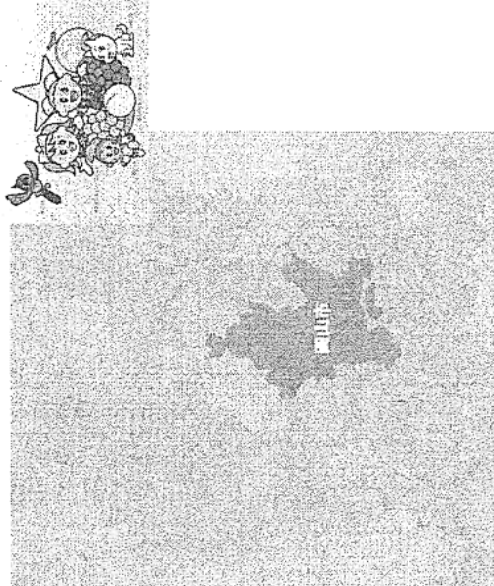
ユネスコスクール全国大会 第10分科会

研究主題

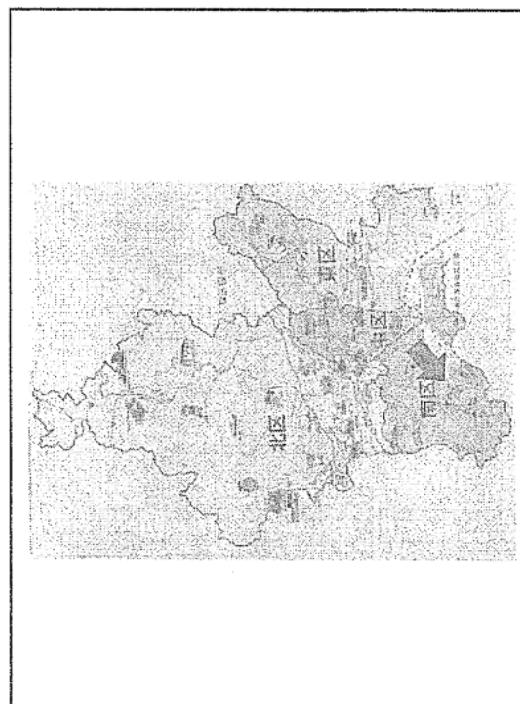
人・社会・自然など自分とつながりに関心をもち、
主体的に関わろうとする子どもの育成
～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～



岡山市第三藤田小学校



藤田市



1 主題設定の理由

(1) 藤田地区ESDの歴史

藤田地区コミュニティスクール スローガン
「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」

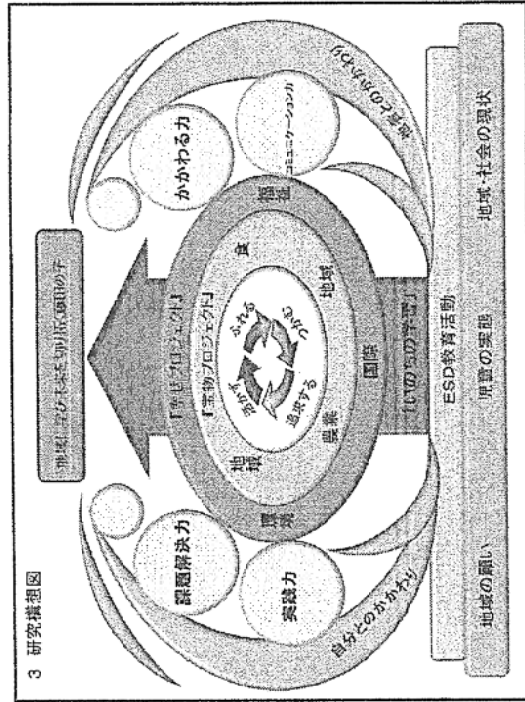
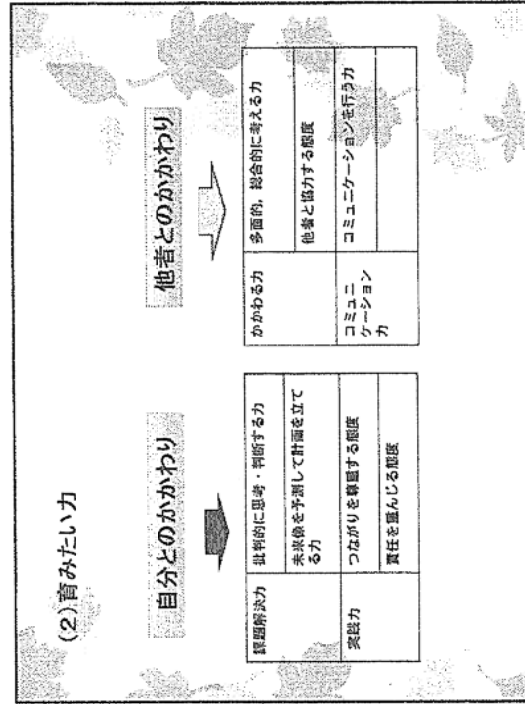
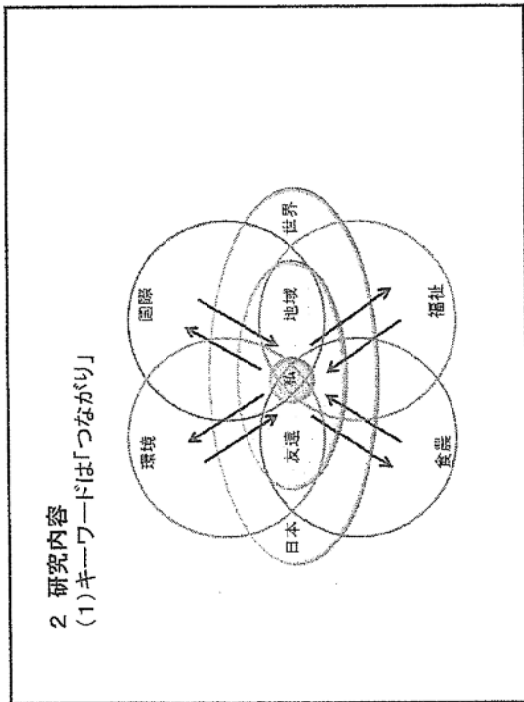
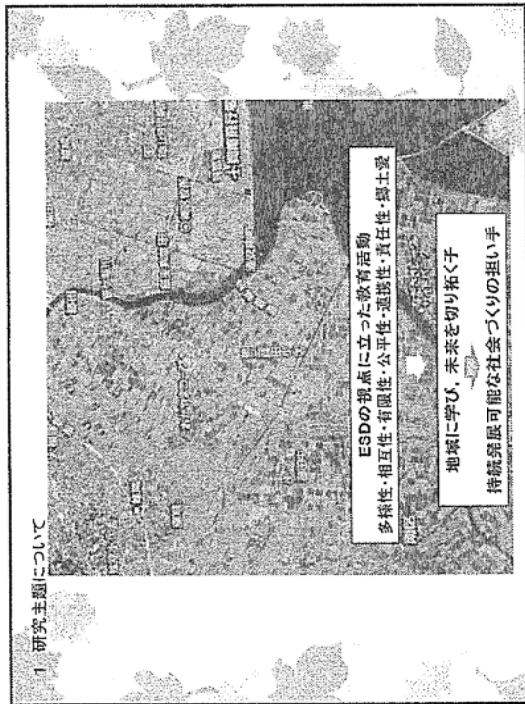
中学校区研究テーマ
つながり・感じ・育める子」の育成をめざして



ESD研修会

○藤田地区ESD地域連絡会

ESD実践発表会



4 手だての詳細

(1) 単元構想の見直し

① 単なる体験活動に終わらず、探求的な学習になること
② 自分の成長に気づいたり、自分の生活をつりかえたりできること

ふられる つかむ 追求する 活かす

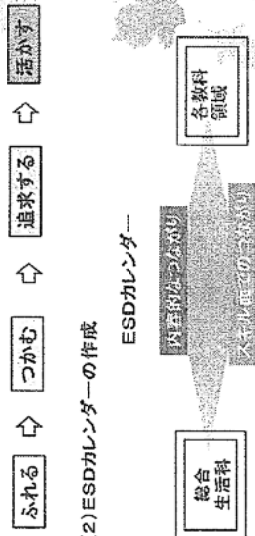
(2) ESDカレンダーの作成

ESDカレンダー――

総合生活科 内省的なつながり 各教科各領域領域
↓ ↓ ↓
大単元単元のつながり

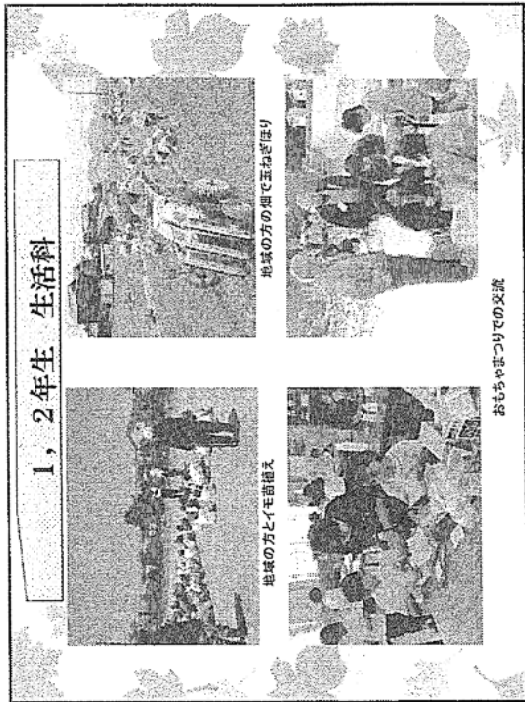
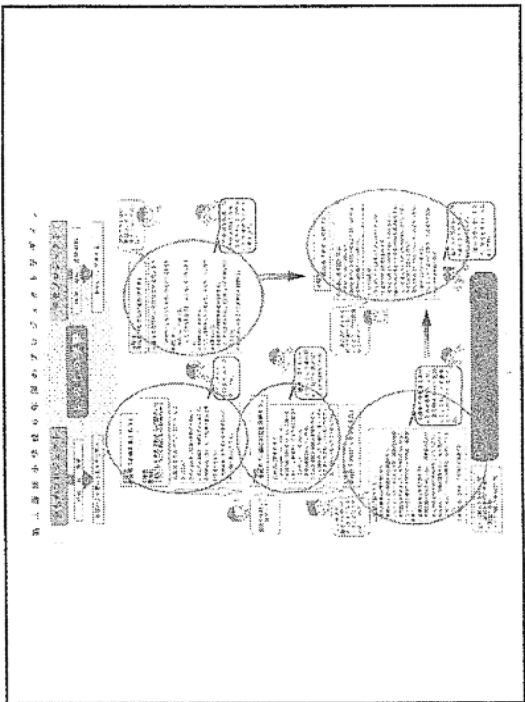
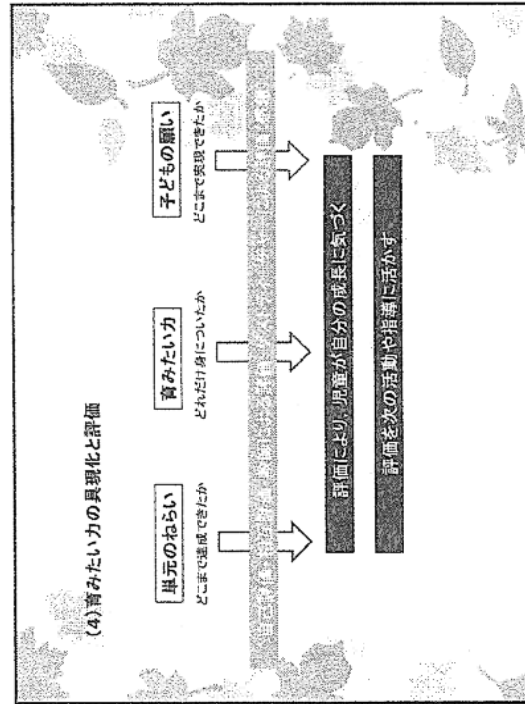
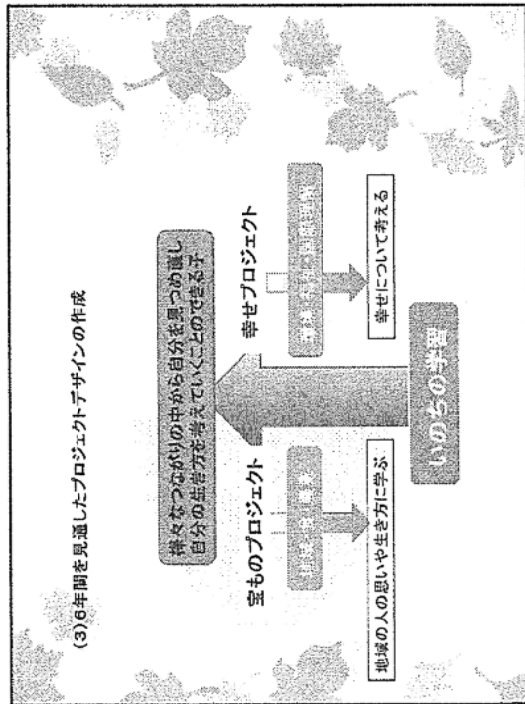
①単なる体験活動に終わらず、探求的な学習になること
②自分の成長に気づいたり、自分の生活をふりかえったりできること

- ①単なる体験活動に終わらず、探求的な学習になること
- ②自分の成長に気づいたり、自分の生活をふりかえったりできること



①	インタビュアーの仕方
②	報告書の書き方
③	インターネットで調べるときにの注意
④	グラフや表の引用の仕方
⑤	割合の求め方 それを使ったグラフの書き方
⑥	ご飯の炊き方
⑦	提案書の書き方
⑧	平均の求め方

関連内容	
A	植物の発芽と成長に必要なもの
B	現在の米作りの問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫
C	それぞれ土地にあった農業やくらし方の工夫
D	実ができるしくみ
E	水産業における問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫を米作りと比べる
F	食料生産をよりよくするためのさまざまな取り組みや、今後の問題点
G	お米のもつよさや日本食のよさ
H	先人の努力を知り、郷土を愛する気持ち
I	お米の栄養について
J	先人の努力を知り、郷土を愛する気持ち



3年生 「三藤のお宝をさがそう」



地域の農家の見学やインタビュー



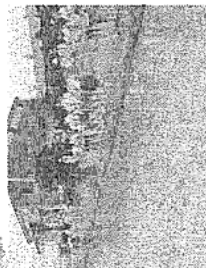
藤田で作られている豆畑やみその試食



JA女性部の活動についてインタビュー



JA女性部の活動についてインタビュー



アヒル・アイガモ農法の見学



バケツ稲による実験



フィールドワーク



お米の食べ比べ

5年生 「藤田に農業は必要か？」



大よみ点

- ・たくさん収穫できるとうれし。
- ・「おいしい」と言われるとうれしい。
- ・達成感がある。
- ・成長が楽しみ。
- ・自分で作ると安全でおいしい。

〇必要

- ・おいしいやんややおばあちゃんが守ってきたから。
- ・米作りのための干拓地だから。
- ・食料がなくなるから。
- ・田んぼの自然が好きだから。
- △必要ない
- ・田んぼより店がたくさんある方がいい。
- ・他の県でつくったものを買えばいい。

★問題点

- ・後継者がいない。
- ・もうからない。お米の値段が安い。
- ・機械にお金がかかる。
- ・減反でたくさん作れない。
- ・外国から安いお米が入ってくる。

20年後の藤田の米作りがどうなっているといいだろう？

食卓の囲みで、
お米が中心になる人が
増えるといい。

提案

和食のよさを伝えることもお米のよさを知らせてもらう

お米の量
お米の味
お米の香り
お米の見た目
お米の値段
お米の産地
お米の歴史
お米の文化
お米の未来

和食のバリエーションのよさ
お米のよさを伝えることもお米のよさを知らせてもらう

食のよさ

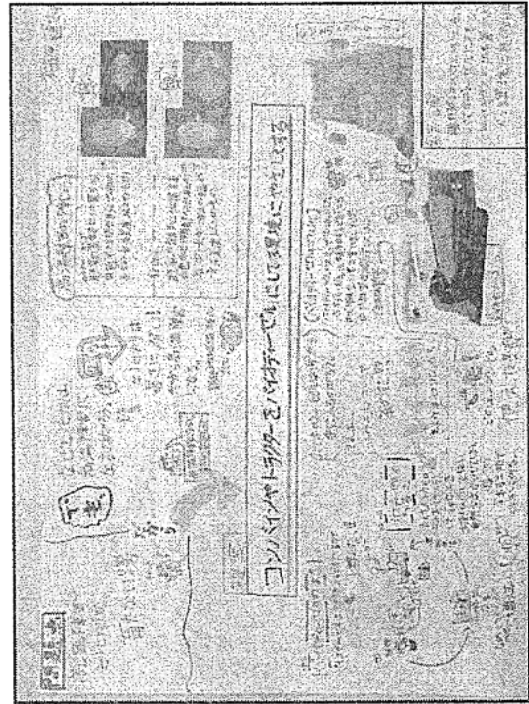
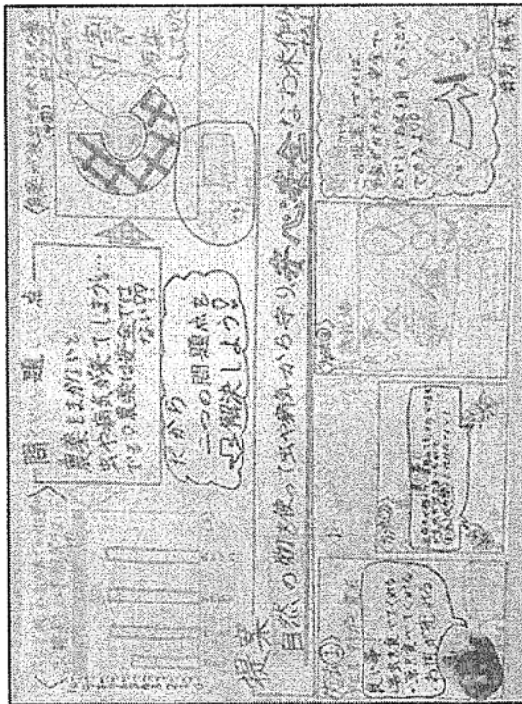
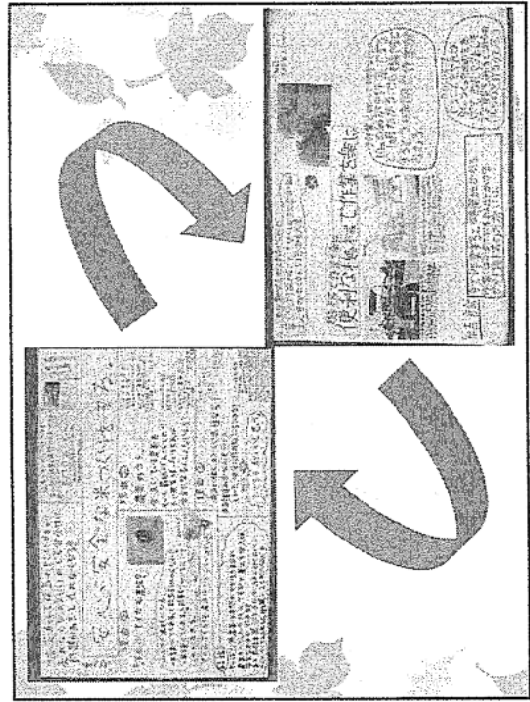
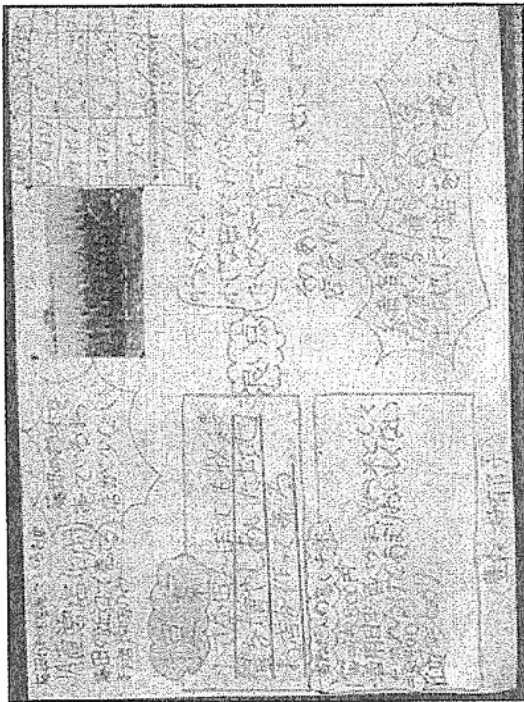
お米のよさ

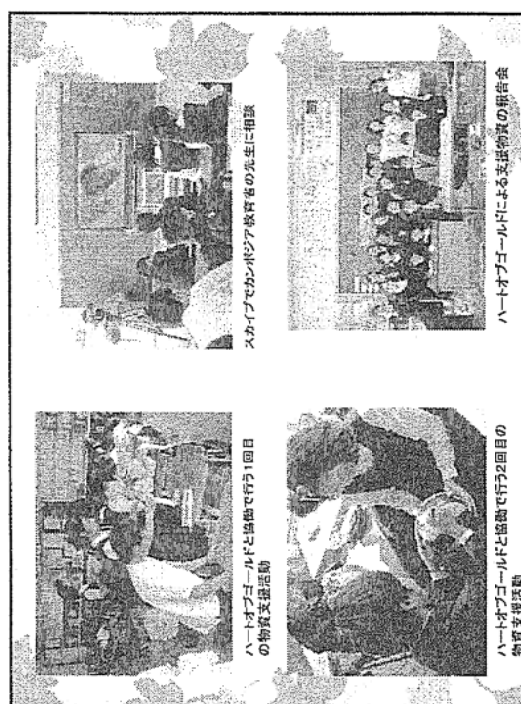
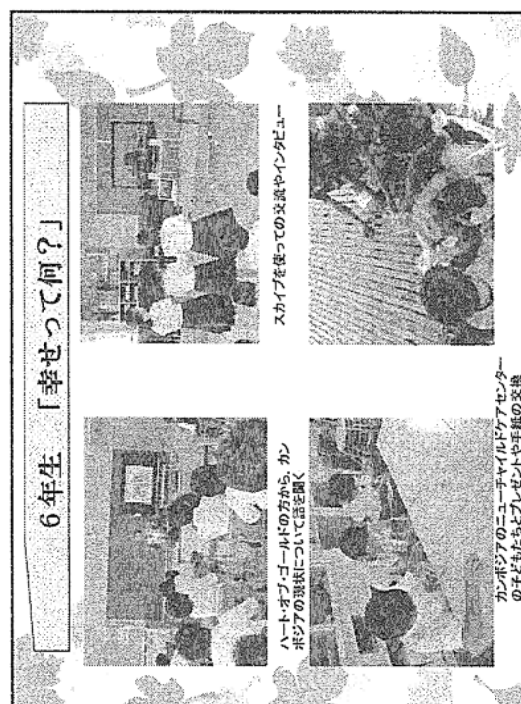
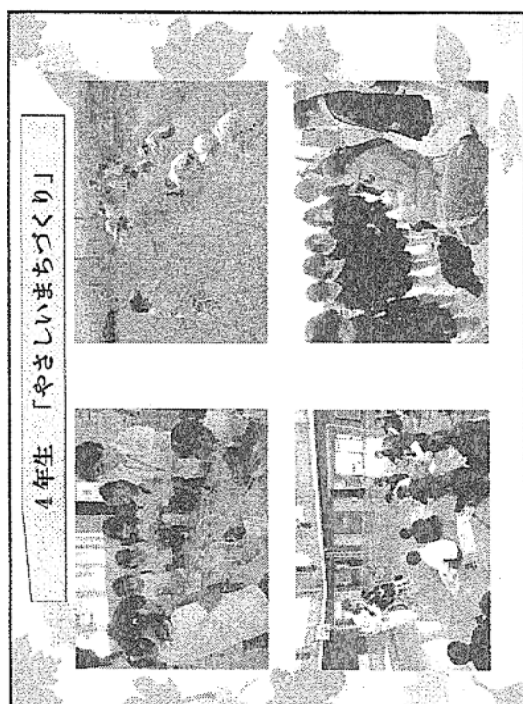
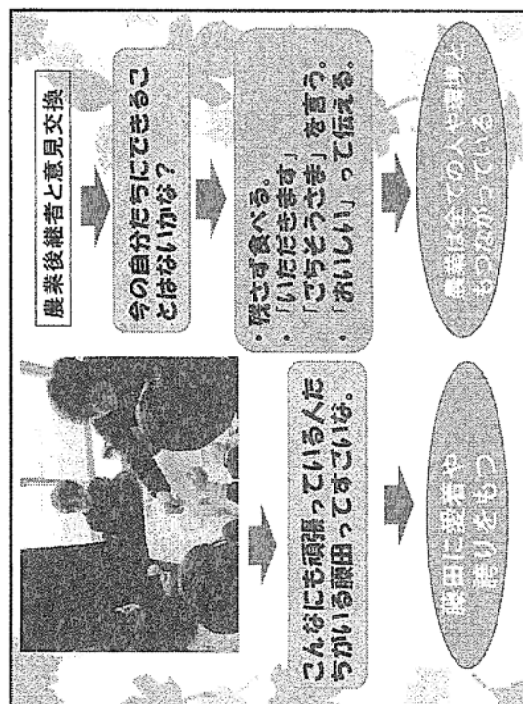
たんまりかたがたがーきくふさふさい
お米が中心になる人が増えるといい。

結論

お米のよさを伝えることもお米のよさを知らせてもらう

お米のよさを伝えることもお米のよさを知らせてもらう





成果と課題

○系統立てて行ってきた指導が、少しずつ子どもたちに根付いてきた。自分の地域を見直したり、違い存在だと思っていた問題を身近に感じたりする中で、自分の生活をふり返ったり、今の自分のできることを考えたりすることができるようになってきた。

○中学校区で共通の児童像を設定し、共通理解しながら研究を進めているので、縦の系統と横の連携を意識した学習ができていく。

○中学校区などの学校も、地域に学び、その成果を実践発表会という形で地域の方々に発信している。そのため地域の方々から学校の取組を理解した上で協力し、共に子どもたちを育てていくという気持ちが高まりつつある。また、「このような子どもたちを育てていきたい」という地域の思いも聞かれるようになってきた。

成果と課題

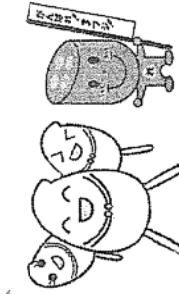
●ESDカレンダーを作成し、他教科との関連を意識して進めているが、各教科で培うべき力がまだまだ不十分であり、活用するまでには至っていない。各教科指導についても研究をしていく必要がある。

●学習した時には、自分の生活を振り返ったり、自分達にできることを考えて意欲的に実践したりすることができているが、それが生活の中に浸透し、持続していくのは難しい。

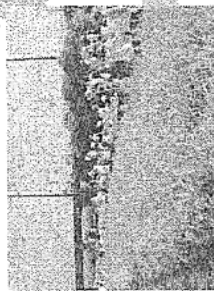
おわりに



岡山県イメージキャラクター ミコロ・ハコロ



第三瀬田小ゆるキャラ



平成26年度 校園内研究のまとめ

校 園 名 岡 山 市 立 第 三 藤 田 小 学 校
 校 園 長 名 矢 吹 憲 策
 研 究 主 任 名 板 倉 真 由 美

(学校園の研究主題)

「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、
 主体的に関わろうとする子どもの育成」
 ～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～

1 研究の内容

本校は「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成」という研究テーマのもと、E S Dの視点に立った学習指導の研究に取り組んで4年目になる。

本年度は、生活科及び食に関する指導の研究発表もあり、教科・領域とのクロスカリキュラムを中心に校内研究に取り組んだ。

○クロスカリキュラムによる授業研究

E S Dの視点に立った授業作りをし、授業公開をして研究を深めた。

10月 校内研修 第2学年「うごくうごくわたしのおもちゃ」

11月 岡山県小学校教育研究会生活科部会 第1学年「いっしょにあそぼう」

校内研修に、生活科研究部の先生方にも参加していただき、指導案検討を行った。当日は、授業公開後小グループに分かれ、単元構想や本時における手立ての工夫について、研究協議を行った。その後、岡山市立江西小学校校長鳥居先生より、指導講評をいただいた。

6月 校内研修 第5学年 総合的な学習の時間「プロジェクト八十八」

1月 岡山市小学校教育研究会 健康教育給食部 南区研究会
 第3学年 総合的な学習の時間「三藤のお宝をさがそう」

「食の大切さを知り、自分の生活にいかそうとする」という研究テーマをE S Dの視点に立って捉え、総合的な学習の時間と食育のクロスカリキュラムで 授業作りを行った。

当日は授業公開後グループ協議を行うと共に、庄内小学校岸本先生にお話をしていただき、食育についての研修を深めた。

9月 校内研修 第6学年 道徳「ハチドリのひとつく」

2月 校内研修 第5学年 国語「すいせんします」

どちらも、総合的な学習の時間とつながる単元で、E S Dカレンダーを活用した授業研究を行った。



○E S D・ユネスコスクール全国大会参加

11月に開催されたユネスコスクール全校大会の分科会で実践発表を行った。日本各地の参加者と、「本校のE S D活動がよりよくなるにはどうすればよいか」というテーマで意見交換をすることができた。

また、世界会議サイドイベントには5、6年生の児童が参加し、E S D活動についての発表を行い、世界に向けて成果を発信することができた。

○中学校区合同研修会

中学校区で小中連携を図るため、授業公開を伴う合同研修会を行った。今年度は第一藤田小学校と藤田中学校が授業公開をし、全職員が参観した。その後グループに分かれて研究協議を行ったり、各校の取組についての情報交換をしたりした。

○研究のまとめの作成

1年間の実践及び成果と課題を冊子にまとめ、来年度活用できるようにする。

2 研究の成果と課題

- ESDの視点に立ち、他の教科・領域とのクロスカリキュラムを意識した指導案作りに取り組んだ。全職員ですべての指導案について検討することができたので、ESDカレンダーの活用やクロスカリキュラム等について具体的に研究を深めることができた。また、改めて「ESDの視点に立った学習指導」についても確認することができた。
- 各学年の総合的な学習の時間については、この研究が4年目になり、これまでの積み重ねが定着してきている。さらに、毎年少しずつ改善され、児童の意識が、ねらいに近づいてきている。
- 「生活科」と「食に関する指導」この2つの研究会を行ったことで、校内の教職員だけでなく、他校の教員や学校栄養職員などの方々と意見交換をする機会をもつことができた。生活科や食に関する指導の研究をされている方々のお話も聞くことができ、研究を深めることができた。
- ESD世界会議サイドイベントに参加したことで、同じユネスコスクールのような取組について学ぶ機会をもつことができた。また、全国大会の分科会で日本各地の様々な立場の方から、多様な視点で本校の取組についての意見をいただいたことで、来年度に向けての課題が見つかった。
- 中学校区の全教員で同じ授業を参観して研究協議を行う貴重な機会をもつことができた。小中学校の教員が互いに授業を見合い、意見交換をすることで、小中で連携していくためにはどんなことが必要かなどの課題が見つかった。



- 生活科研究会、食育研究会、ESD世界会議及び全国大会と、大きな研究発表が重なったため、せっかく研究・公開した一つ一つの授業について十分に検討し、深めることができなかった。研究組織を整え、見通しをもって進めることができるように計画を立てていきたい。
- 各教科で培うべき力が十分についていないため、総合的な学習の時間に活用することが難しい。ESDカレンダーを見直し十分に活用することで、クロスカリキュラムによる授業を充実させ、各教科・領域で培うべき力をつけるための研究を進めていきたい。
- これまでの研究は、どちらかと言えば「総合的な学習の時間」に重点を置いたものになり、職員全員の研究になりにくかった。来年度は、研究をもっと焦点化し、全員で足並みをそろえて取り組めるようにしていきたい。
- 中学校区でめざす子ども像を設定し、研究を行ってきたが、それぞれの学校での新たな課題が見えてきたため、足並みが揃わなくなっている。今後の研究に向け、中学校区の児童・生徒の実態を改めて洗い出し、めざす子ども像やつきたい力などを見直し、研究の方向性を話し合い、共通理解する必要がある。

おわりに

「人・社会・自然などとの自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成」というテーマのもと日々研鑽を重ねた本校の研究も今年で4年目を迎えました。

本校の研究の根幹は、E S Dの6つの視点である、①多様性 ②相互性 ③有限性 ④公平性 ⑤連携性 ⑥責任性に、⑦郷土愛を加えた7つの視点に立脚して、地域・食・農業の学習を通して、自分の生き方を振り返るとともに、環境・福祉・国際理解について自ら進んで学ぶ中で、自分にできることは何かを一人一人の子どもたちに考えさせることにあります。

また、今年度は、11月のE S Dに関する世界会議サイドイベントへの5・6年生児童の参加・発表、生活科及び食に関する指導の研究発表など、重要な会議や研究会において本校の研究テーマにもとづく実践を国内外の多くの皆様に情報発信することができました。このような貴重な機会をいただいたことは、本校の研究実践進める上で大きな前進であったととらえています。

私たちは、この研究集録に示された研究理論をもとに、第三藤田小学校の児童一人一人が、藤田という地域（ふるさと）を愛し、藤田から日本、さらには世界へ向けて課題追求に主体的に関わっていくことができるようにさらに研究を深化させることが重要であると考えます。そして、自分自身の生き方を振り返りながら、自分の周囲に存在する様々な課題や問題から目をそらすことなく、世界の人々とともに力を合わせて自らの世界を切り拓くことのできる児童の育成に今後とも力を注いでいくことの大切さを改めて実感しています。

そのためにも、校内研修のより一層の充実を図るとともに、教師一人一人が英知を結集して授業力の向上に努め、日々自己研鑽を重ねていかなければならないと思います。

今後とも皆様のご指導並びにご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成27年3月

岡山市立第三藤田小学校

教 頭 石 田 容 一

研究同人

矢吹 憲策	石田 容一	板倉 真由美	小野 道子
山本 龍太郎	松本 容子	定金 歩美	菅井 憲人
黒石 浩史	土佐 九二男	加治 紀江	平松 つばさ
尾島 朋子	小野 綾子	十河 恵子	平本 幸恵
大原 順子	瀧川 伸一	藤原 純子	森山 純子
石井 和恵	小田 泰子	田尾 由美子	



+ Education for
Sustainable
Development



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO Associated Schools